

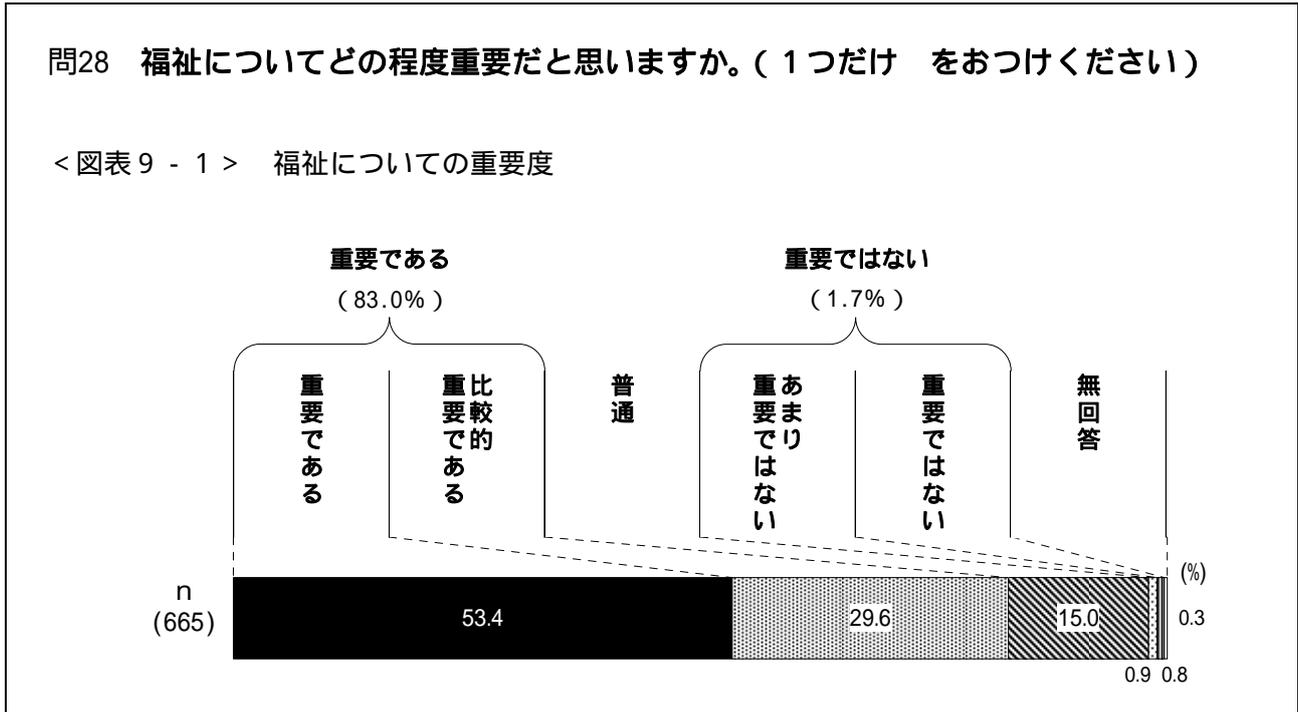
9 . 福祉のための取り組み

高齢の方、障害のある方など、すべての区民が住みなれた地域で、安心して日常生活を送れることが大切です。

区では、総合的な相談の充実、在宅サービスや施設サービスの質と量の確保、地域の支えあいの活動への支援などを行っています。

(1) 福祉についての重要度

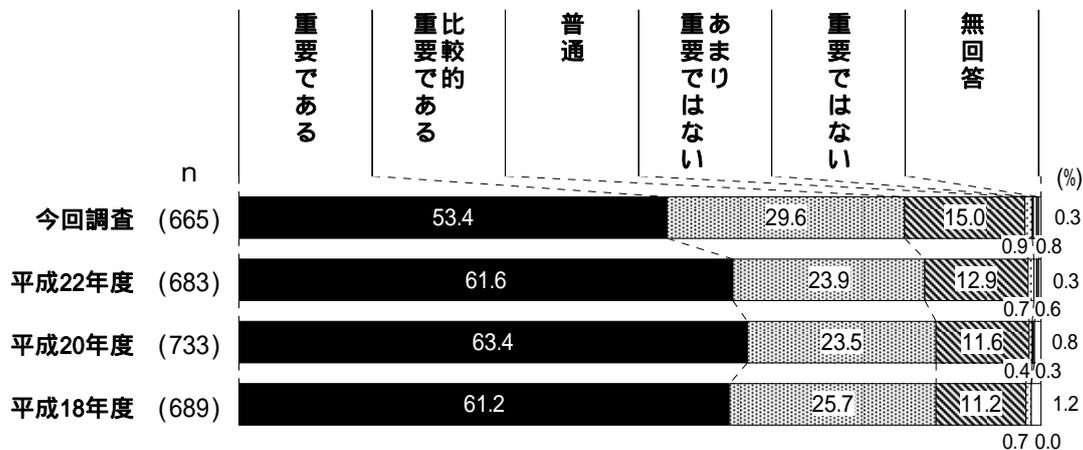
《重要である》が 8 割台半ば



福祉についての重要度を聞いたところ、「重要である」(53.4%)が5割台半ばと最も高く、これに「比較的である」(29.6%)を合わせると、《重要である》は83.0%で8割台半ばとなっている。一方、《重要ではない》(「重要ではない」と「あまり重要ではない」の合計)は1.7%である。(図表9-1)

過去の調査結果と比較すると、《重要である》(83.0%)は、平成22年度(85.5%)より2.5ポイント減少している。(図表9-2)

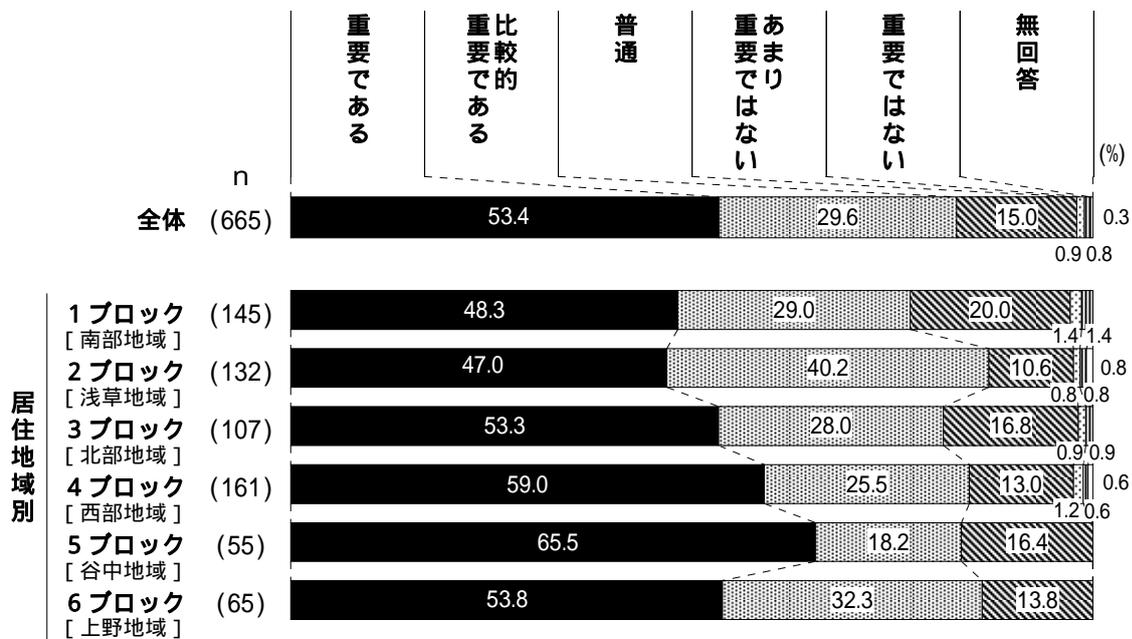
<図表9-2> 福祉についての重要度 経年比較



居住地域別で見ると、《重要である》は、1ブロック[南部地域](77.3%)で唯一8割未満と低くなっている。「重要である」に限れば、5ブロック[谷中地域](65.5%)で6割台半ばと高くなっている。

(図表9-3)

<図表9-3> 福祉についての重要度 居住地域別

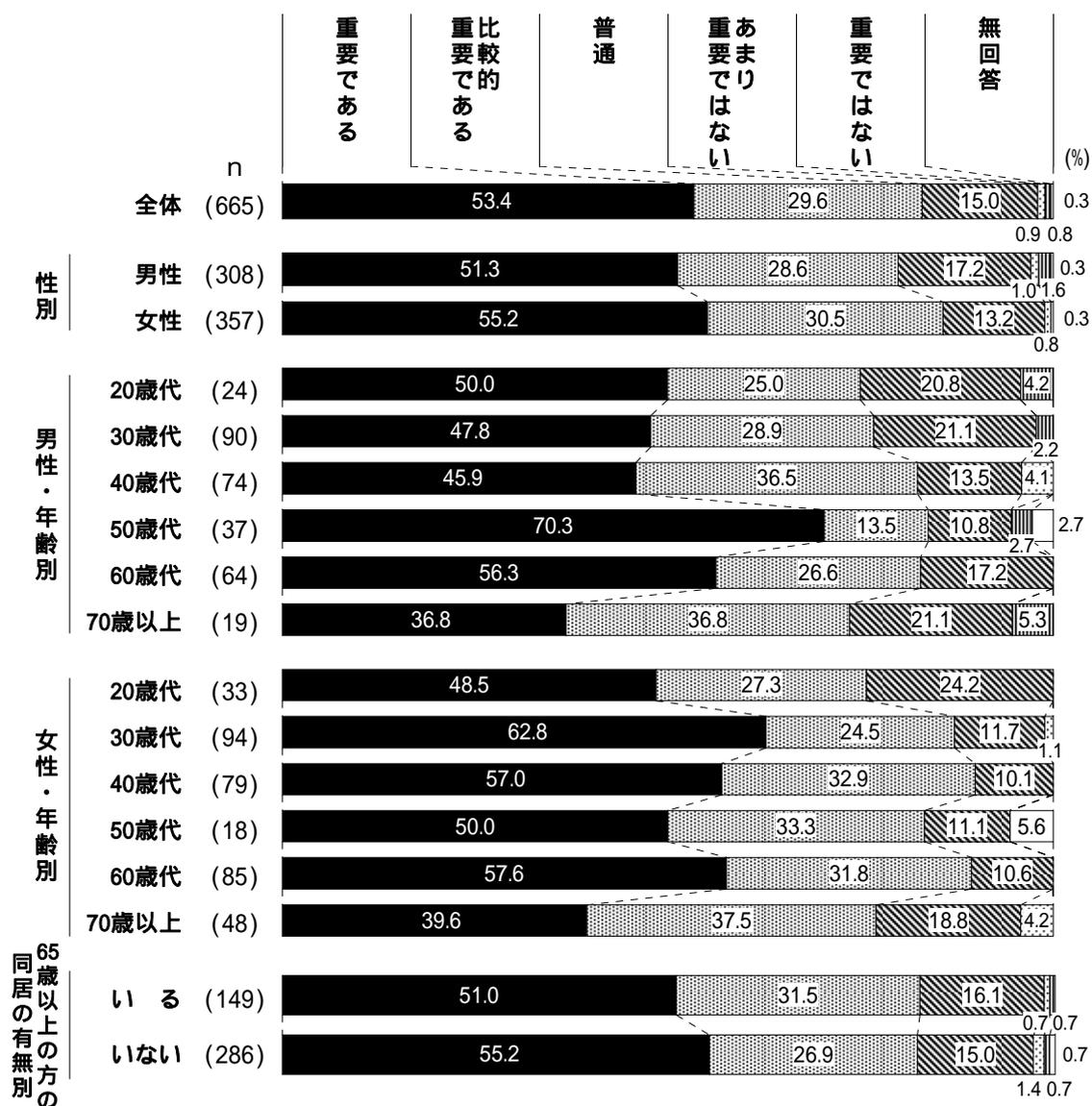


性別でみると、《重要である》は、女性（85.7%）の方が男性（79.9%）より5.8ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、《重要である》は、女性の30歳代（87.3%）、40歳代（89.9%）、60歳代（89.4%）で約9割と高くなっている。

65歳以上の方の同居の有無別でみると、大きな違いはみられない。（図表9 - 4）

<図表9 - 4> 福祉についての重要度 性別 / 性・年齢別 / 65歳以上の方の同居の有無別



（注）男性の“20歳代”と“70歳以上”、女性の“50歳代”については「n」（該当者数）が少ないため、具体的なコメントは行わず、参考資料とする。

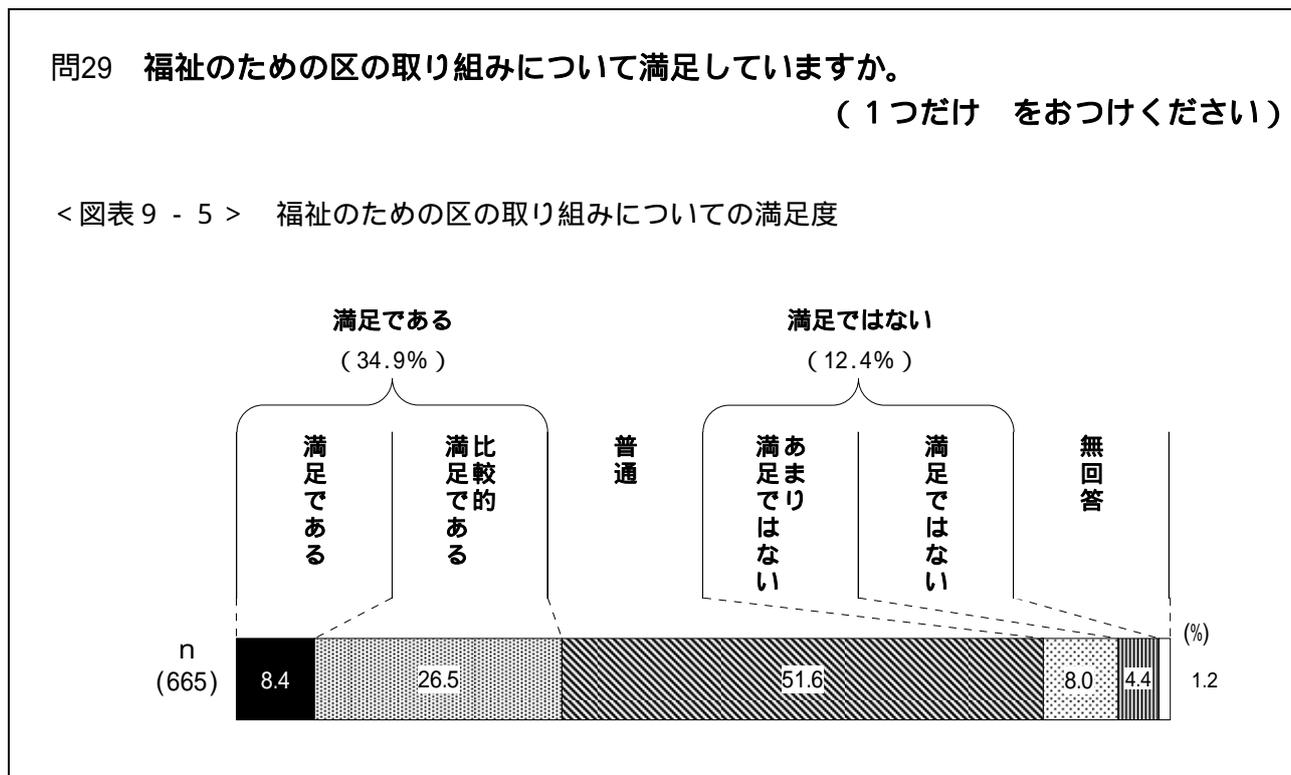
(2) 福祉のための区の取り組みについての満足度

「普通」が5割を超える

問29 福祉のための区の取り組みについて満足していますか。

(1つだけをおつけください)

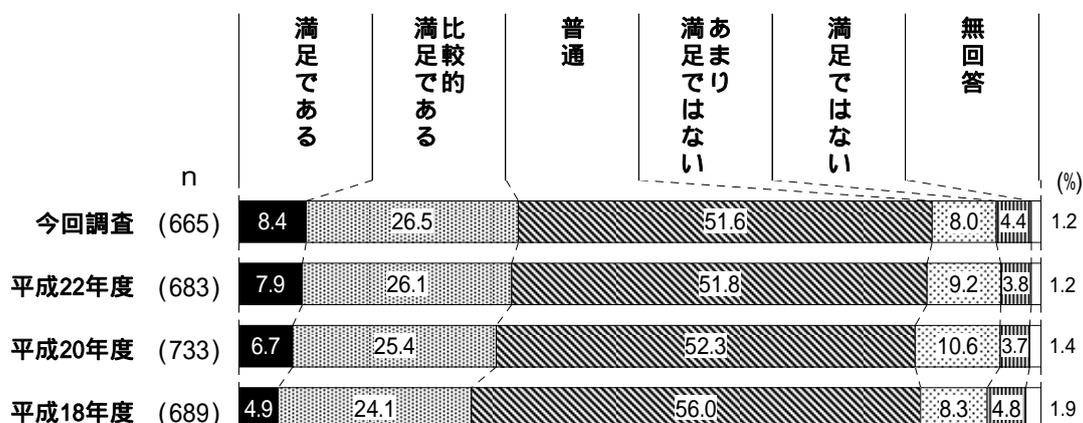
<図表9-5> 福祉のための区の取り組みについての満足度



福祉のための区の取り組みについての満足度を聞いたところ、「普通」(51.6%)が5割を超えて最も高くなっている。《満足である》(「満足である」と「比較的満足である」の合計)は34.9%、《満足ではない》(「満足ではない」と「あまり満足ではない」の合計)は12.4%となっている。(図表9-5)

過去の調査結果と比較すると、《満足である》(34.9%)は、平成18年度(29.0%)以降増加傾向がみられる。(図表9-6)

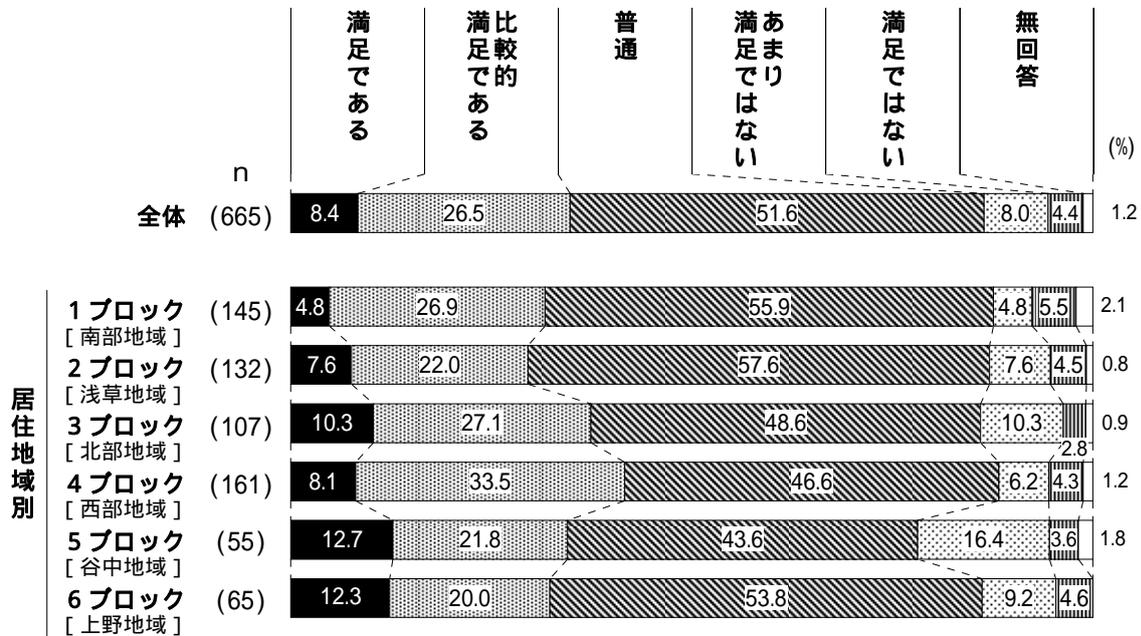
<図表9-6> 福祉のための区の取り組みについての満足度 経年比較



居住地域別でみると、《満足である》は、4ブロック[西部地域]（41.6%）で4割を超えて高くなっている。一方、《満足ではない》は、5ブロック[谷中地域]（20.0%）で2割と高くなっている。

（図表9 - 7）

<図表9 - 7> 福祉のための区の取り組みについての満足度 居住地域別

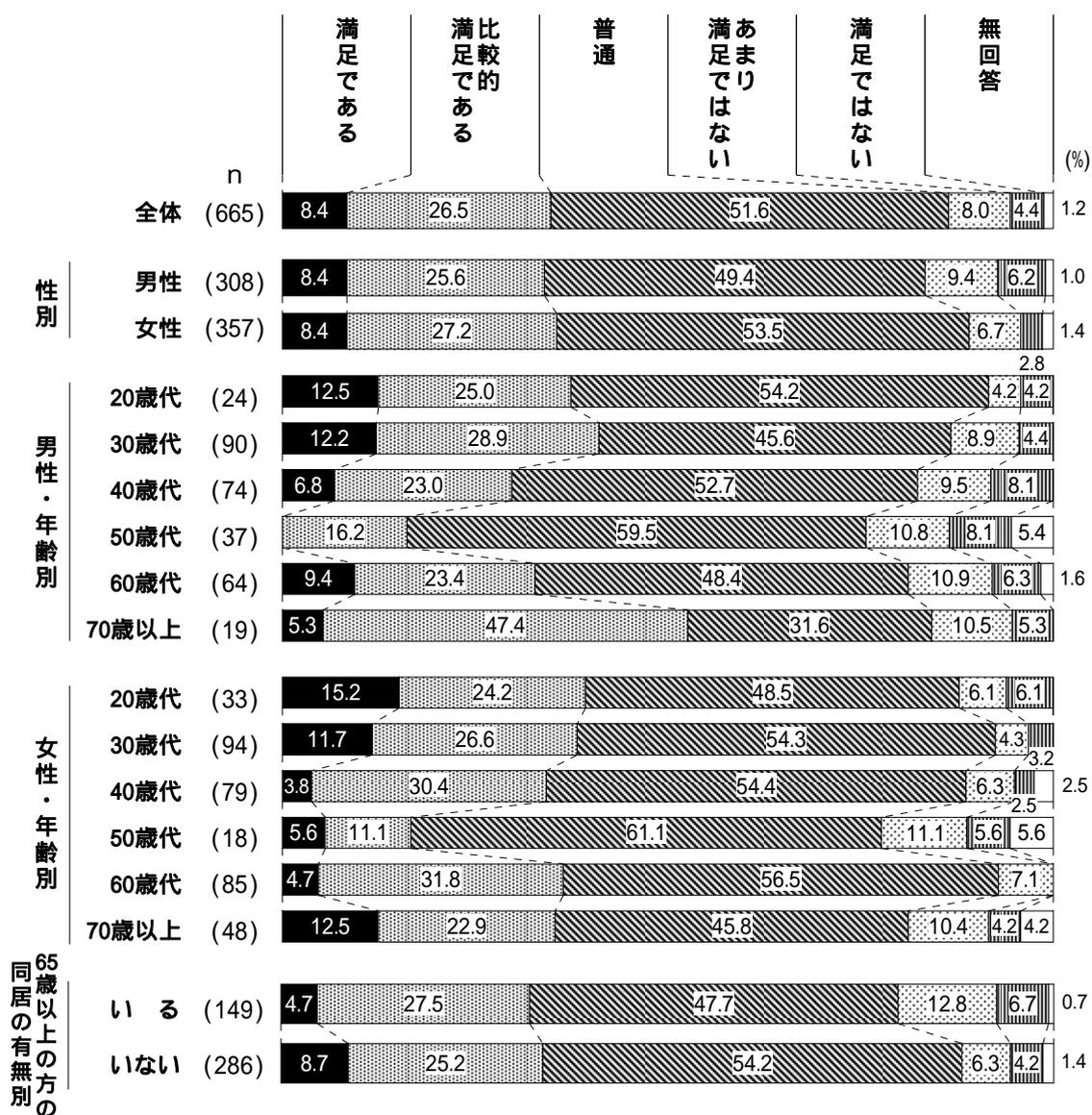


性別でみると、《満足ではない》は、男性（15.6%）の方が女性（9.5%）より6.1ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、《満足である》は、男性の30歳代（41.1%）、女性の20歳代（39.4%）と30歳代（38.5%）で4割前後と高くなっている。

65歳以上の方の同居の有無別でみると、《満足ではない》は、65歳以上の方がいる人（19.5%）の方がいない人（10.5%）より9.0ポイント高くなっている。（図表9 - 8）

<図表9 - 8> 福祉のための区の取り組みについての満足度 性別 / 性・年齢別 / 65歳以上の方の同居の有無別



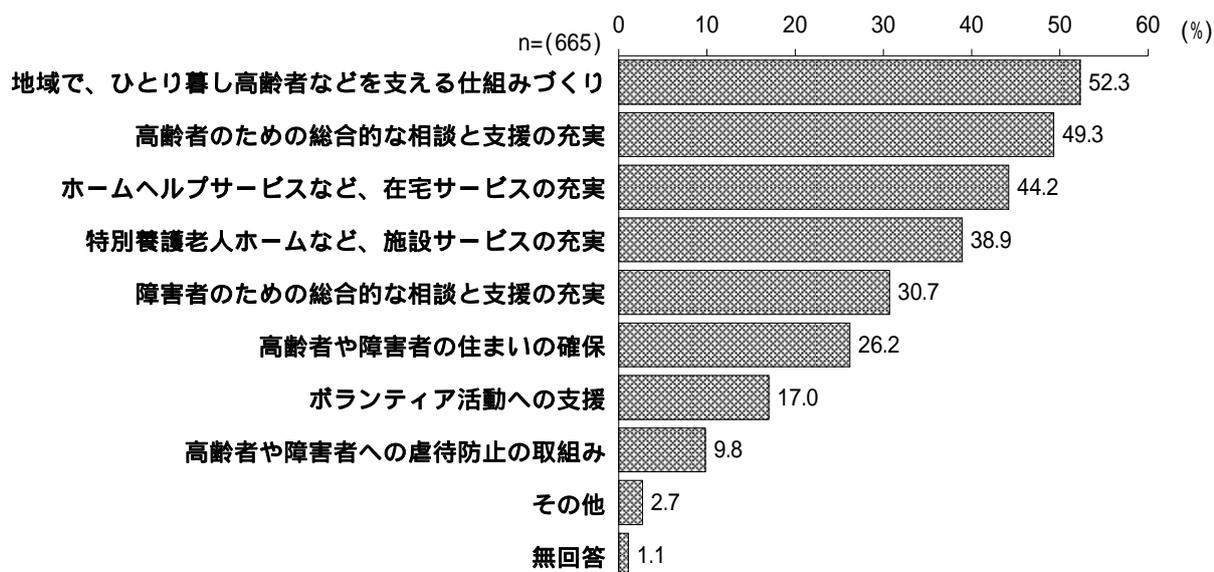
(注) 男性の“20歳代”と“70歳以上”、女性の“50歳代”については「n」(該当者数)が少ないため、具体的なコメントは行わず、参考資料とする。

(3) 福祉のための取り組みとして大切なもの

「地域で、ひとり暮らし高齢者などを支える仕組みづくり」が5割を超える

問30 福祉施策を推進するため、どのような取り組みが大切とお考えでしょうか。
(3つまで をおつけください)

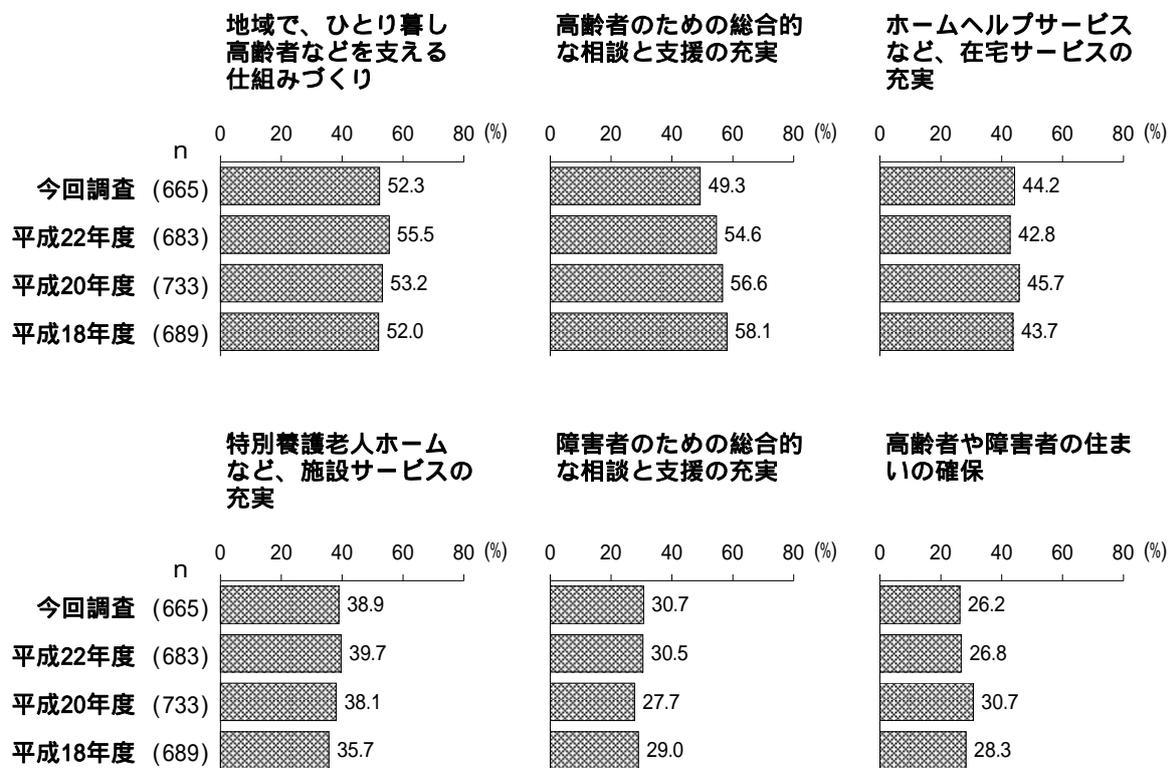
<図表9 - 9> 福祉のための取り組みとして大切なもの(複数回答)



福祉のための取り組みとして大切なものについて聞いたところ、「地域で、ひとり暮らし高齢者などを支える仕組みづくり」(52.3%)が5割を超えて最も高くなっている。次いで、「高齢者のための総合的な相談と支援の充実」(49.3%)が約5割、「ホームヘルプサービスなど、在宅サービスの充実」(44.2%)が4割台半ばとなっている。(図表9 - 9)

過去の調査結果と比較すると、「高齢者のための総合的な相談と支援の充実」(49.3%)は、平成18年度(58.1%)以降減少傾向がみられる。(図表9 - 10)

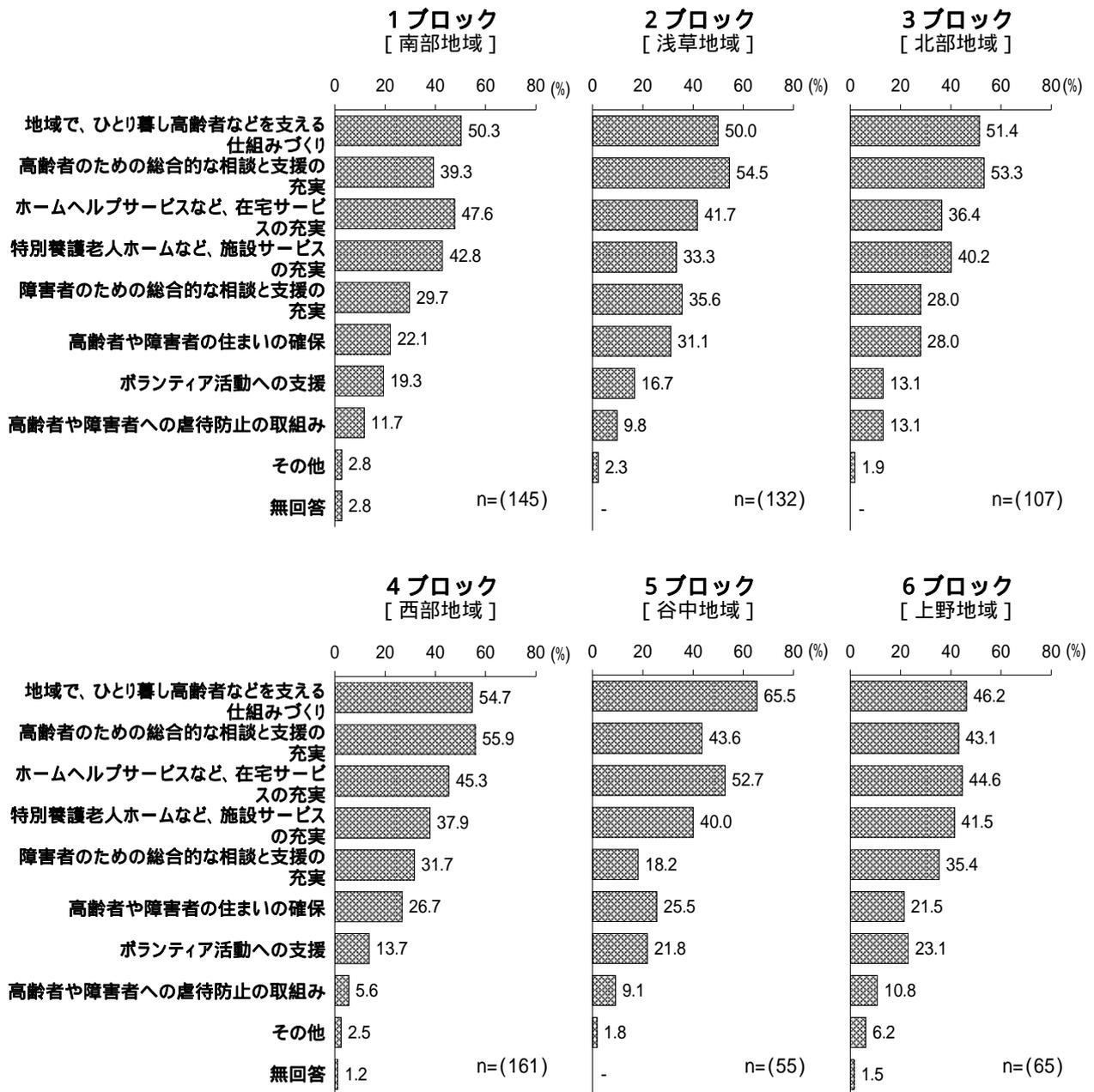
<図表9 - 10> 福祉のための取り組みとして大切なもの 経年比較(上位6項目)



平成18年度から平成22年度は「障害者への総合的な相談と支援の充実」、今回調査は「障害者のための総合的な相談と支援の充実」

居住地域別でみると、5ブロック[谷中地域]では、「地域で、ひとり暮らし高齢者などを支える仕組みづくり」(65.5%)が6割台半ば、「ホームヘルプサービスなど、在宅サービスの充実」(52.7%)が5割を超えて全地域中最も高くなっている。(図表9-11)

<図表9-11> 福祉のための取り組みとして大切なもの 居住地域別

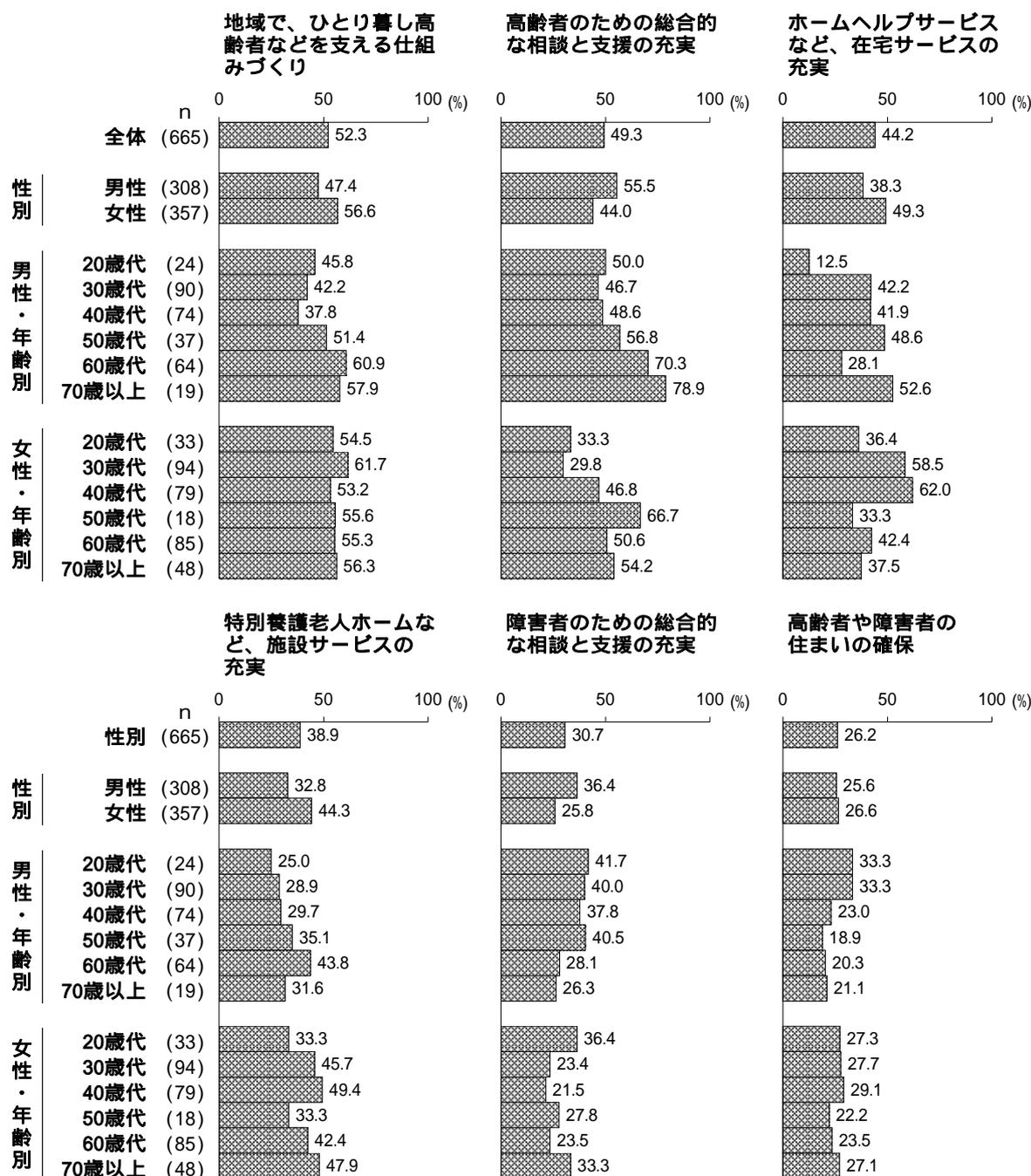


性別でみると、「地域で、ひとり暮らし高齢者などを支える仕組みづくり」は、女性（56.6%）の方が男性（47.4%）より9.2ポイント、「ホームヘルプサービスなど、在宅サービスの充実」は、女性（49.3%）の方が男性（38.3%）より11.0ポイント、「特別養護老人ホームなど、施設サービスの充実」は、女性（44.3%）の方が男性（32.8%）より11.5ポイント高くなっている。一方、「高齢者のための総合的な相談と支援の充実」は、男性（55.5%）の方が女性（44.0%）より11.5ポイント、「障害者のための総合的な相談と支援の充実」は、男性（36.4%）の方が女性（25.8%）より10.6ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「地域で、ひとり暮らし高齢者などを支える仕組みづくり」は、男性の60歳代（60.9%）と女性の30歳代（61.7%）で6割台と高くなっている。「高齢者のための総合的な相談と支援の充実」は、男性ではおおむね年齢が上がるほど割合も高くなっている。また、「ホームヘルプサービスなど、在宅サービスの充実」は、女性の30歳代（58.5%）と40歳代（62.0%）で高くなっている。

（図表9 - 12）

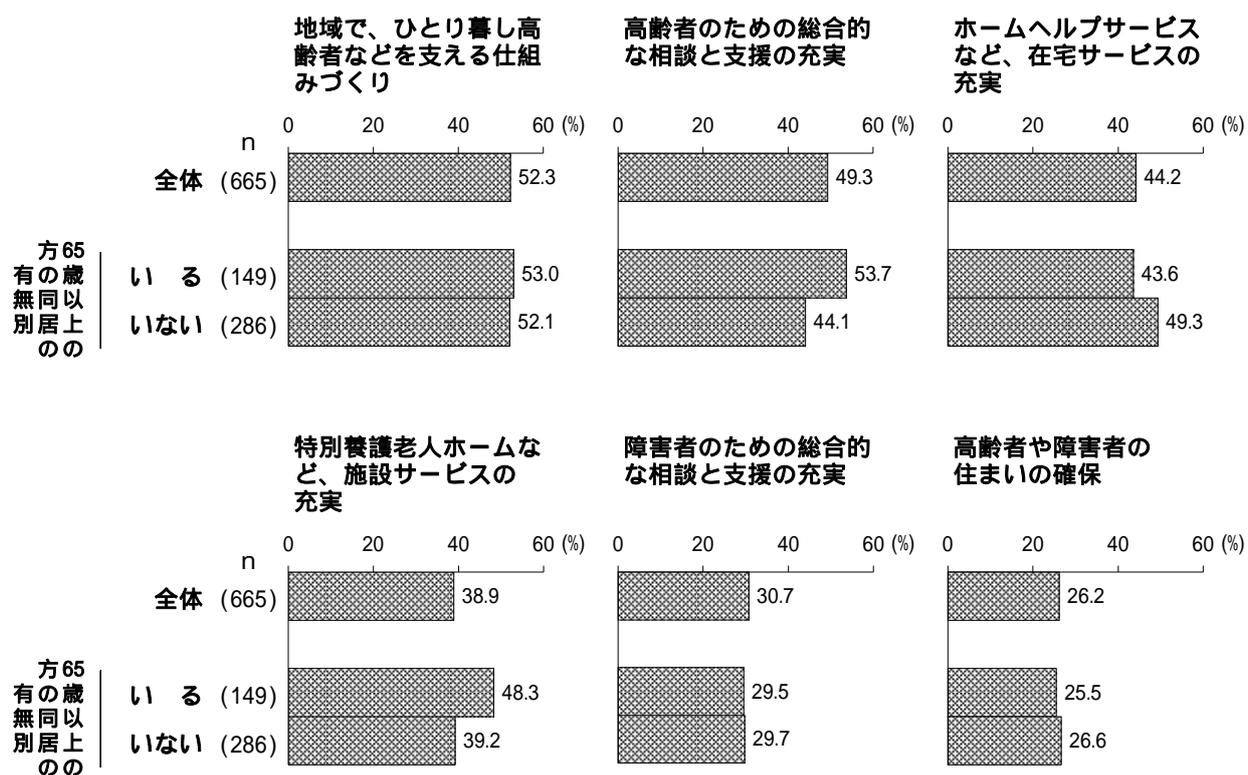
<図表9 - 12> 福祉のための取り組みとして大切なもの 性別/性・年齢別（上位6項目）



（注）男性の“20歳代”と“70歳以上”、女性の“50歳代”については「n」（該当者数）が少ないため、具体的なコメントは行わず、参考資料とする。

65歳以上の方の同居の有無別で見ると、「高齢者のための総合的な相談と支援の充実」は、65歳以上の方がいる人（53.7%）の方がいない人（44.1%）より9.6ポイント高くなっている。また、「特別養護老人ホームなど、施設サービスの充実」も、65歳以上の方がいる人（48.3%）の方がいない人（39.2%）より9.1ポイント高くなっている。（図表9 - 13）

<図表9 - 13> 福祉のための取り組みとして大切なもの 65歳以上の方の同居の有無別
（上位6項目）



10. 子育てのための取り組み

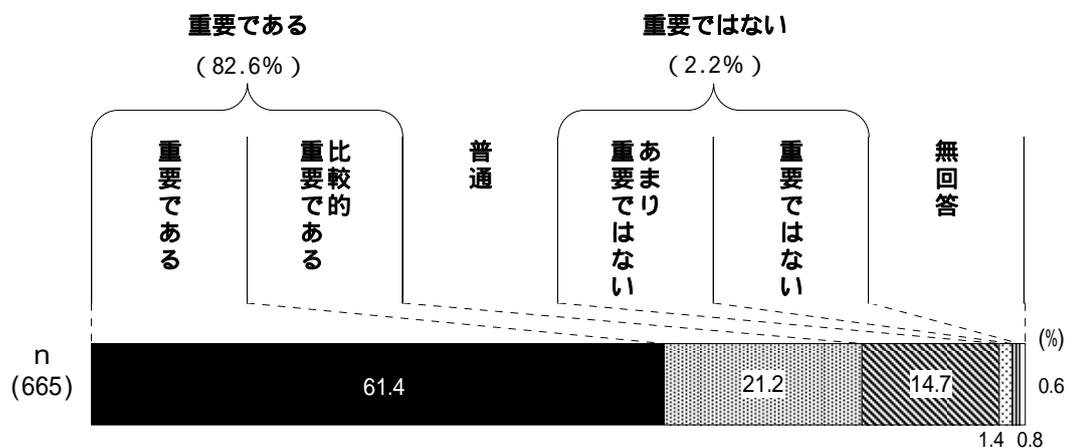
少子化が進行する中、家庭や地域での子育てを積極的に支援していくことが大切です。
 区では、若い世代の育児不安の解消、地域での子育て支援、保育園の整備、子どもの医療費の助成などを行っています。

(1) 子育てについての重要度

《重要である》が8割を超える

問31 子育てについてどの程度重要だと思いますか。(1つだけをおつけください)

<図表10 - 1> 子育てについての重要度

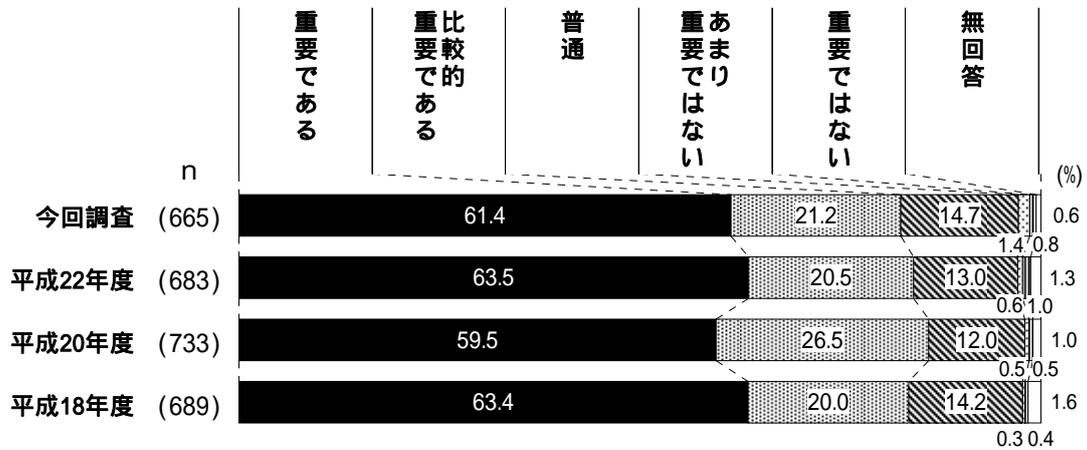


子育てについての重要度を聞いたところ、「重要である」(61.4%)が6割を超えて最も高くなっている。これに「比較的である」(21.2%)を合わせると、《重要である》は82.6%で8割を超えている。一方、《重要ではない》(「重要ではない」と「あまり重要ではない」の合計)は2.2%である。

(図表10 - 1)

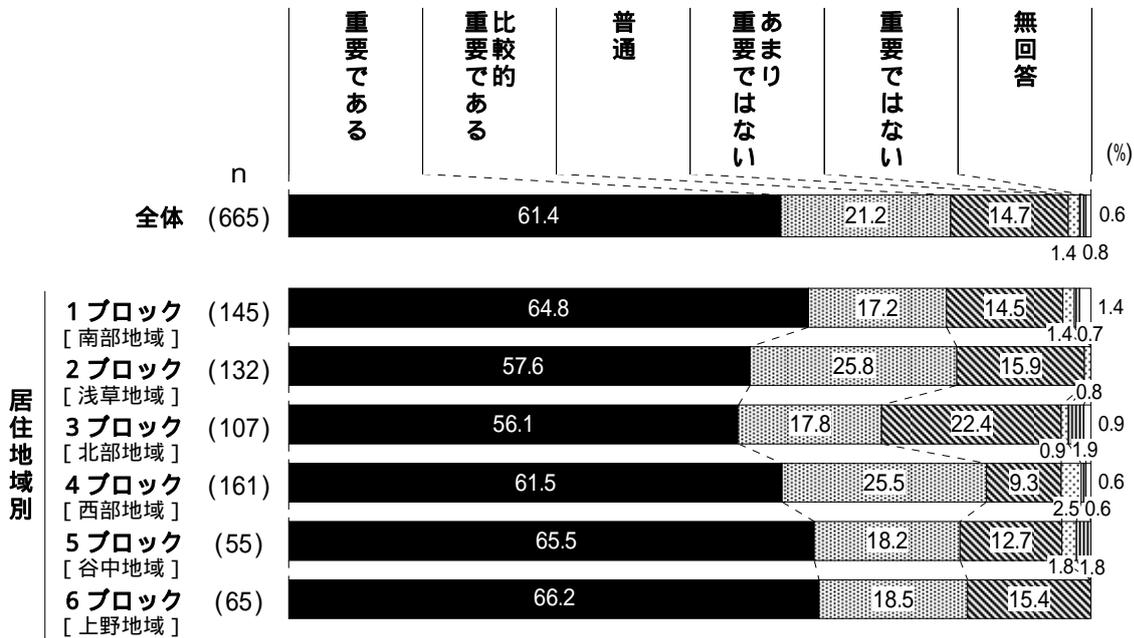
過去の調査結果と比較すると、《重要である》に特に大きな変化はみられない。(図表10 - 2)

<図表10 - 2> 子育てについての重要度 経年比較



居住地域別でみると、《重要である》は、3ブロック[北部地域] (73.9%) で唯一 8 割未満と低くなっている。(図表10 - 3)

<図表10 - 3> 子育てについての重要度 居住地域別

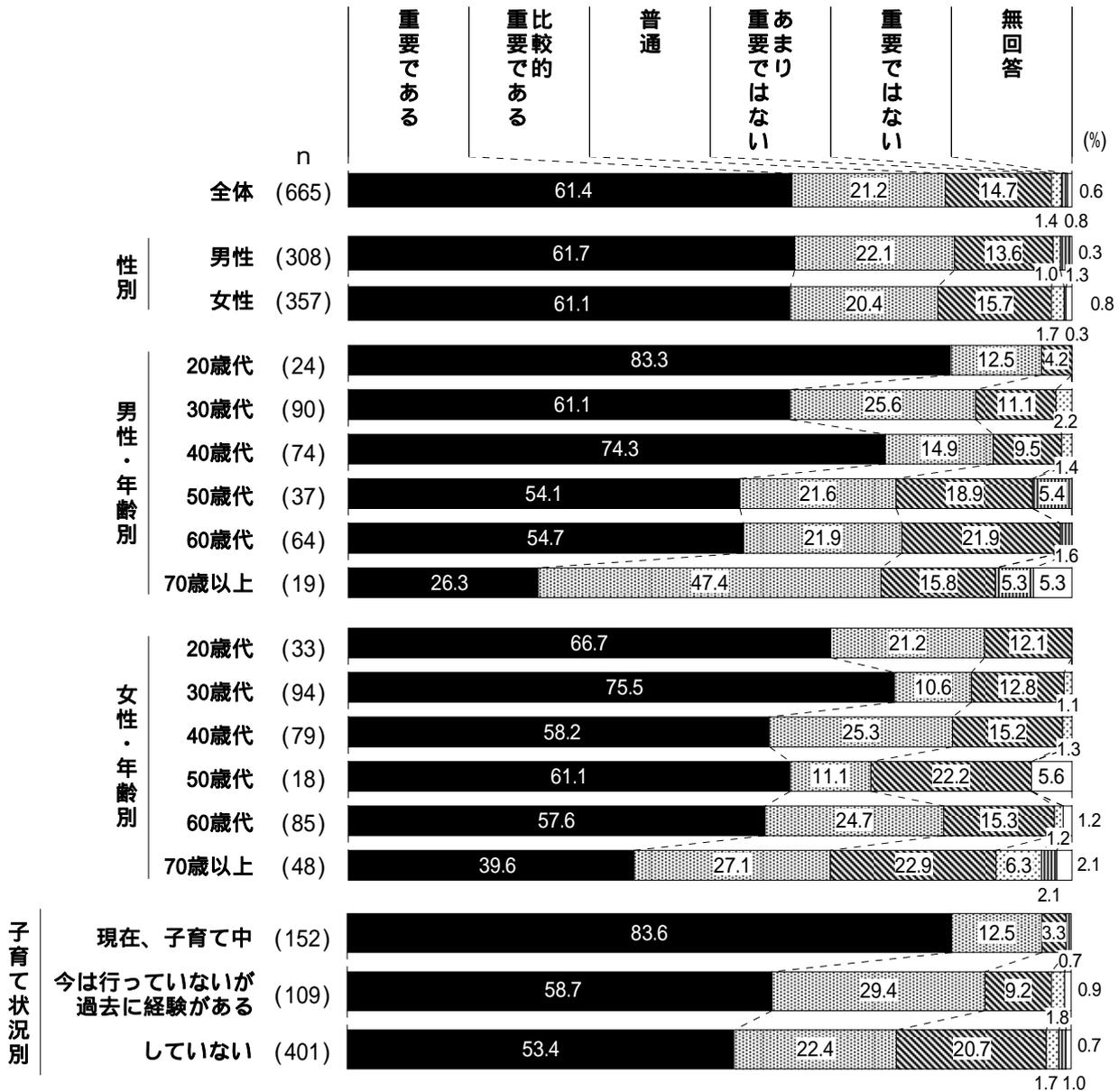


性別でみると、大きな違いはみられない。

性・年齢別でみると、《重要である》は、男性の30歳代（86.7%）と40歳代（89.2%）、女性の20歳代（87.9%）と30歳代（86.1%）で8割台後半と高くなっている。

子育て状況別でみると、《重要である》は、現在、子育て中の人（96.1%）で9割台半ばと最も高くなっている。（図表10 - 4）

<図表10 - 4> 子育てについての重要度 性別/性・年齢別、子育て状況別



（注）男性の“20歳代”と“70歳以上”、女性の“50歳代”については「n」（該当者数）が少ないため、具体的なコメントは行わず、参考資料とする。

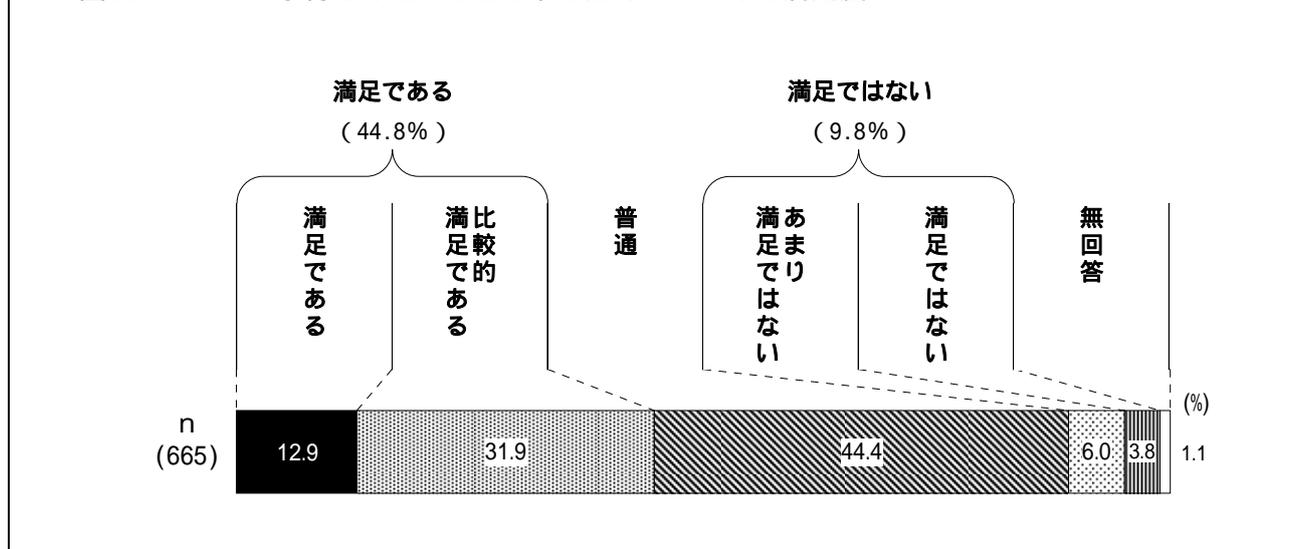
(2) 子育てのための区の取り組みについての満足度

《満足である》が4割台半ば

問32 子育てのための区の取り組みについて満足していますか。

(1つだけをおつけください)

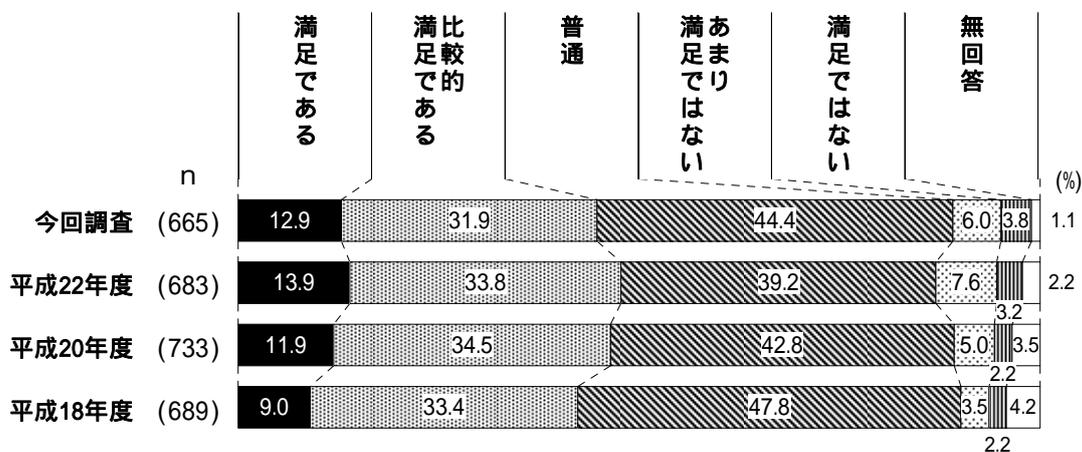
<図表10-5> 子育てのための区の取り組みについての満足度



子育てのための区の取り組みについて、満足度を聞いたところ、《満足である》(「満足である」と「比較的満足である」の合計)は44.8%で4割台半ばとなっている。一方、《満足ではない》(「満足ではない」と「あまり満足ではない」の合計)は9.8%である。(図表10-5)

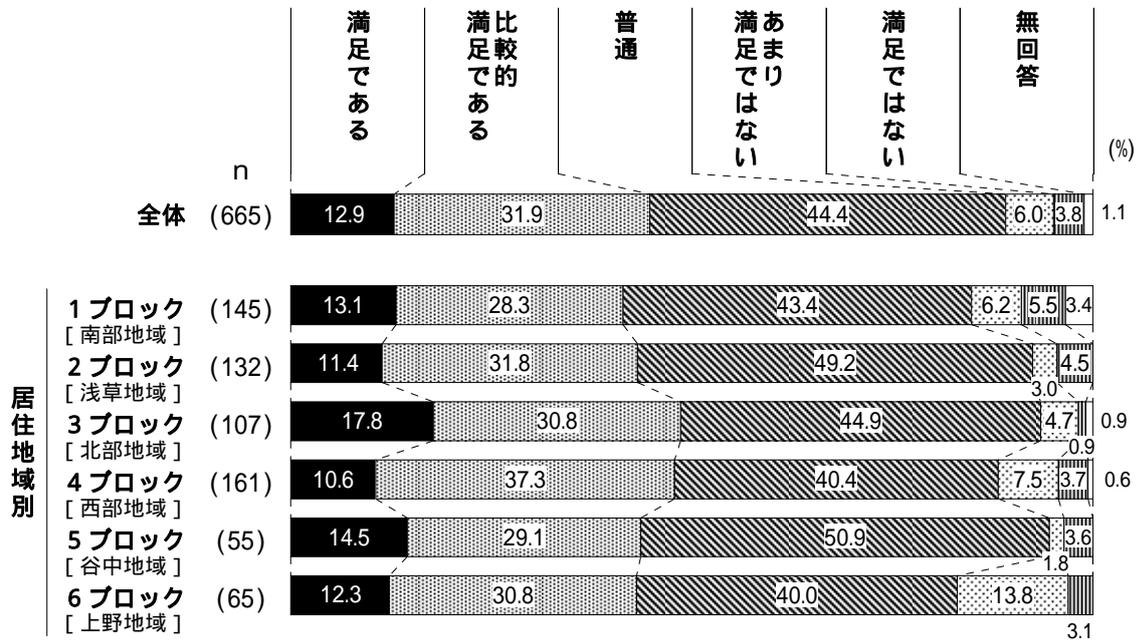
過去の調査結果と比較すると、《満足である》(44.8%)は平成22年度(47.7%)より2.9ポイント減少している。(図表10-6)

<図表10-6> 子育てのための区の取り組みについての満足度 経年比較



居住地域別でみると、《満足である》は、3ブロック[北部地域] (48.6%)と4ブロック[西部地域] (47.9%)で約5割と高くなっている。(図表10-7)

<図表10-7> 子育てのための区の取り組みについての満足度 居住地域別

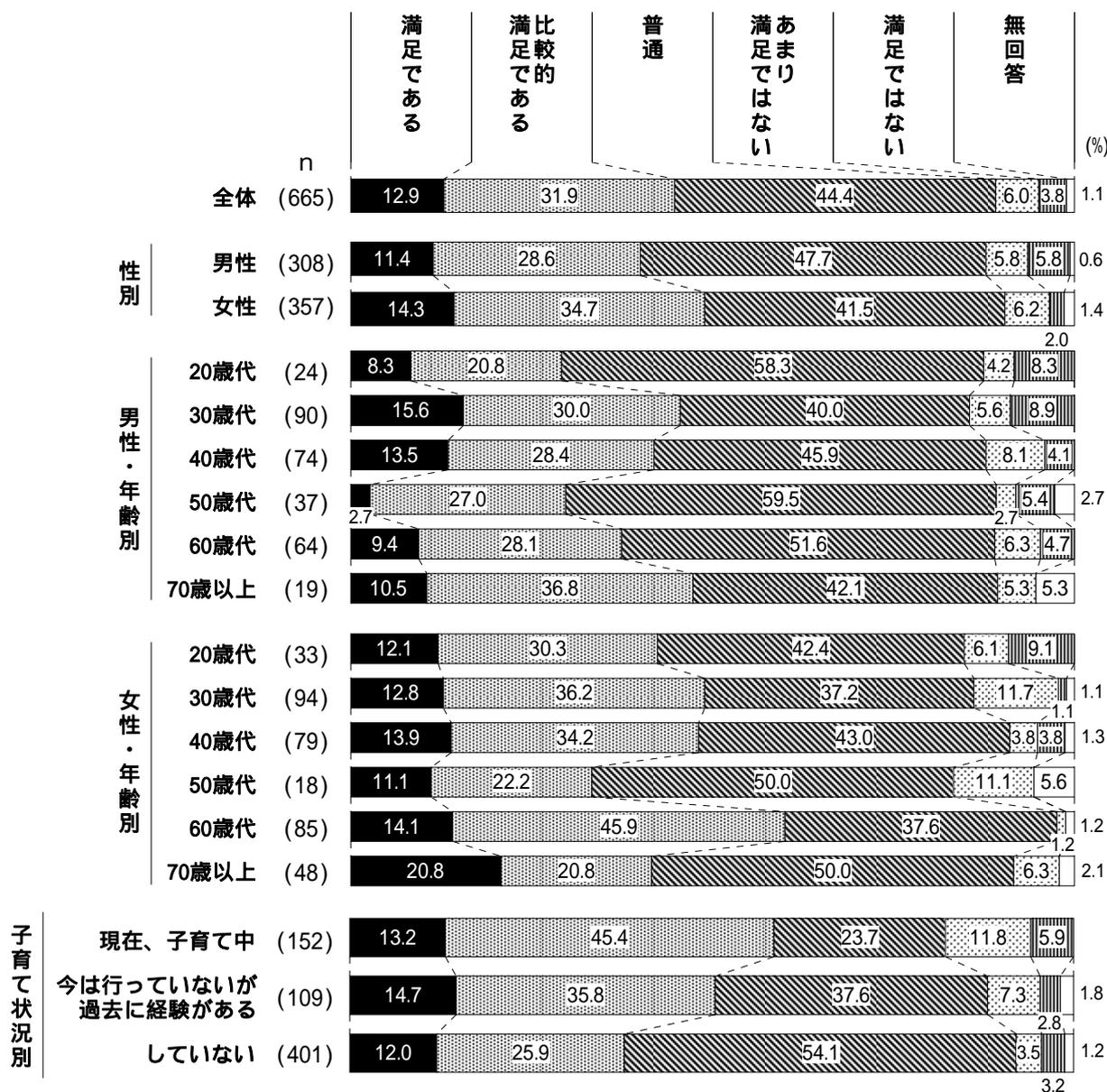


性別でみると、《満足である》は、女性（49.0%）の方が男性（40.0%）より9.0ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、《満足である》は、女性の60歳代（60.0%）で6割と高くなっている。

子育て状況別でみると、《満足である》は、現在、子育て中の人（58.6%）で約6割と最も高くなっている。（図表10-8）

<図表10-8> 子育てのための区の取り組みについての満足度 性別/性・年齢別、子育て状況別



（注）男性の“20歳代”と“70歳以上”、女性の“50歳代”については「n」（該当者数）が少ないため、具体的なコメントは行わず、参考資料とする。

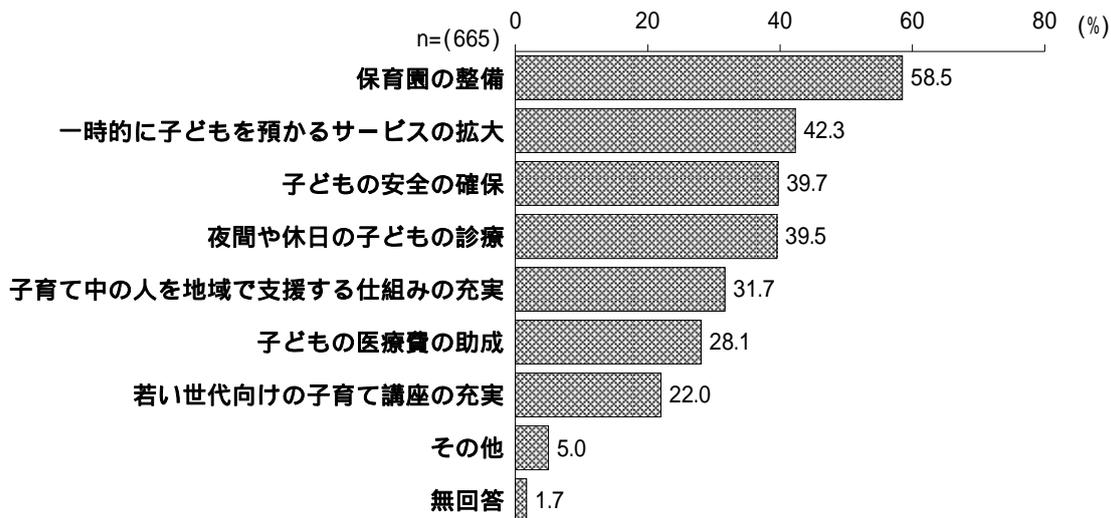
(3) 子育てのための取り組みとして大切なもの

「保育園の整備」が約6割

問33 子育てのため、どのような取り組みが大切とお考えでしょうか。

(3つまで をおつけください)

<図表10 - 9> 子育てのための取り組みとして大切なもの(複数回答)



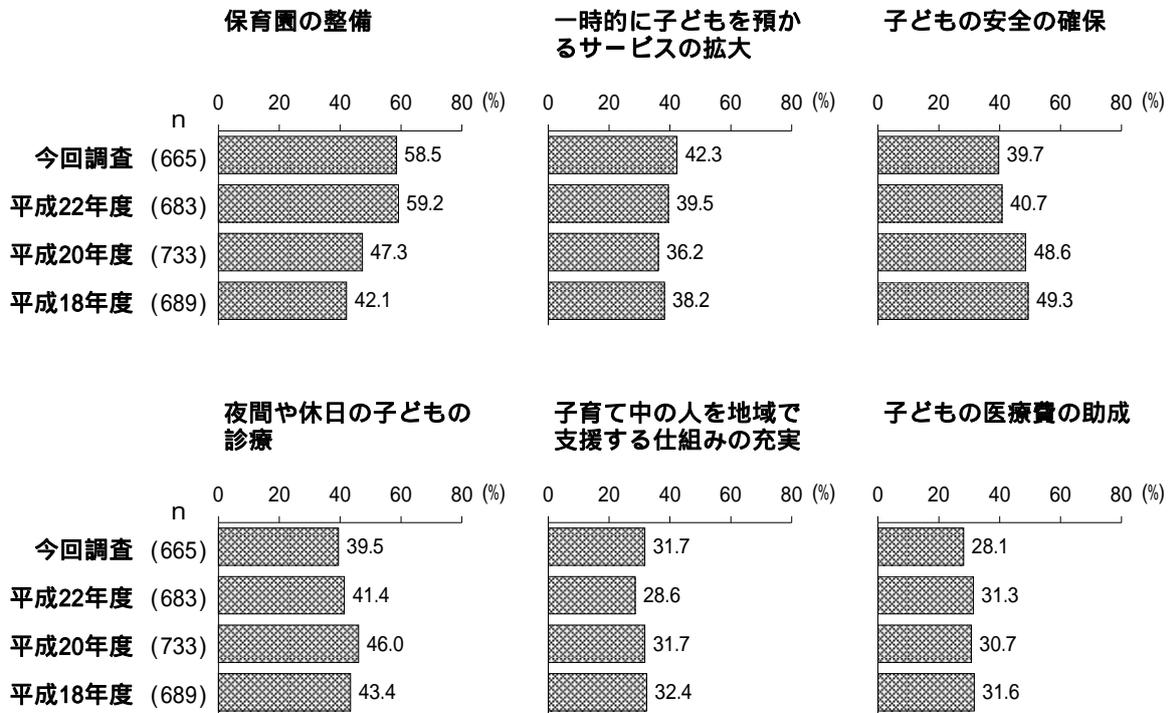
子育てのための取り組みとして大切なものを聞いたところ、「保育園の整備」(58.5%)が約6割で最も高くなっている。次いで、「一時的に子どもを預かるサービスの拡大」(42.3%)が4割を超え、「子どもの安全の確保」(39.7%)と「夜間や休日の子どもの診療」(39.5%)が約4割となっている。

(図表10 - 9)

過去の調査結果と比較すると、「保育園の整備」(58.5%)は、平成22年度(59.2%)以降約6割となっている。「子どもの安全の確保」(39.7%)は、平成22年度(40.7%)以降約4割となっている。

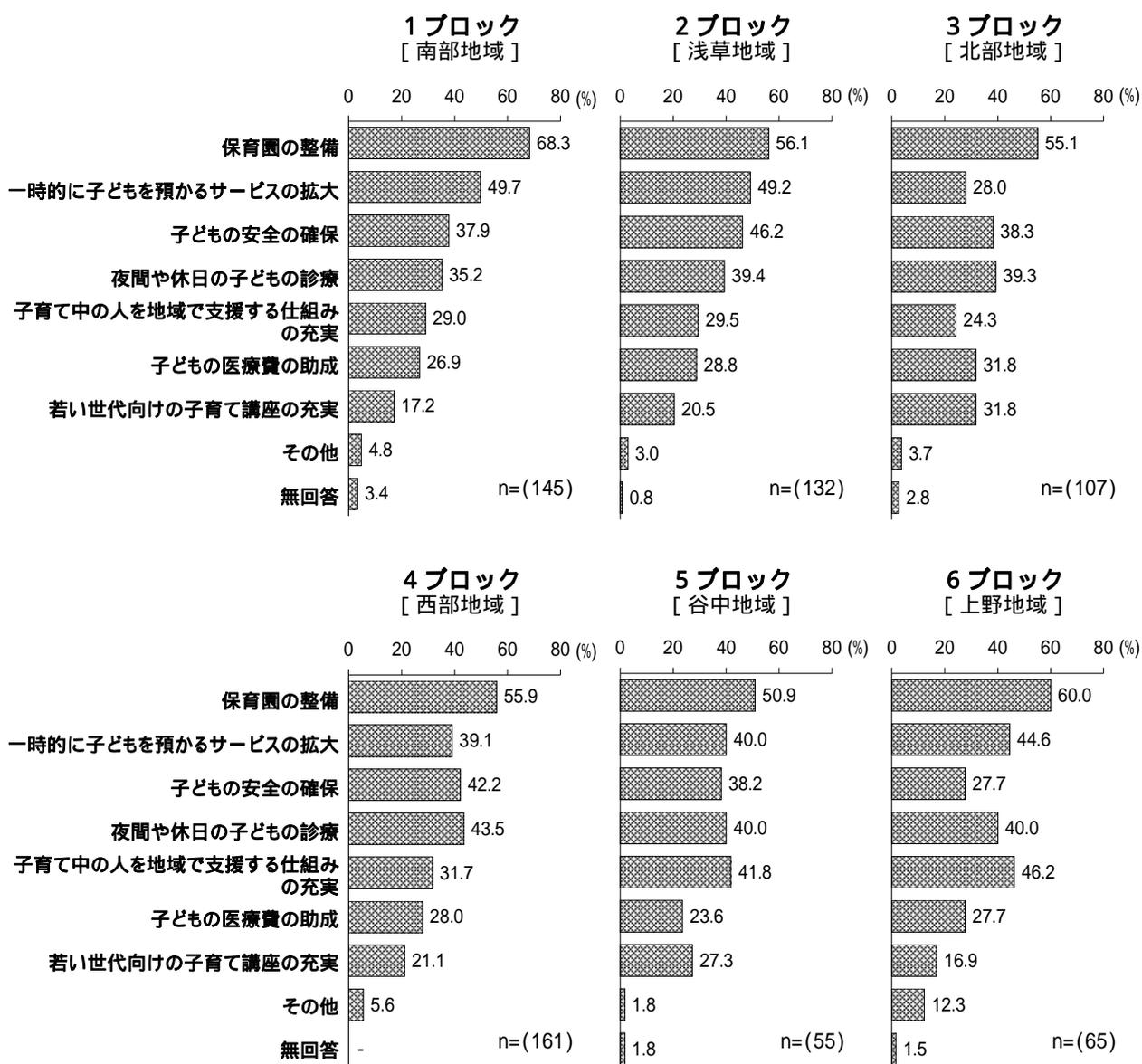
(図表10 - 10)

<図表10 - 10> 子育てのための取り組みとして大切なもの 経年比較(上位6項目)



居住地域別でみると、「保育園の整備」は、すべての地域において最も高く、特に1ブロック[南部地域]（68.3%）で約7割となっている。「一時的に子どもを預かるサービスの拡大」は、1ブロック[南部地域]（49.7%）と2ブロック[浅草地域]（49.2%）で約5割と高くなっている。「子育て中の人を地域で支援する仕組みの充実」は、6ブロック[上野地域]（46.2%）と5ブロック[谷中地域]（41.8%）で4割台と高くなっている。（図表10-11）

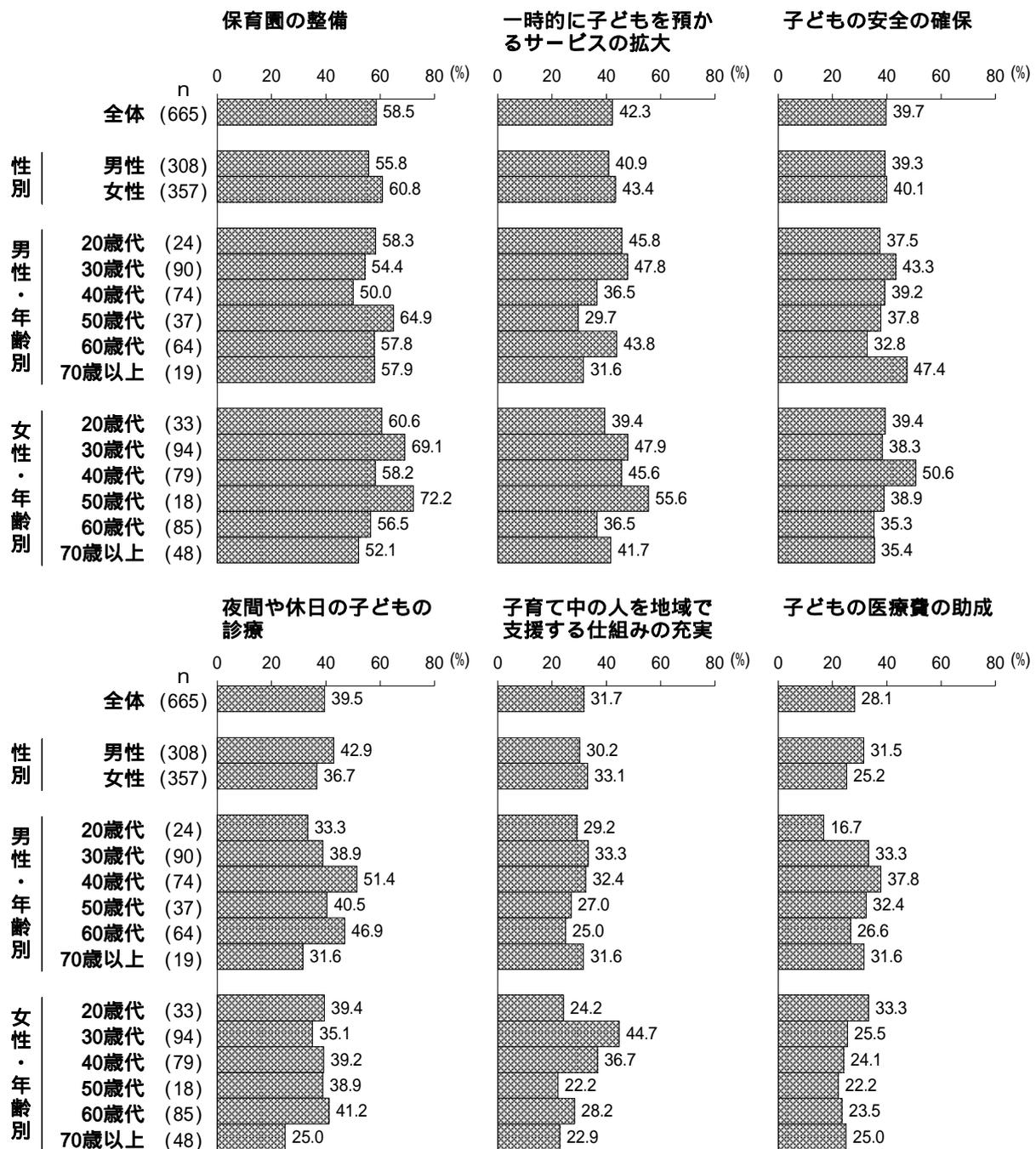
<図表10-11> 子育てのための取り組みとして大切なもの 居住地域別



性別で見ると、「保育園の整備」は、女性（60.8%）の方が男性（55.8%）より5.0ポイント高くなっている。一方、「夜間や休日の子どもの診療」は、男性（42.9%）の方が女性（36.7%）より6.2ポイント高く、「子どもの医療費の助成」も男性（31.5%）の方が女性（25.2%）より6.3ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「保育園の整備」は、女性の30歳代（69.1%）で約7割と高く、「子どもの安全の確保」は、女性の40歳代（50.6%）で5割と高くなっている。また、「夜間や休日の子どもの診療」は、男性の40歳代（51.4%）で5割を超え、「子育て中の人を地域で支援する仕組みの充実」は、女性の30歳代（44.7%）で4割台半ばと高くなっている。（図表10 - 12）

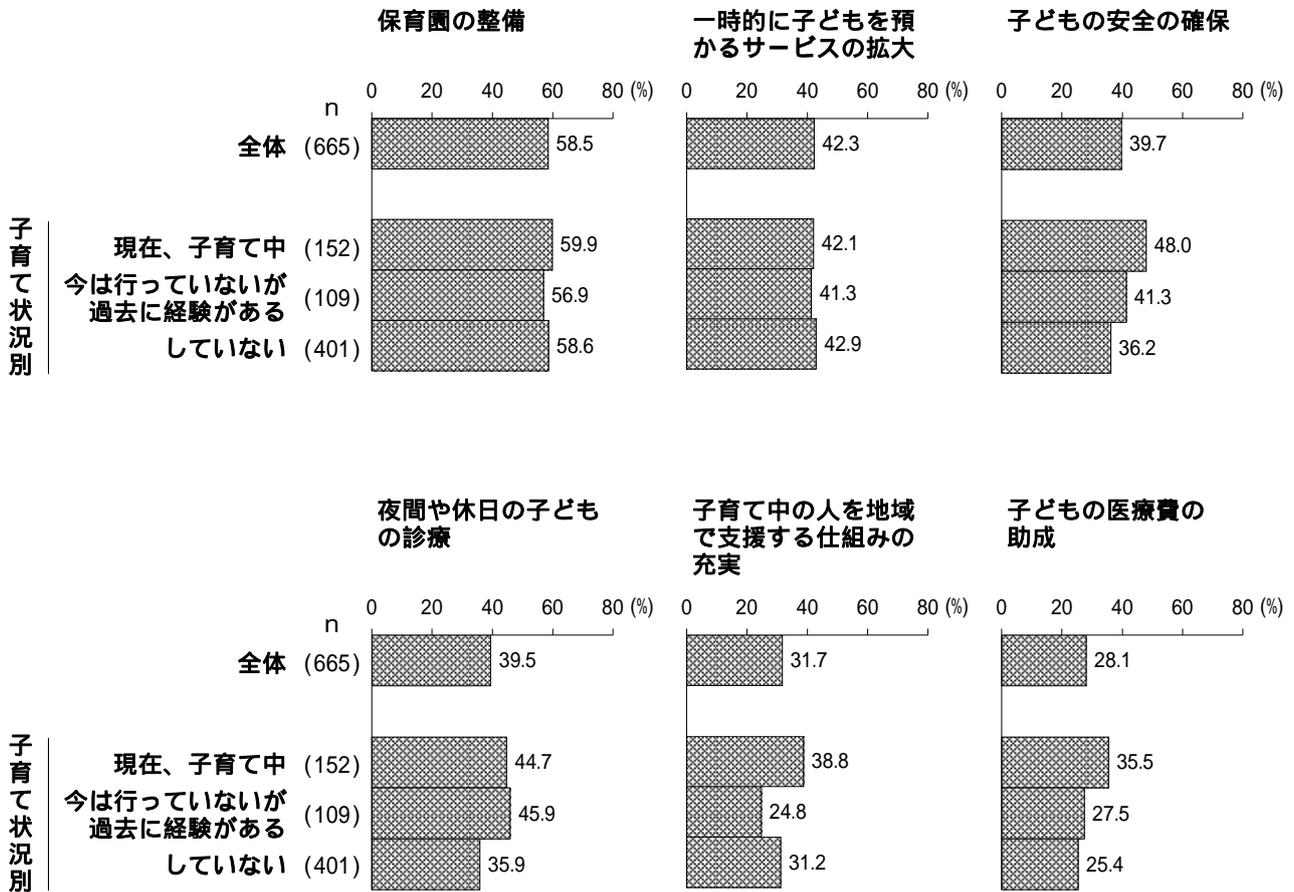
<図表10 - 12> 子育てのための取り組みとして大切なもの 性別/性・年齢別（上位6項目）



（注）男性の“20歳代”と“70歳以上”、女性の“50歳代”については「n」（該当者数）が少ないため、具体的なコメントは行わず、参考資料とする。

子育て状況別でみると、「子どもの安全の確保」、「子育て中の人を地域で支援する仕組みの充実」、「子どもの医療費の助成」は、現在、子育て中の人比其他に高くなっている。(図表10 - 13)

<図表10 - 13> 子育てのための取り組みとして大切なもの 子育て状況別(上位6項目)

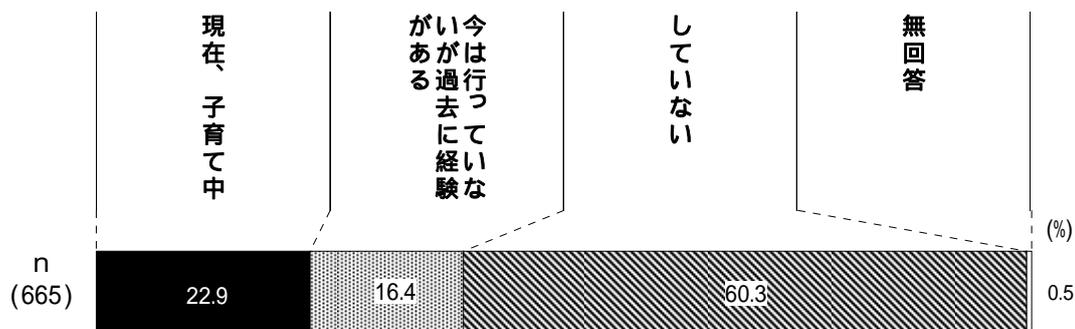


(4) 子育てについて

「現在、子育て中」は2割を超える

問34 あなたは、現在、子育てをしていますか。(1つだけをおつけください)

<図表10-14> 子育てについて

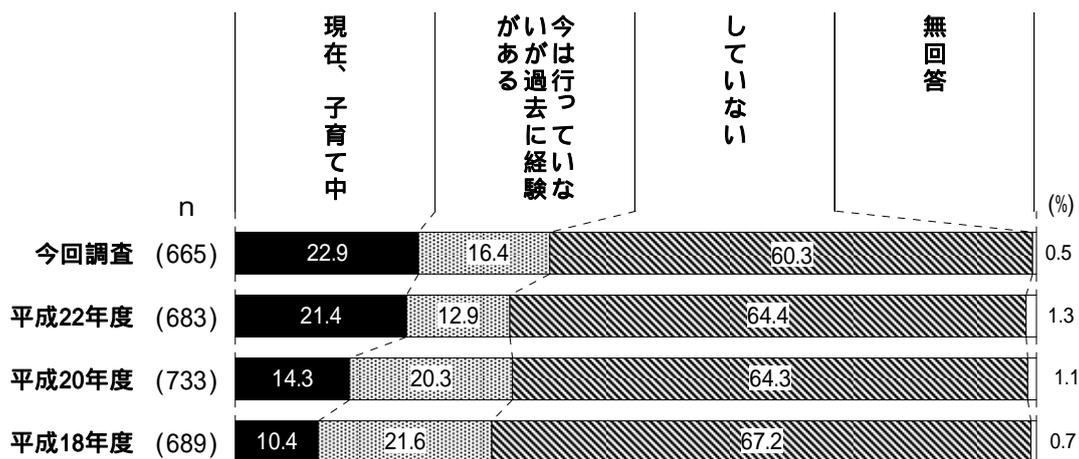


子育てについて聞いたところ、「現在、子育て中」(22.9%)が2割を超え、「今は行っていないが過去に経験がある」(16.4%)が1割台半ばとなっている。一方、「していない」(60.3%)は6割である。

(図表10-14)

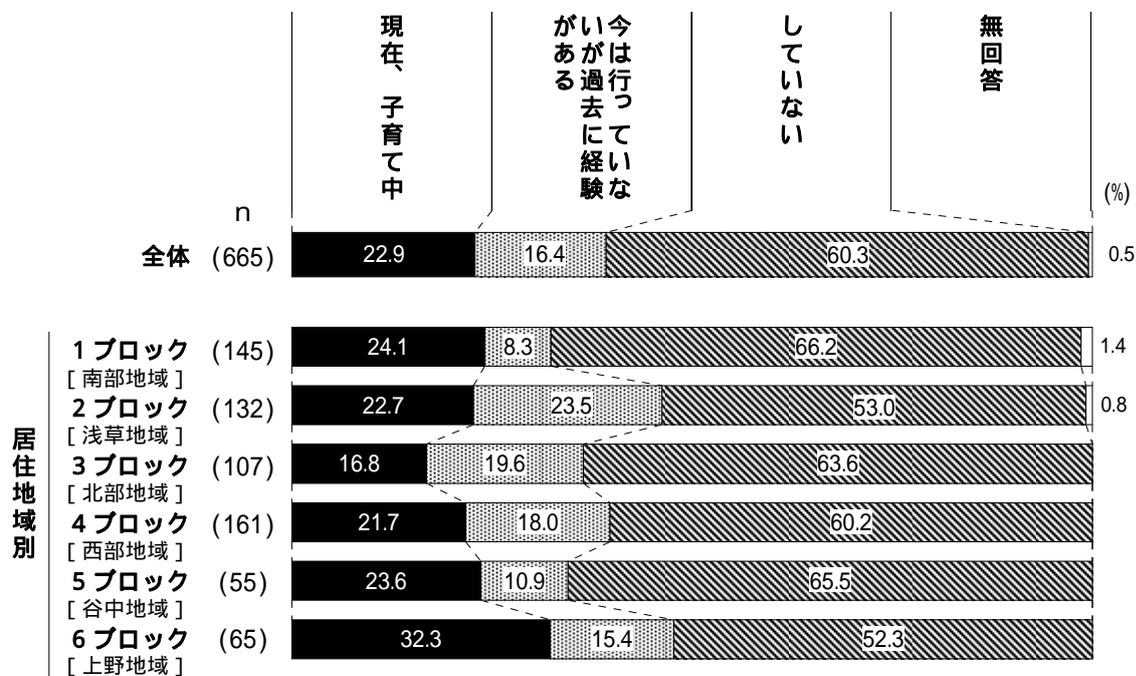
過去の調査結果と比較すると、「今は行っていないが過去に経験がある」(16.4%)は、平成22年度(12.9%)より3.5ポイント増加している。(図表10-15)

<図表10-15> 子育てについて 経年比較



居住地域別でみると、「現在、子育て中」は、6ブロック[上野地域]（32.3%）で3割を超えて高くなっている。「現在、子育て中」と「今は行っていないが過去に経験がある」を合わせた子育て経験のある割合は、6ブロック[上野地域]（47.7%）と2ブロック[浅草地域]（46.2%）で4割台後半と高くなっている。（図表10 - 16）

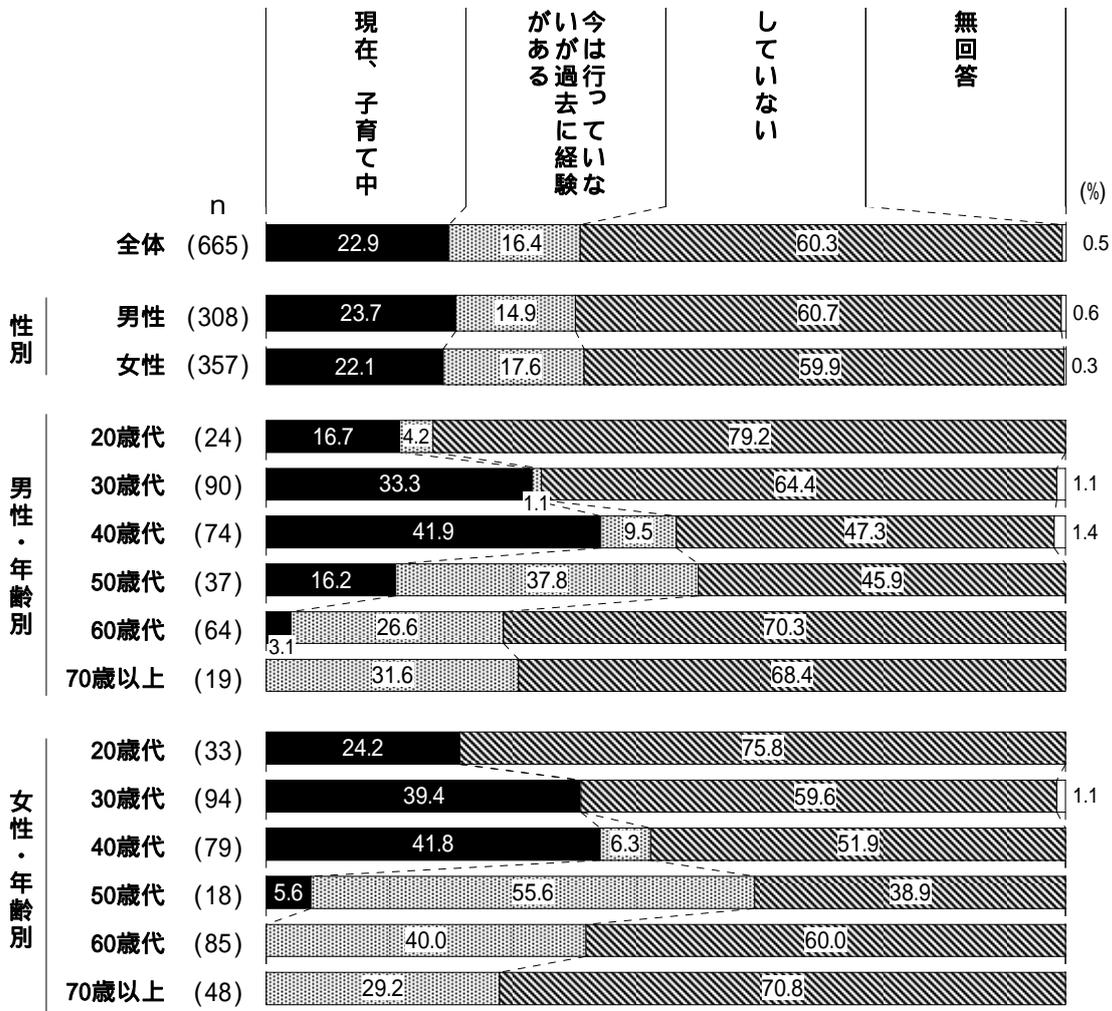
<図表10 - 16> 子育てについて 居住地域別



性別でみると、大きな違いはみられない。

性・年齢別でみると、「現在、子育て中」は男女の40歳代と女性の30歳代で4割前後、男性の30歳代(33.3%)で3割台半ばと高くなっている。(図表10-17)

<図表10-17> 子育てについて 性別/性・年齢別



(注) 男性の“20歳代”と“70歳以上”、女性の“50歳代”については「n」(該当者数)が少ないため、具体的なコメントは行わず、参考資料とする。

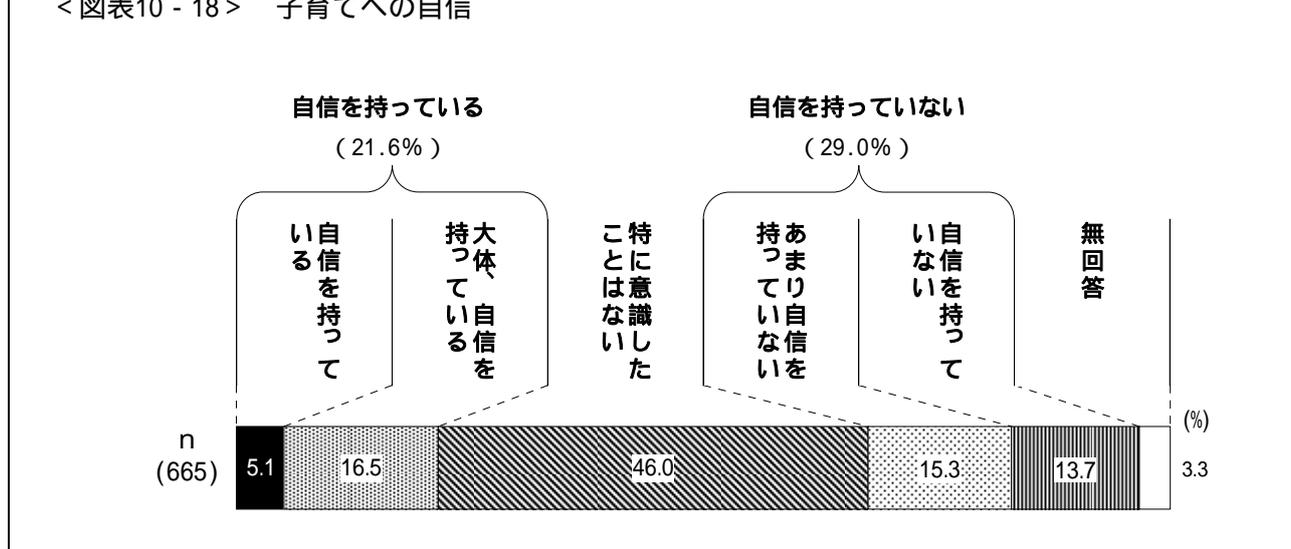
(5) 子育てへの自信

「特に意識したことはない」が4割台半ば、《自信を持っている》は2割を超える

問35 あなたは、子育てに自信を持っていますか。(1つだけをおつけください)

現在子育てをしていない方や経験が無い方も可能な範囲でご回答下さい。

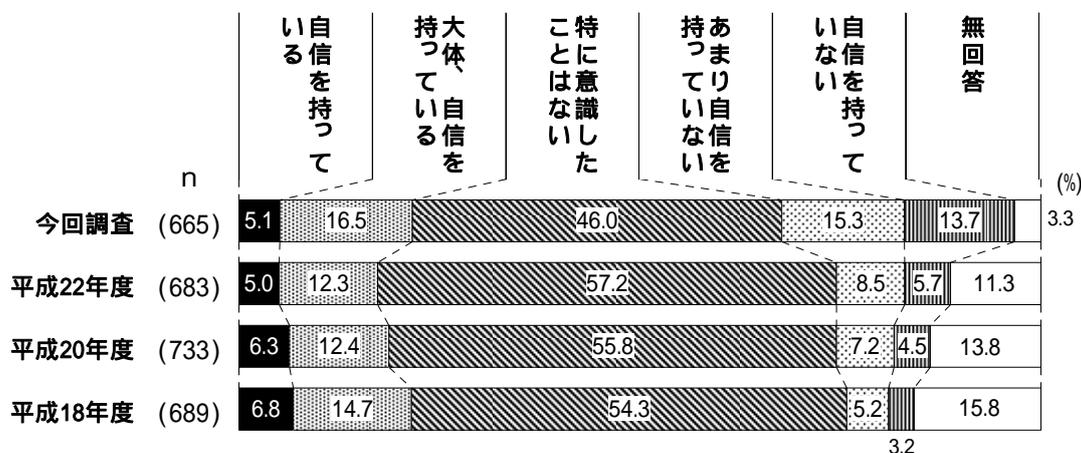
<図表10-18> 子育てへの自信



子育てへの自信について聞いたところ、「特に意識したことはない」(46.0%)が4割台半ばで最も高くなっている。《自信を持っている》(「自信を持っている」と「大体自信を持っている」の合計)は21.6%、《自信を持っていない》(「あまり自信を持っていない」と「自信を持っていない」の合計)は29.0%である。(図表10-18)

過去の調査結果と比較すると、選択肢が一部異なるため単純に比較はできないが、《自信を持っていない》(29.0%)は、平成18年度(8.4%)以降増加傾向がみられる。(図表10-19)

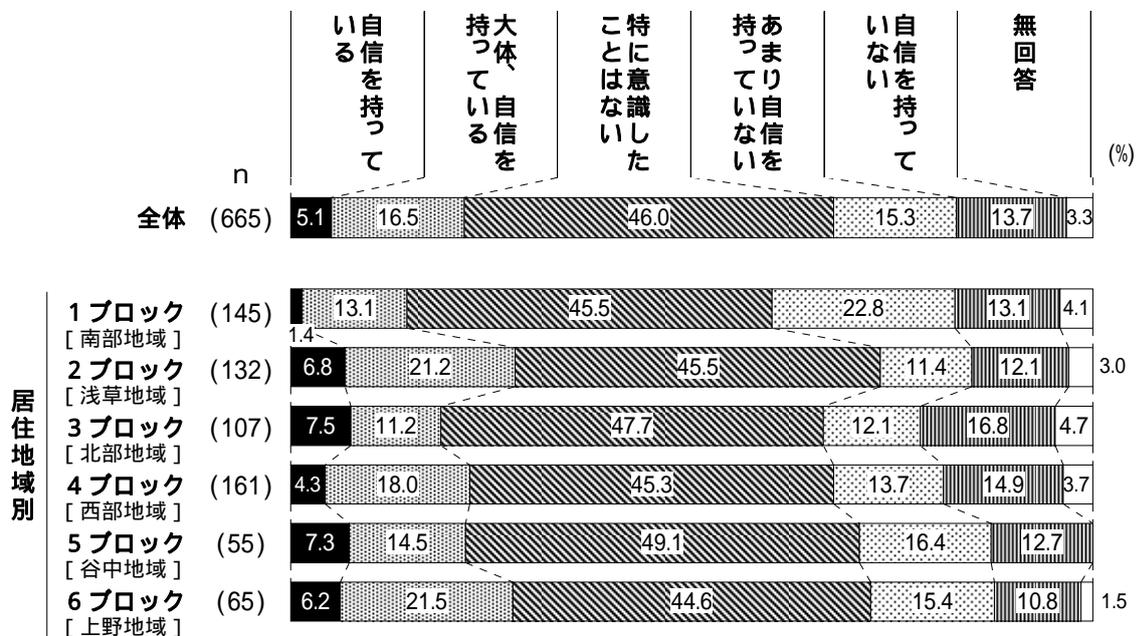
<図表10-19> 子育てへの自信 経年比較



今回調査より質問文を「あまり自信を持っていない」「自信を持っていない」に変更(平成22年度以前は「たまたま、自信を持っていないことがある」「たびたび、自信を持っていないことがある」)、また、「現在子育てをしていない方や経験が無い方も可能な範囲でご回答下さい」と注意書きを追加。

居住地域別でみると、《自信を持っている》は、2ブロック[浅草地域] (28.0%)と6ブロック[上野地域] (27.7%)で約3割と高くなっている。一方、《自信を持っていない》は、1ブロック[南部地域] (35.9%)で3割台半ばと高くなっている。(図表10 - 20)

<図表10 - 20> 子育てへの自信 居住地域別

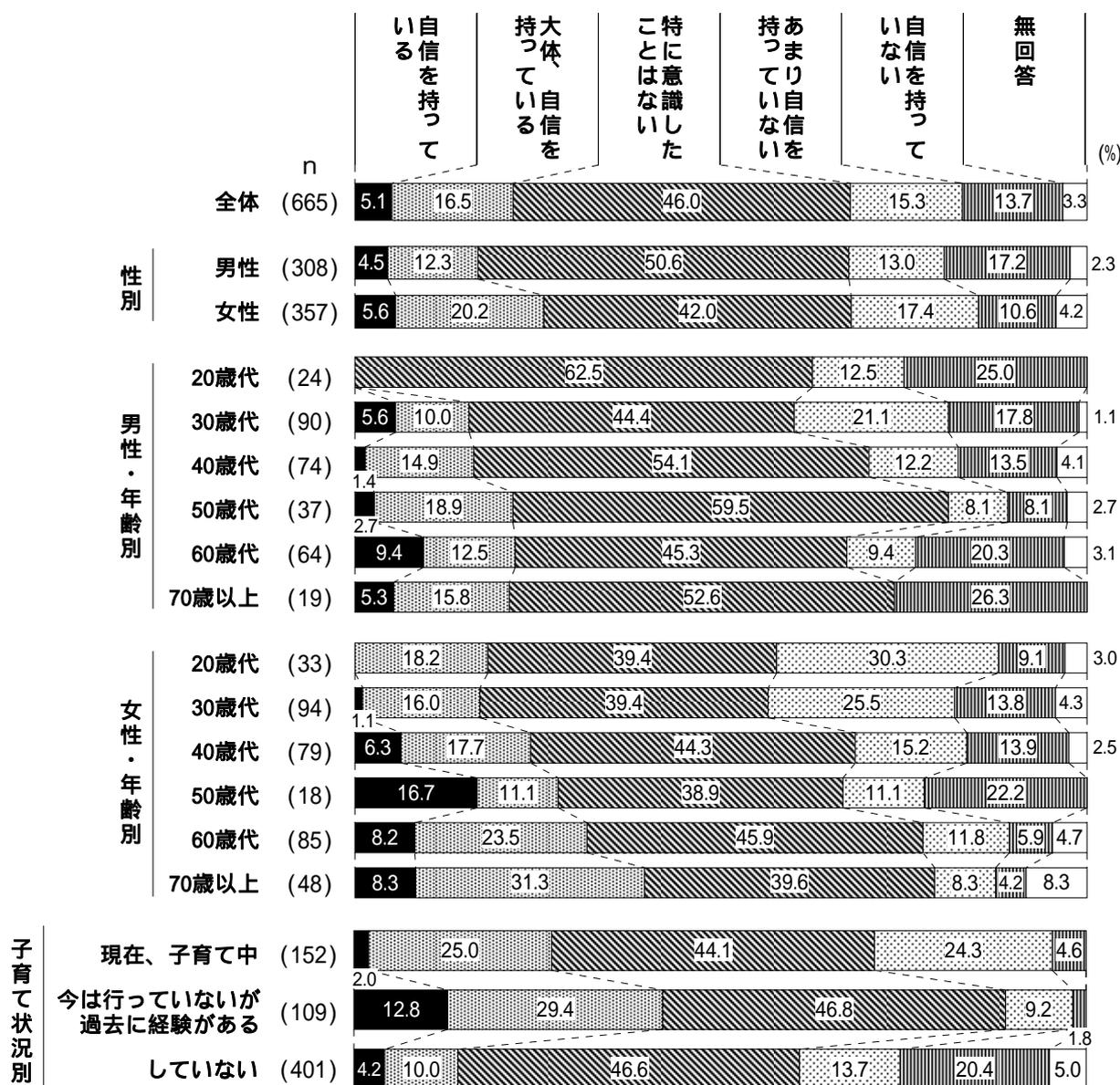


性別でみると、《自信を持っている》は、女性（25.8%）の方が男性（16.8%）より9.0ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、《自信を持っている》は、女性では年齢が上がるほど増加する傾向がみられ、70歳以上（39.6%）で約4割と最も高くなっている。一方、《自信を持っていない》は、男女の30歳代と女性の20歳代（39.4%）で約4割と高くなっている。

子育て状況別でみると、今は行っていないが過去に経験がある人は、《自信を持っている》（42.2%）が《自信を持っていない》（11.0%）を大きく上回っている。子育てをしていない人は、《自信を持っていない》（34.1%）が《自信を持っている》（14.2%）を大きく上回っている。（図表10 - 21）

<図表10 - 21> 子育てへの自信 性別 / 性・年齢別、子育て状況別



(注) 男性の“20歳代”と“70歳以上”、女性の“50歳代”については「n」(該当者数)が少ないため、具体的なコメントは行わず、参考資料とする。

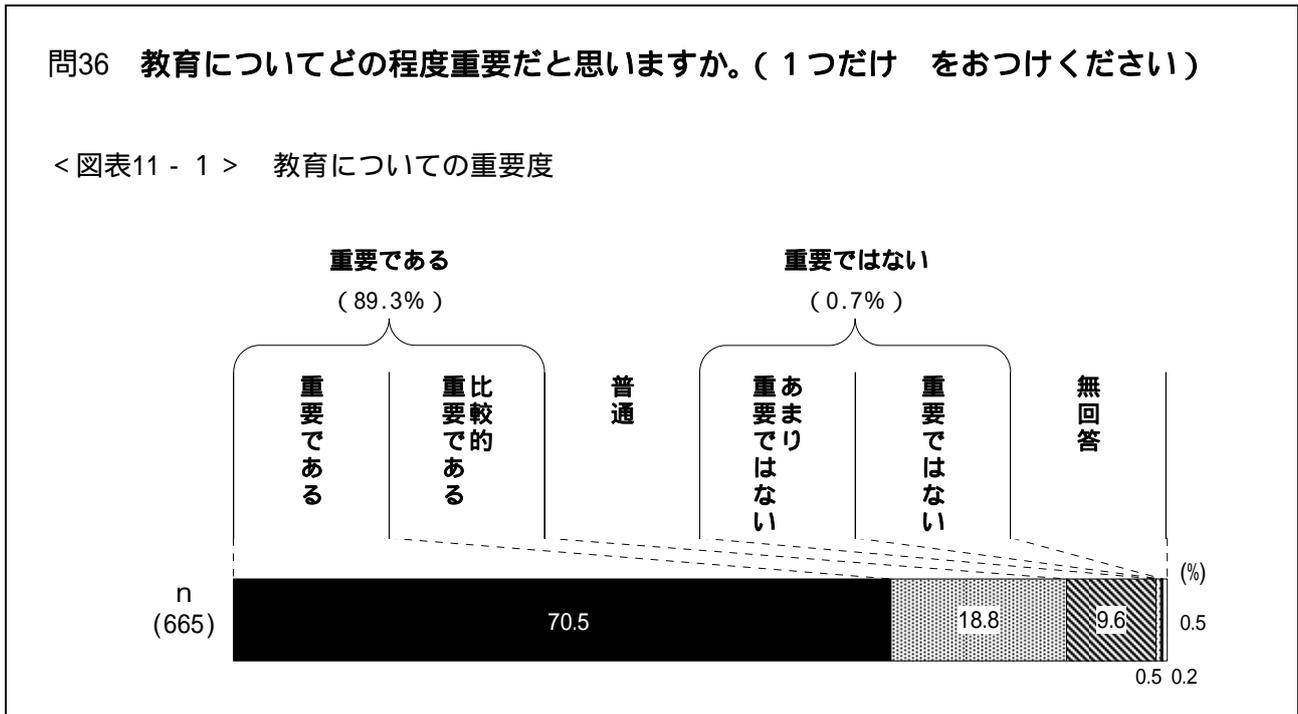
11. 教育のための取り組み

子どもたちが、こころざしを抱き、夢や希望をもち、これからの時代を自らの力でたくましく生きることのできる教育が大切です。

区では、基礎学力の向上、心と体の育成、学校施設の整備、学校と家庭・地域との連携などを行っています。

(1) 教育についての重要度

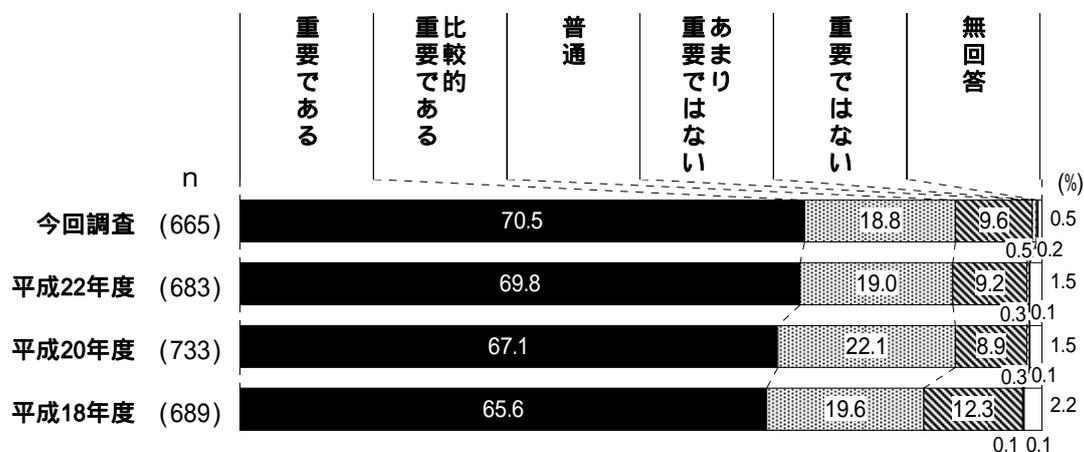
《重要である》が約9割



教育の重要度を聞いたところ、「重要である」(70.5%)が7割で最も高くなっている。これに「比較的である」(18.8%)を合わせると、《重要である》は89.3%で約9割となっている。一方、《重要ではない》(「重要ではない」と「あまり重要ではない」の合計)は0.7%である。(図表11-1)

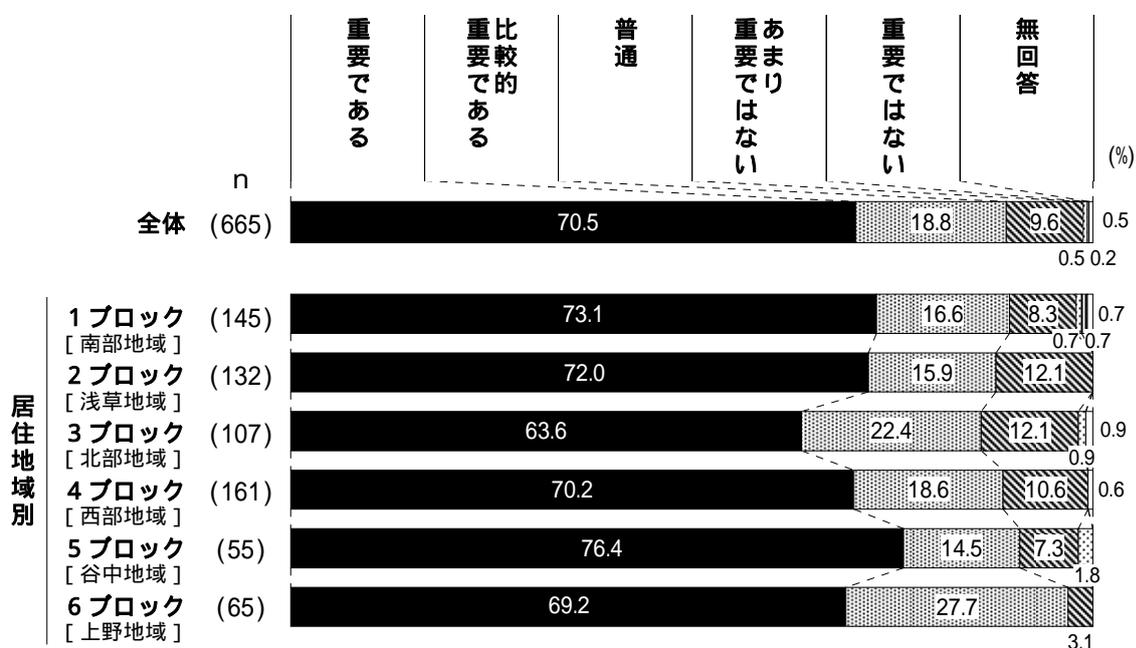
過去の調査結果と比較すると、特に大きな変化はみられない。(図表11 - 2)

<図表11 - 2> 教育についての重要度 経年比較



居住地域別で見ると、《重要である》は、6ブロック[上野地域] (96.9%) で9割台半ばと最も高くなっている。(図表11 - 3)

<図表11 - 3> 教育についての重要度 居住地域別



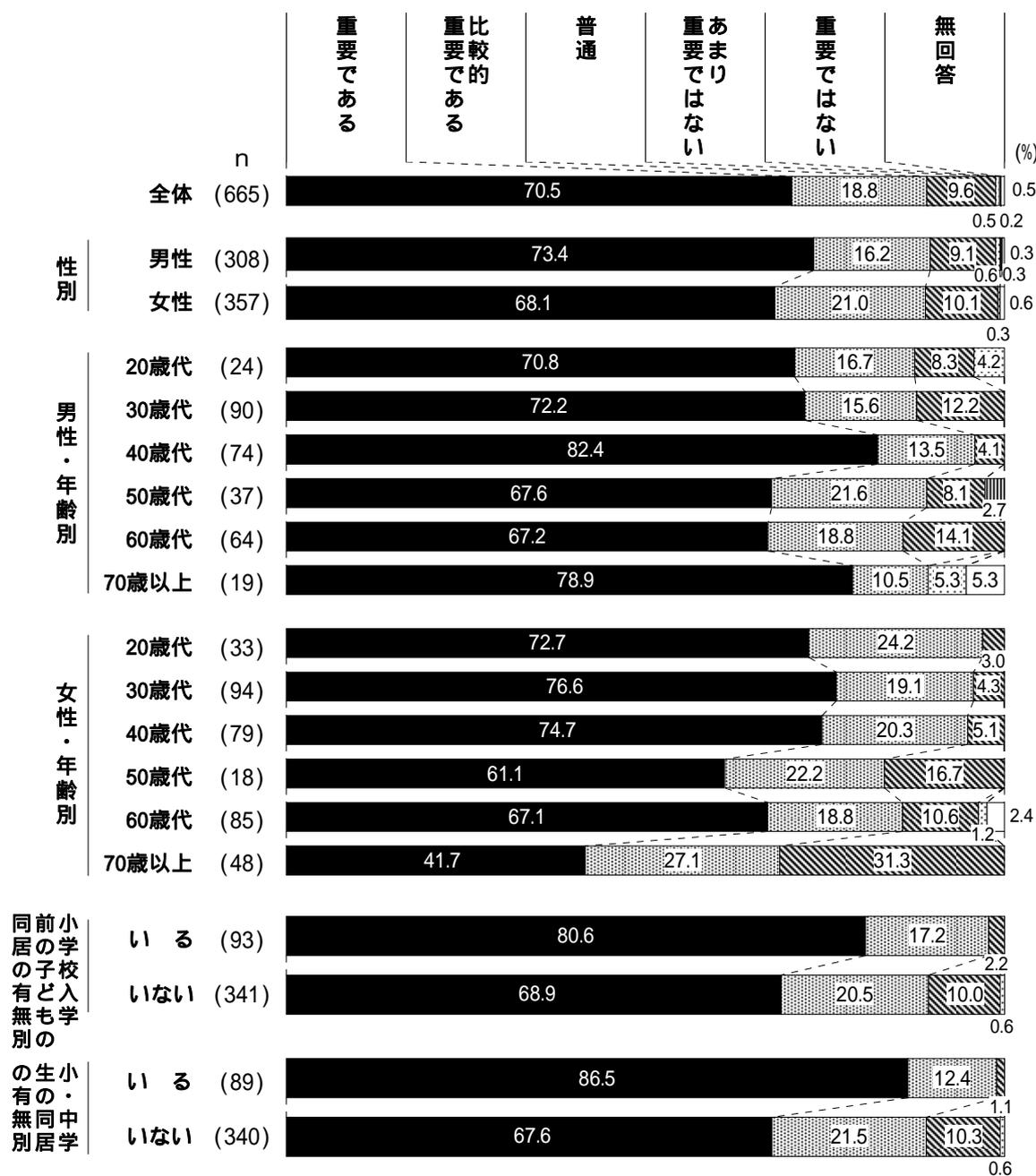
性別でみると、《重要である》に大きな違いはみられないが、「重要である」に限ってみると、男性（73.4%）の方が女性（68.1%）より5.3ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、《重要である》は、男性の40歳代（95.9%）、女性の20歳代から40歳代で9割台半ばと高くなっている。

小学校入学前の子ども、小・中学生の同居の有無別でみると、《重要である》は、小学校入学前の子どもがいる人（97.8%）と小・中学生がいる人（98.9%）でほぼ全数と、いない人より高くなっている。

（図表11 - 4）

<図表11 - 4> 教育についての重要度 性別 / 性・年齢別 / 小学校入学前の子どもの同居の有無別 / 小・中学生の同居の有無別



（注）男性の“20歳代”と“70歳以上”、女性の“50歳代”については「n」（該当者数）が少ないため、具体的なコメントは行わず、参考資料とする。

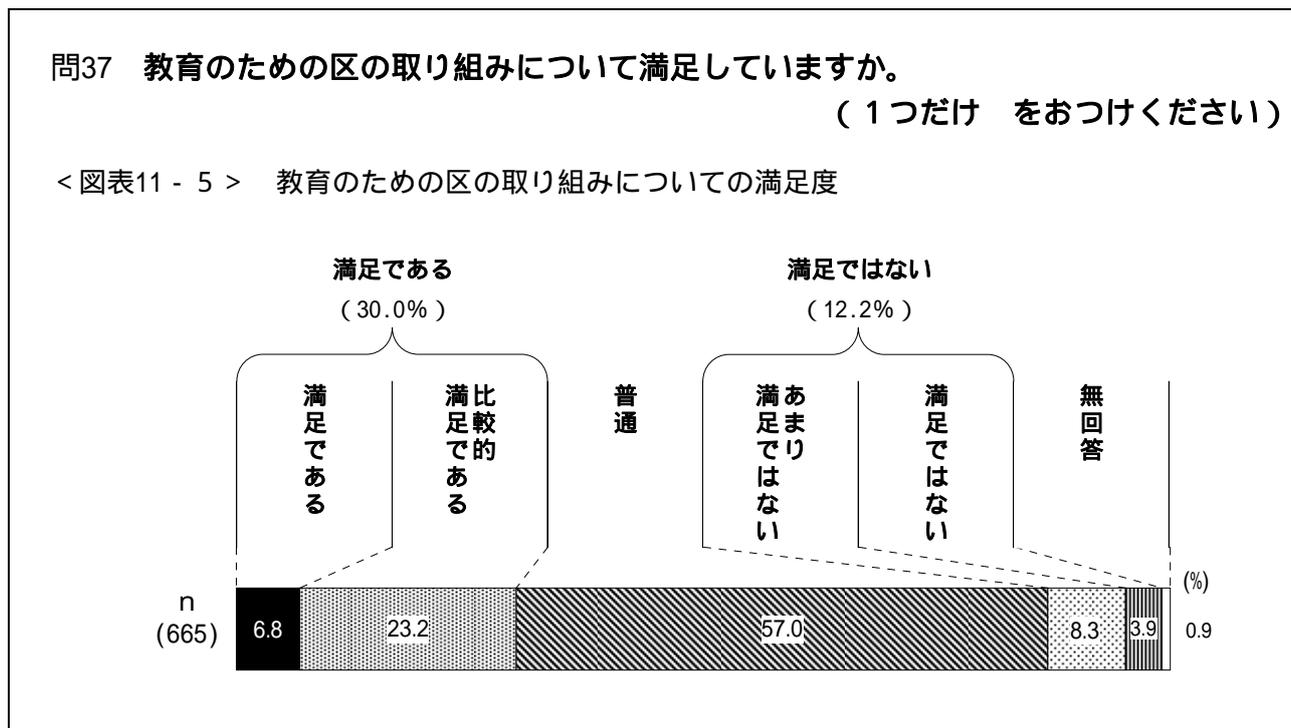
(2) 教育のための区の取り組みについての満足度

「普通」が約6割、「満足である」は3割

問37 教育のための区の取り組みについて満足していますか。

(1つだけをおつけください)

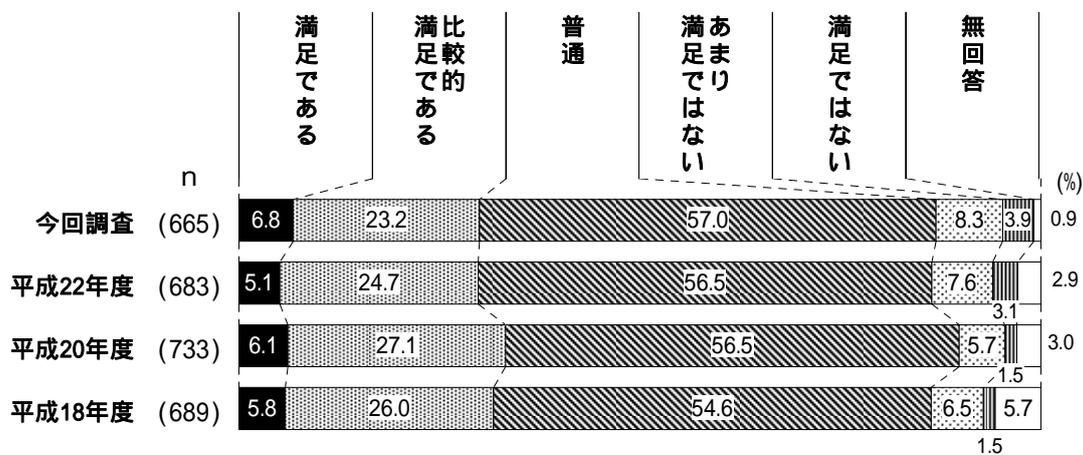
<図表11-5> 教育のための区の取り組みについての満足度



教育のための区の取り組みについて、満足度を聞いたところ、「普通」(57.0%)が約6割で最も高くなっている。《満足である》(「満足である」と「比較的満足である」の合計)は30.0%、《満足ではない》(「満足ではない」と「あまり満足ではない」の合計)は12.2%である。(図表11-5)

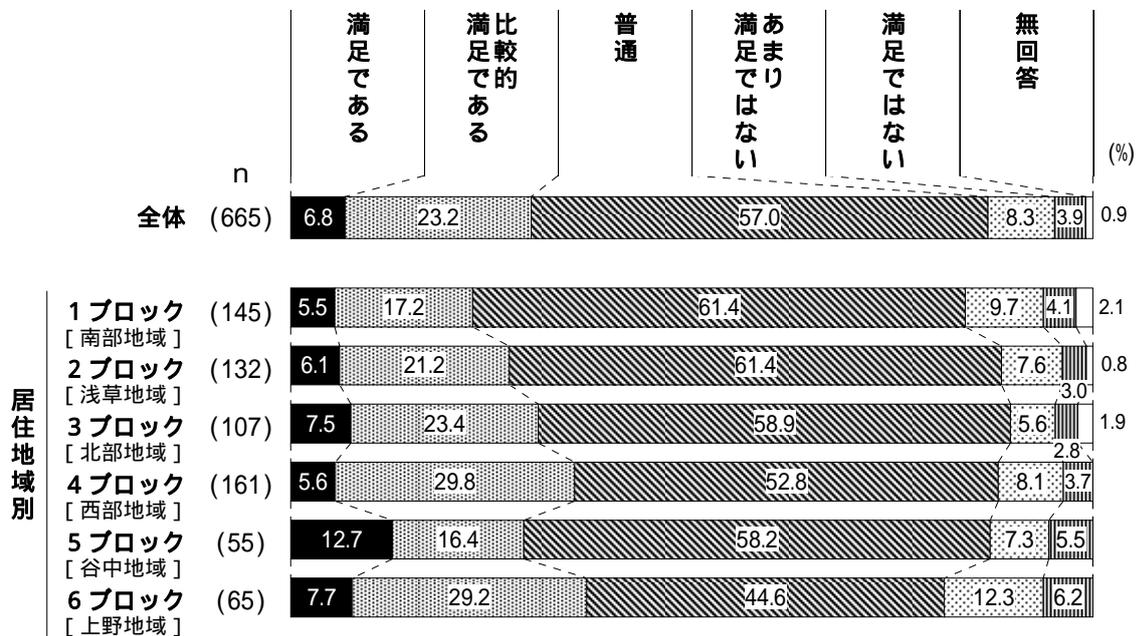
過去の調査結果と比較すると、特に大きな変化はみられない。(図表11-6)

<図表11-6> 教育のための区の取り組みについての満足度 経年比較



居住地域別でみると、《満足である》は、6ブロック[上野地域] (36.9%)と4ブロック[西部地域] (35.4%)で3割台半ばと高くなっている。(図表11-7)

<図表11-7> 教育のための区の取り組みについての満足度 居住地域別

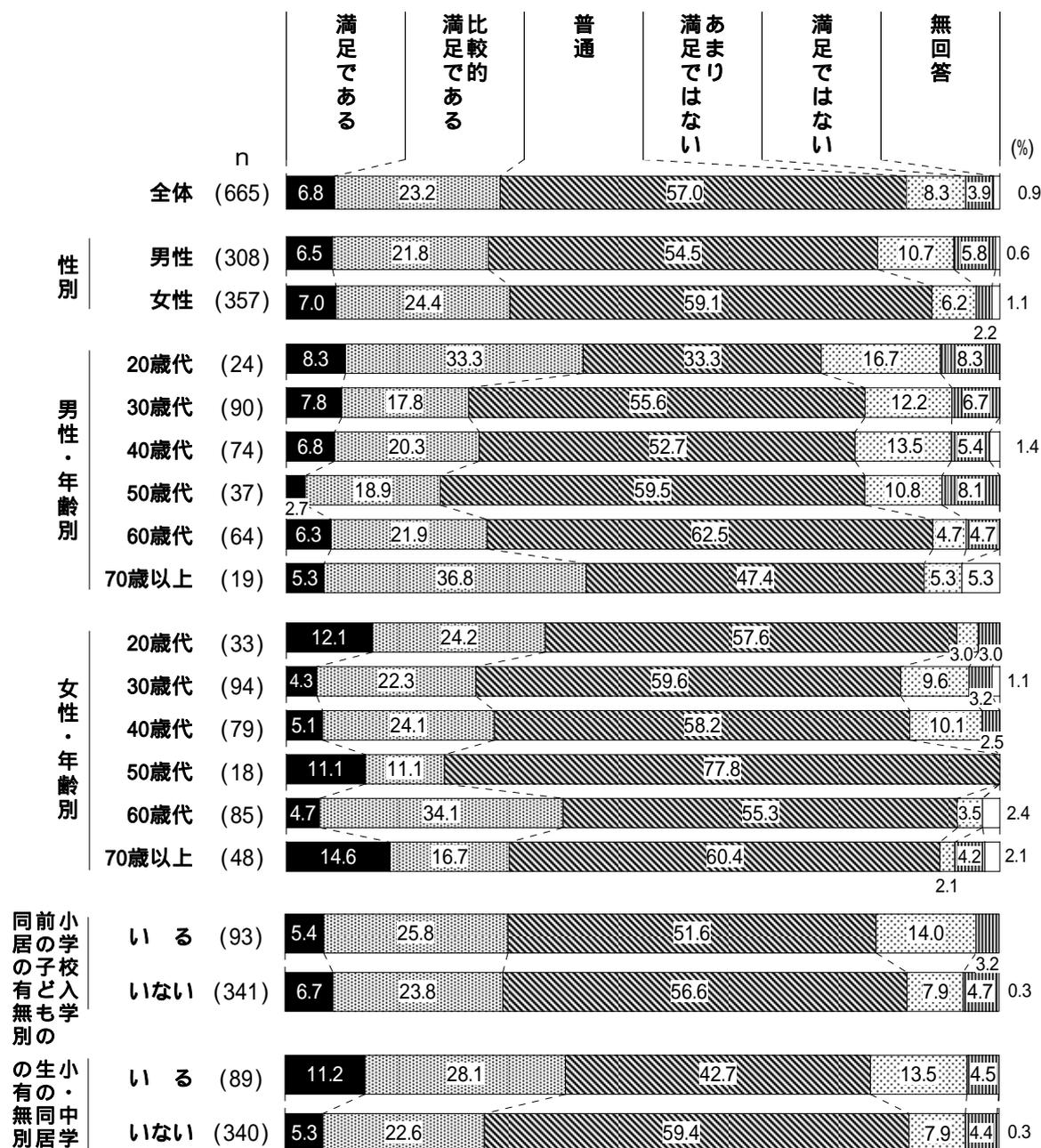


性別でみると、《満足ではない》は、男性（16.5%）の方が女性（8.4%）より8.1ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、《満足である》は、女性の20歳代（36.3%）と60歳代（38.8%）で3割台後半と高くなっている。

小学校入学前の子ども、小・中学生の同居の有無別でみると、《満足である》は、小・中学生がいる人（39.3%）で約4割と高くなっている。（図表11 - 8）

<図表11 - 8> 教育のための区の取り組みについての満足度 性別/性・年齢別/小学校入学前の子どもの同居の有無別/小・中学生の同居の有無別



(注) 男性の“20歳代”と“70歳以上”、女性の“50歳代”については「n」(該当者数)が少ないため、具体的なコメントは行わず、参考資料とする。

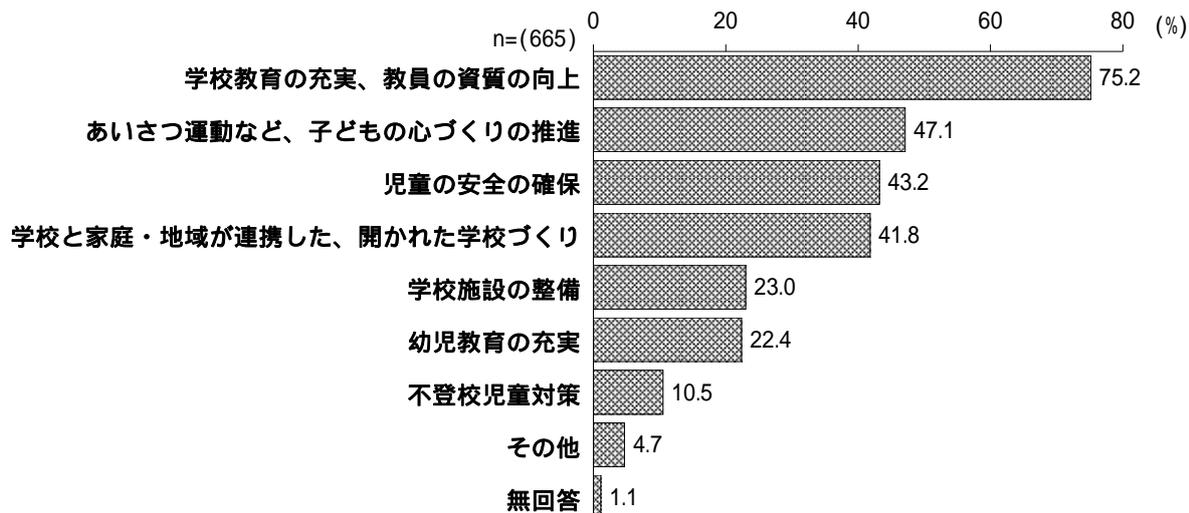
(3) 教育のための取り組みとして大切なもの

「学校教育の充実、教員の資質の向上」が7割台半ば

問38 教育のため、どのような取り組みが大切とお考えでしょうか。

(3つまで をおつけください)

<図表11 - 9> 教育のための取り組みとして大切なもの(複数回答)

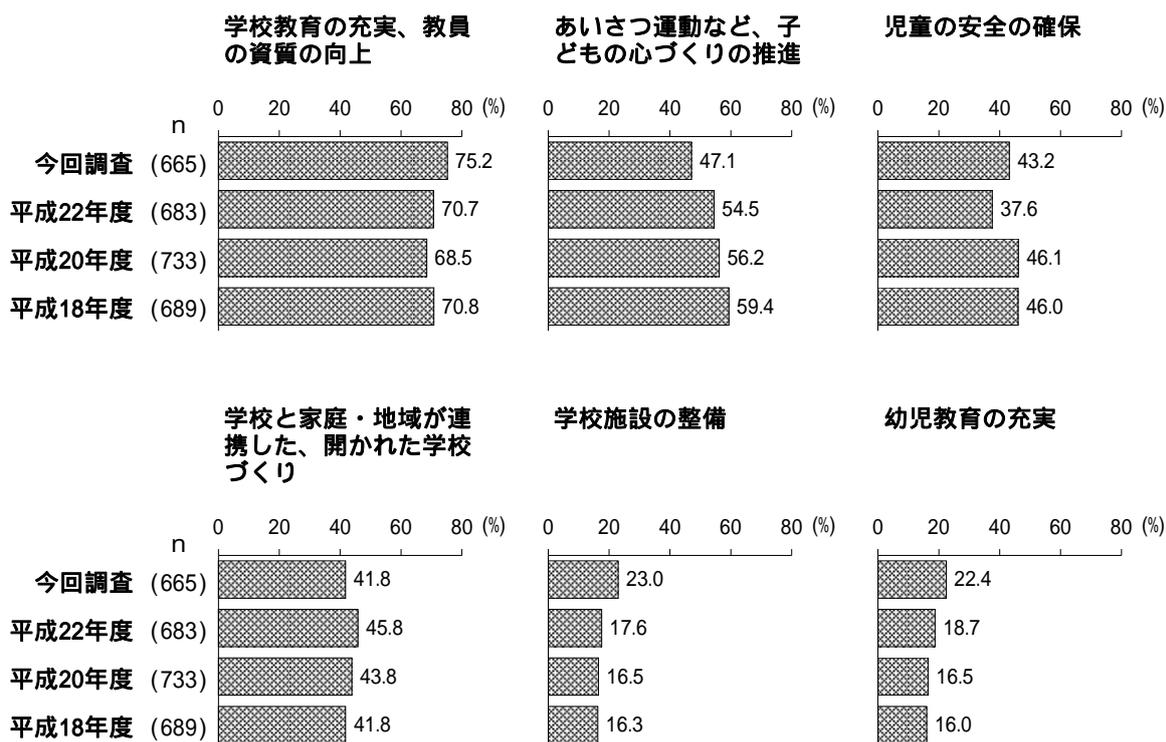


教育のための取り組みとして大切なものを聞いたところ、「学校教育の充実、教員の資質の向上」(75.2%)が7割台半ばで最も高く、次いで、「あいさつ運動など、子どもの心づくりの推進」(47.1%)、「児童の安全の確保」(43.2%)、「学校と家庭・地域が連携した、開かれた学校づくり」(41.8%)が4割台となっている。(図表11 - 9)

過去の調査結果と比較すると、「学校教育の充実、教員の資質の向上」(75.2%)は平成22年度(70.7%)から4.5ポイント、「学校施設の整備」(23.0%)は平成22年度(17.6%)から5.4ポイント、「幼児教育の充実」(22.4%)は平成22年度(18.7%)から3.7ポイント増加している。一方、「あいさつ運動など、子どもの心づくりの推進」(47.1%)は平成22年度(54.5%)から7.4ポイント、「学校と家庭・地域が連携した、開かれた学校づくり」(41.8%)は平成22年度(45.8%)から4.0ポイント減少している。

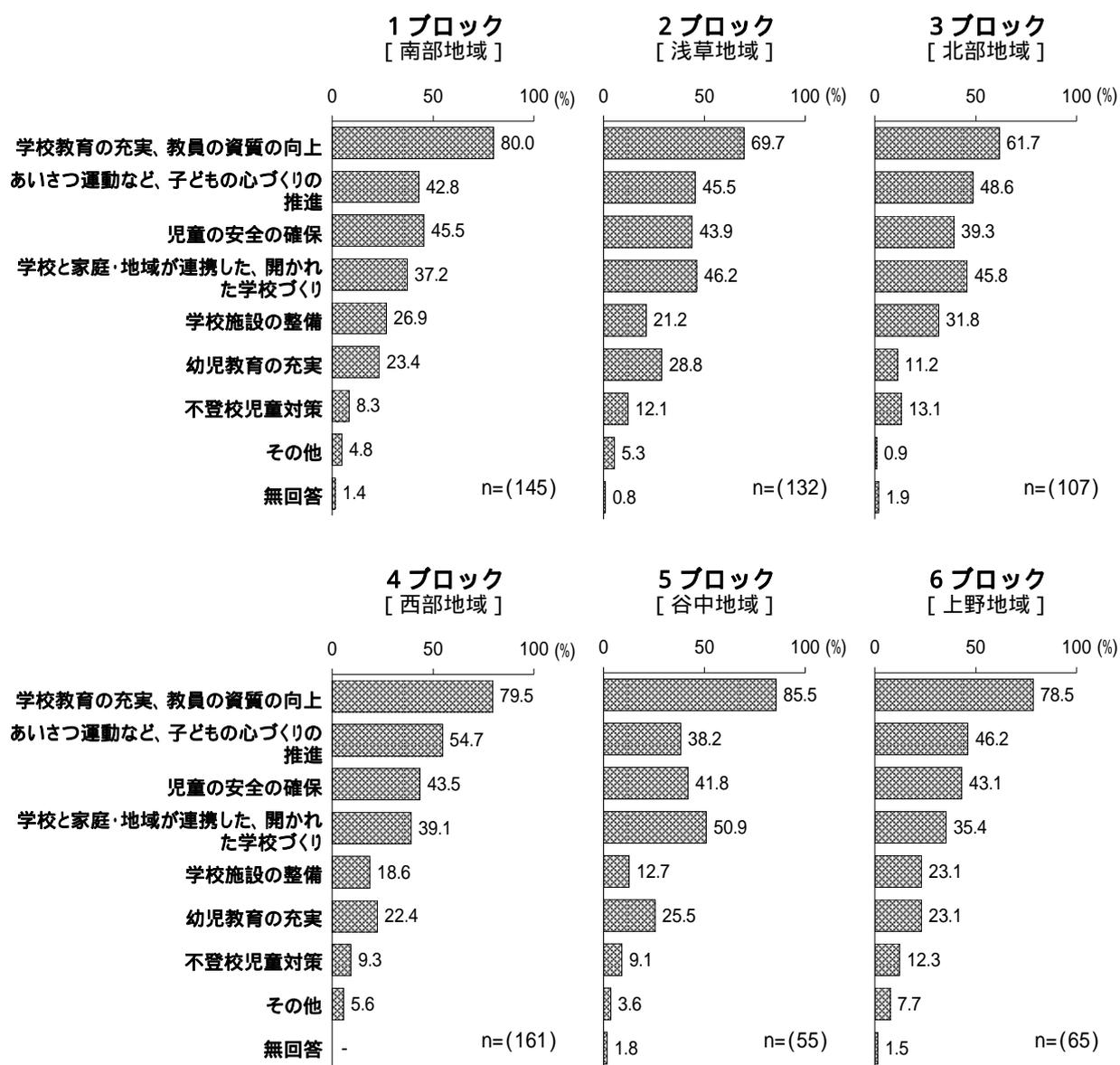
(図表11 - 10)

<図表11 - 10> 教育のための取り組みとして大切なもの 経年比較(上位6項目)



居住地域別でみると、すべての地域で「学校教育の充実、教員の資質の向上」が最も高く、特に、5ブロック[谷中地域]（85.5%）で8割台半ばと最も高くなっている。「あいさつ運動など、子どもの心づくりの推進」は、3ブロック[北部地域]（48.6%）、4ブロック[西部地域]（54.7%）、6ブロック[上野地域]（46.2%）で2番目に高くなっている。また、5ブロック[谷中地域]は、「学校と家庭・地域が連携した、開かれた学校づくり」（50.9%）が5割で2番目に高くなっている。（図表11-11）

<図表11-11> 教育のための取り組みとして大切なもの 居住地域別

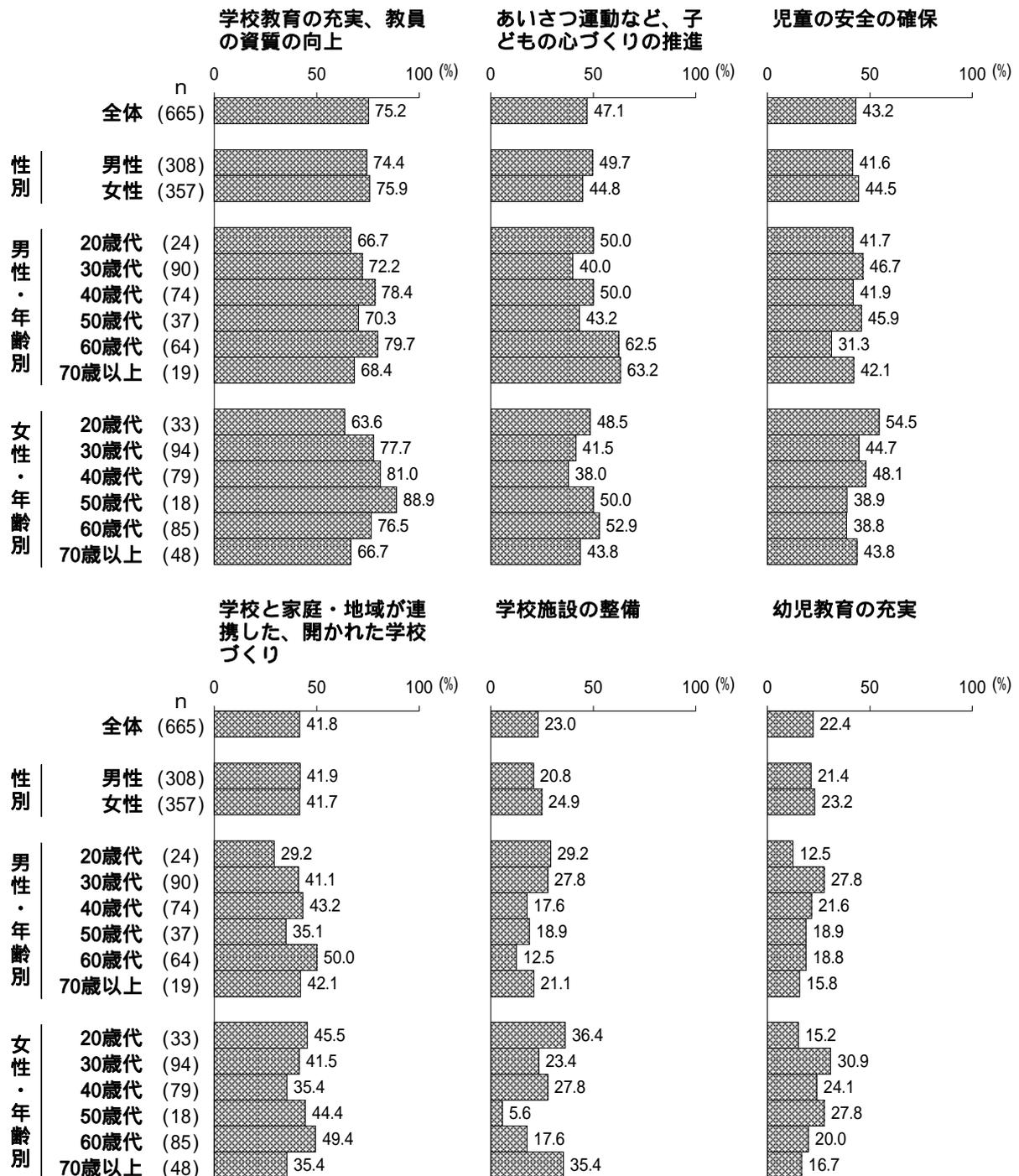


性別で見ると、「あいさつ運動など、子どもの心づくりの推進」は、男性(49.7%)の方が女性(44.8%)より4.9ポイント高くなっている。一方、「学校施設の整備」は、女性(24.9%)の方が男性(20.8%)より4.1ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「学校教育の充実、教員の資質の向上」は、男女の40歳代と男性の60歳代(79.7%)で8割前後と高くなっている。「あいさつ運動など、子どもの心づくりの推進」は、男性の60歳代(62.5%)で6割を超え、「児童の安全の確保」は女性の20歳代(54.5%)で5割台半ばと最も高くなっている。

(図表11 - 12)

<図表11 - 12> 教育のための取り組みとして大切なもの 性別/性・年齢別(上位6項目)

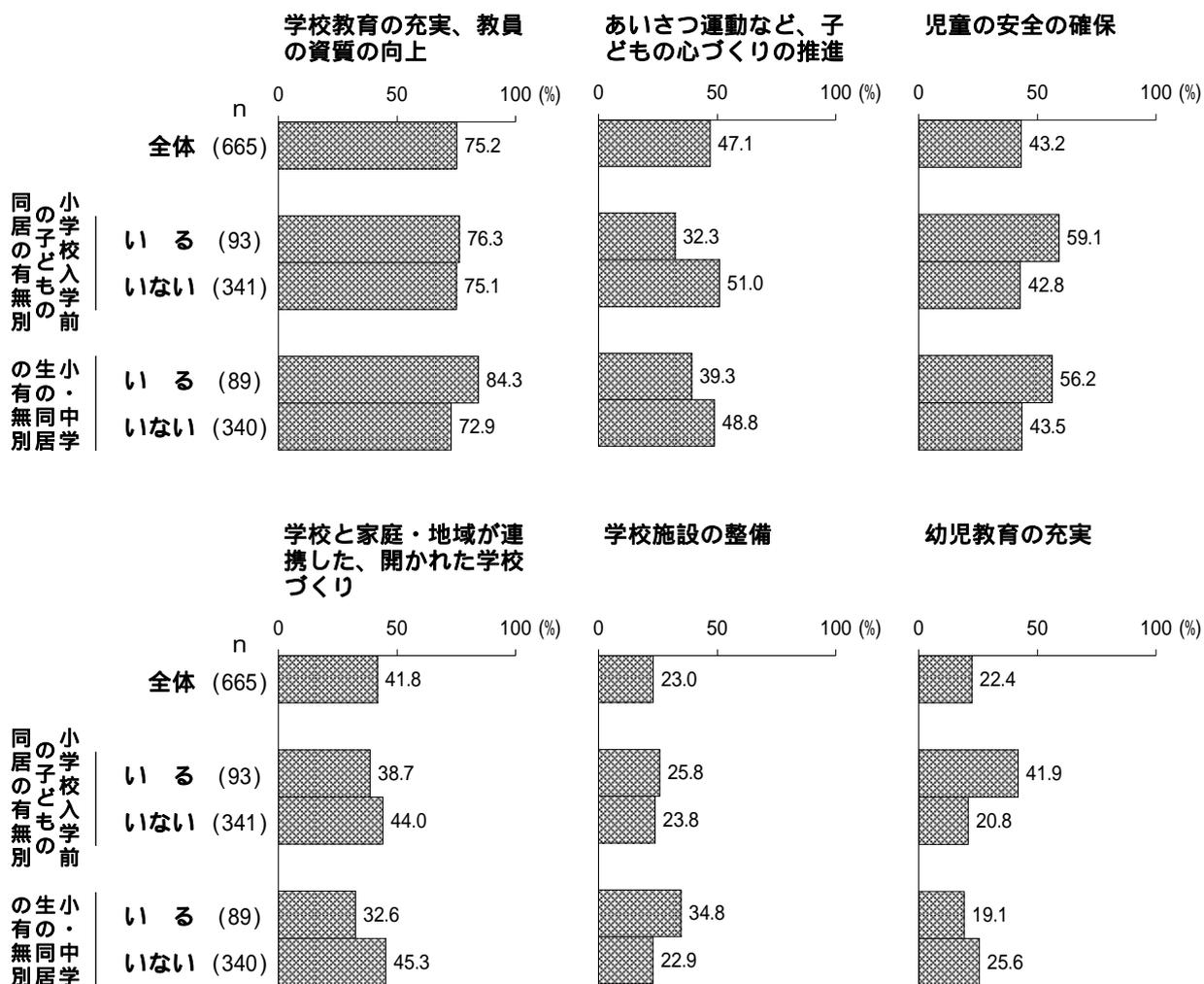


(注) 男性の“20歳代”と“70歳以上”、女性の“50歳代”については「n」(該当者数)が少ないため、具体的なコメントは行わず、参考資料とする。

小学校入学前の子ども、小・中学生の同居の有無別でみると、「学校教育の充実、教員の資質の向上」は、小・中学生がいる人（84.3%）で8割台半ばと、いない人（72.9%）より高くなっている。「あいさつ運動など、子どもの心づくりの推進」は、小学校入学前の子どもがいない人（51.0%）と小・中学生がいる人（48.8%）で5割前後と、いる人より高くなっている。「児童の安全の確保」は、小学校入学前の子どもがいる人（59.1%）と小・中学生がいる人（56.2%）で5割台後半と、いない人より高くなっている。「幼児教育の充実」は、小学校入学前の子どもがいる人（41.9%）で4割を超えている。

(図表11 - 13)

<図表11 - 13> 教育のための取り組みとして大切なもの 小学校入学前の子どもの同居の有無別 / 小・中学生の同居の有無別 (上位6項目)



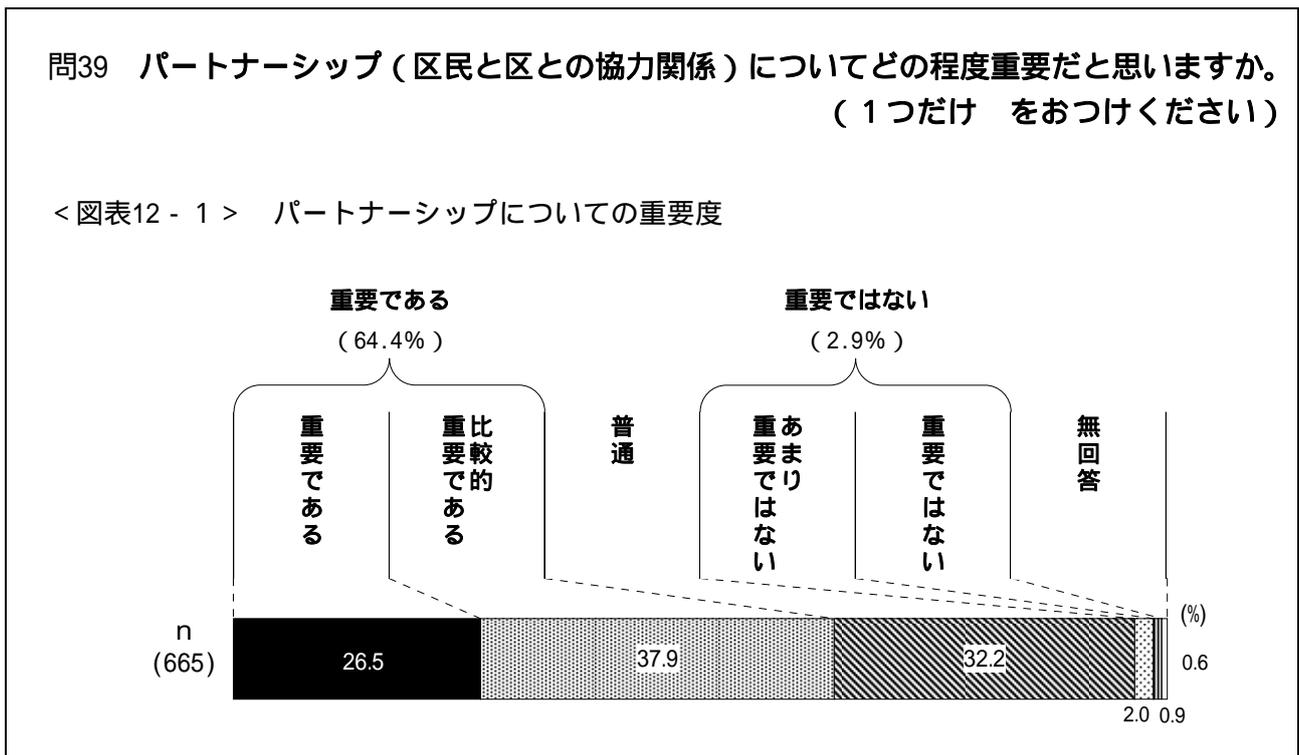
12. パートナーシップ（区民と区との協力関係）のための取り組み

本区は支えあいの地域性があり、地域での活動が盛んです。また社会では、ボランティアやNPO（非営利の社会貢献活動団体）の活動が増加しています。

地域の課題の解決のため、区民一人ひとりと、区、企業などが協力関係を深めていくことが大切で、そのため区では、区政やまちづくり活動への参加の拡大、NPOなどとの協働の促進などに取り組んでいます。

（1）パートナーシップについての重要度

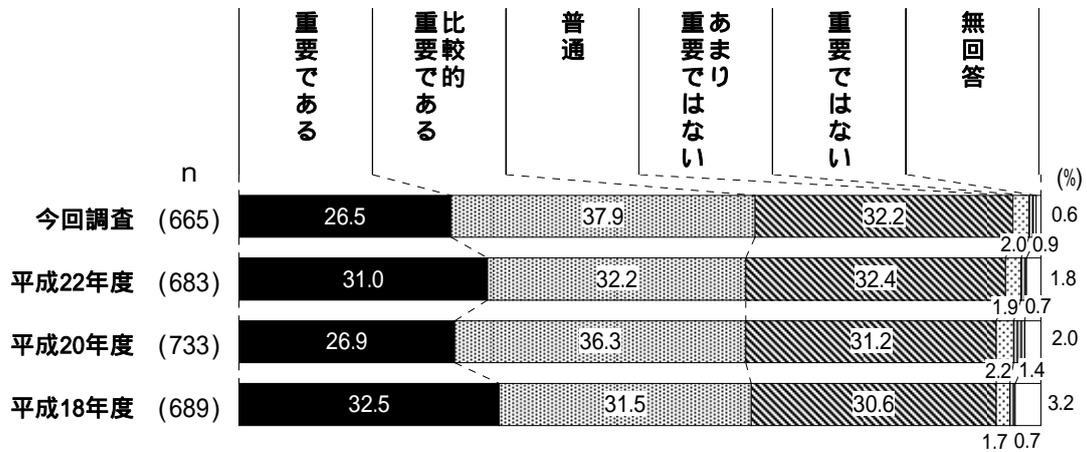
《重要である》が6割台半ば



パートナーシップの重要度を聞いたところ、「重要である」(26.5%)に「比較的重要である」(37.9%)を合わせると、《重要である》は64.4%で6割台半ばとなっている。一方、《重要ではない》(「重要ではない」と「あまり重要ではない」の合計)は2.9%である。(図表12-1)

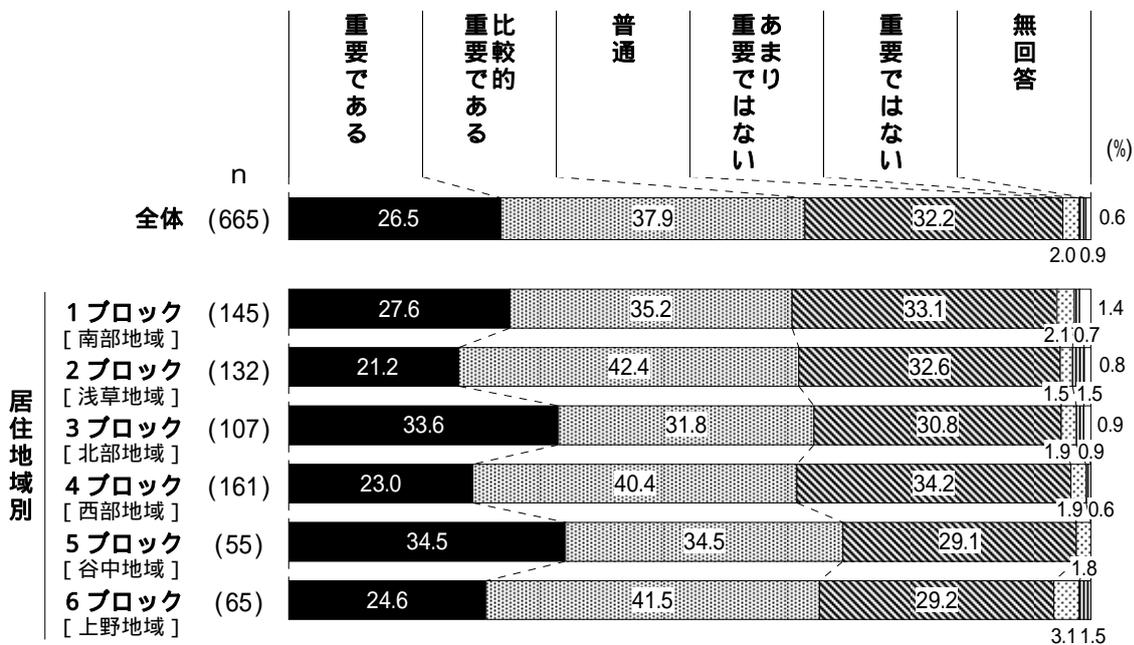
過去の調査結果と比較すると、特に大きな変化はみられない。(図表12 - 2)

<図表12 - 2> パートナーシップについての重要度 経年比較



居住地域別で見ると、《重要である》は、5ブロック[谷中地域] (69.0%) で約7割と最も高くなっている。(図表12 - 3)

<図表12 - 3> パートナーシップについての重要度 居住地域別

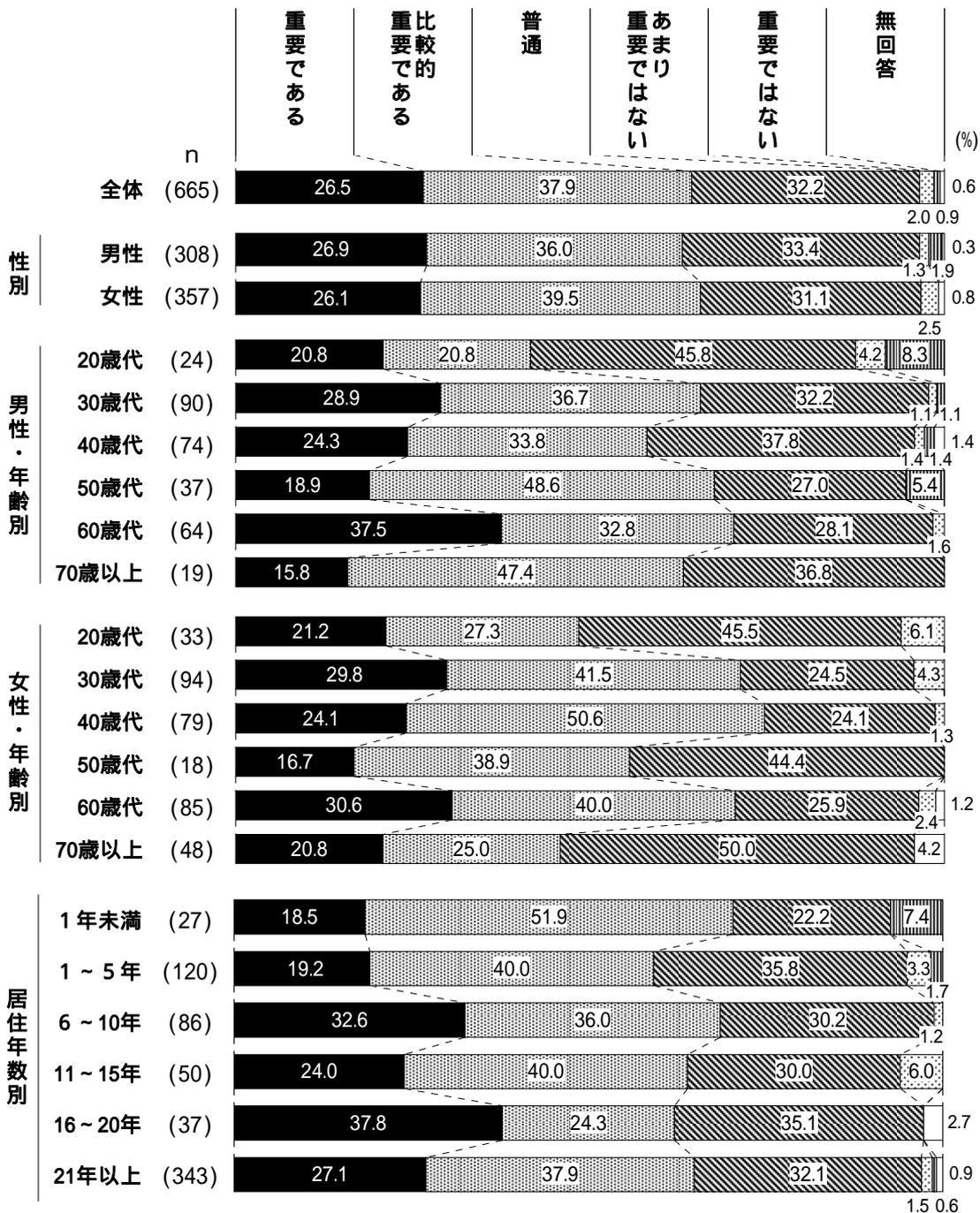


性別でみると、大きな違いはみられない。

性・年齢別でみると、《重要である》は、男女の60歳代、女性の30歳代（71.3%）と40歳代（74.7%）で7割台と高くなっている。

居住年数別でみると、《重要である》は、1年未満（70.4%）と6～10年（68.6%）で7割前後と高くなっている。（図表12 - 4）

<図表12 - 4> パートナーシップについての重要度 性別 / 性・年齢別 / 居住年数別



（注）男性の“20歳代”と“70歳以上”、女性の“50歳代”については「n」（該当者数）が少ないため、具体的なコメントは行わず、参考資料とする。

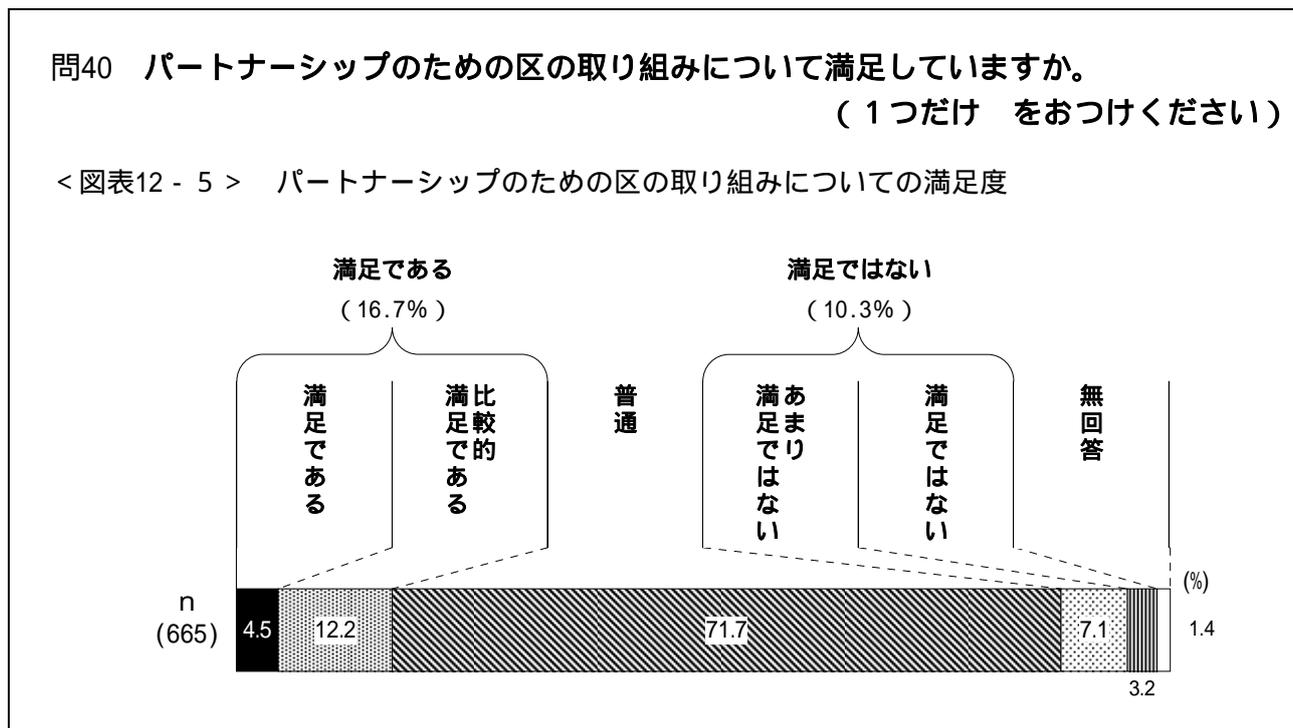
(2) パートナーシップのための区の取り組みについての満足度

「普通」が7割を超え、「満足である」は1割台半ば

問40 パートナーシップのための区の取り組みについて満足していますか。

(1つだけをおつけください)

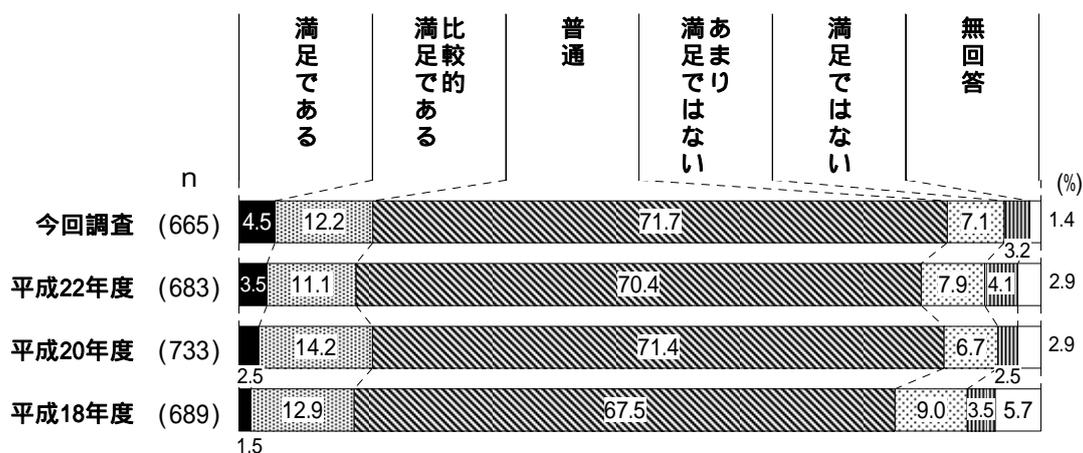
<図表12-5> パートナーシップのための区の取り組みについての満足度



パートナーシップのための区の取り組みについて、満足度を聞いたところ、「普通」(71.7%)が7割を超えて最も高くなっている。《満足である》(「満足である」と「比較的満足である」の合計)は16.7%、《満足ではない》(「満足ではない」と「あまり満足ではない」の合計)は10.3%である。(図表12-5)

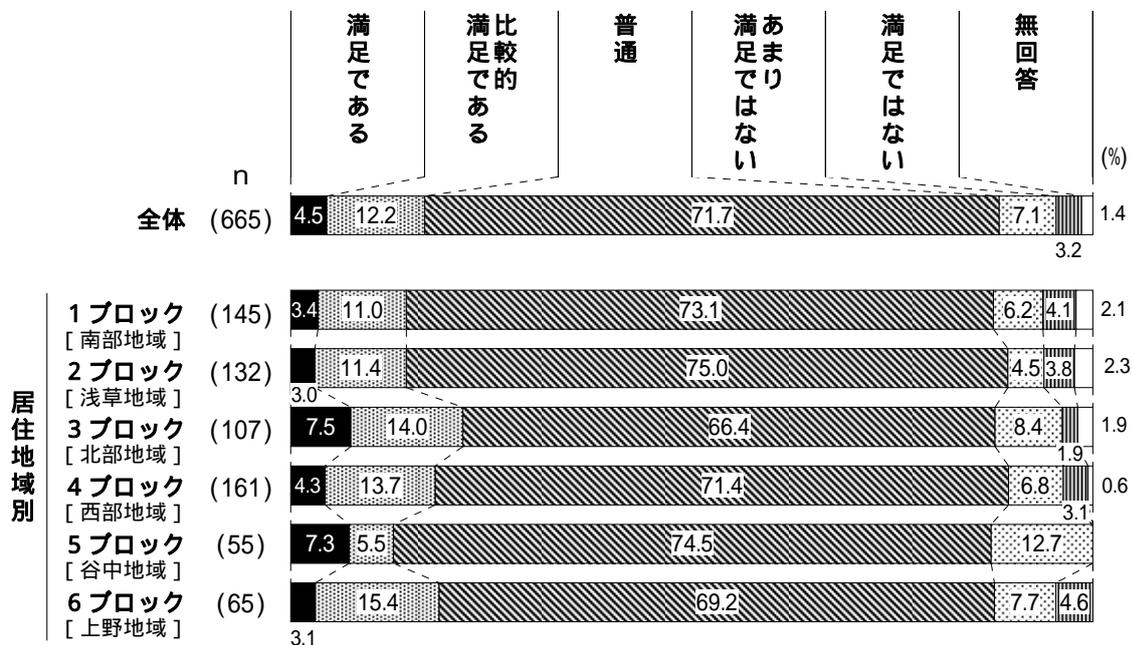
過去の調査結果と比較すると、特に大きな変化はみられない。(図表12-6)

<図表12-6> パートナーシップのための区の取り組みについての満足度 経年比較



居住地域別でみると、《満足である》は、3ブロック[北部地域] (21.5%) で2割を超えて最も高くなっている。(図表12 - 7)

<図表12 - 7> パートナーシップのための区の取り組みについての満足度 居住地域別



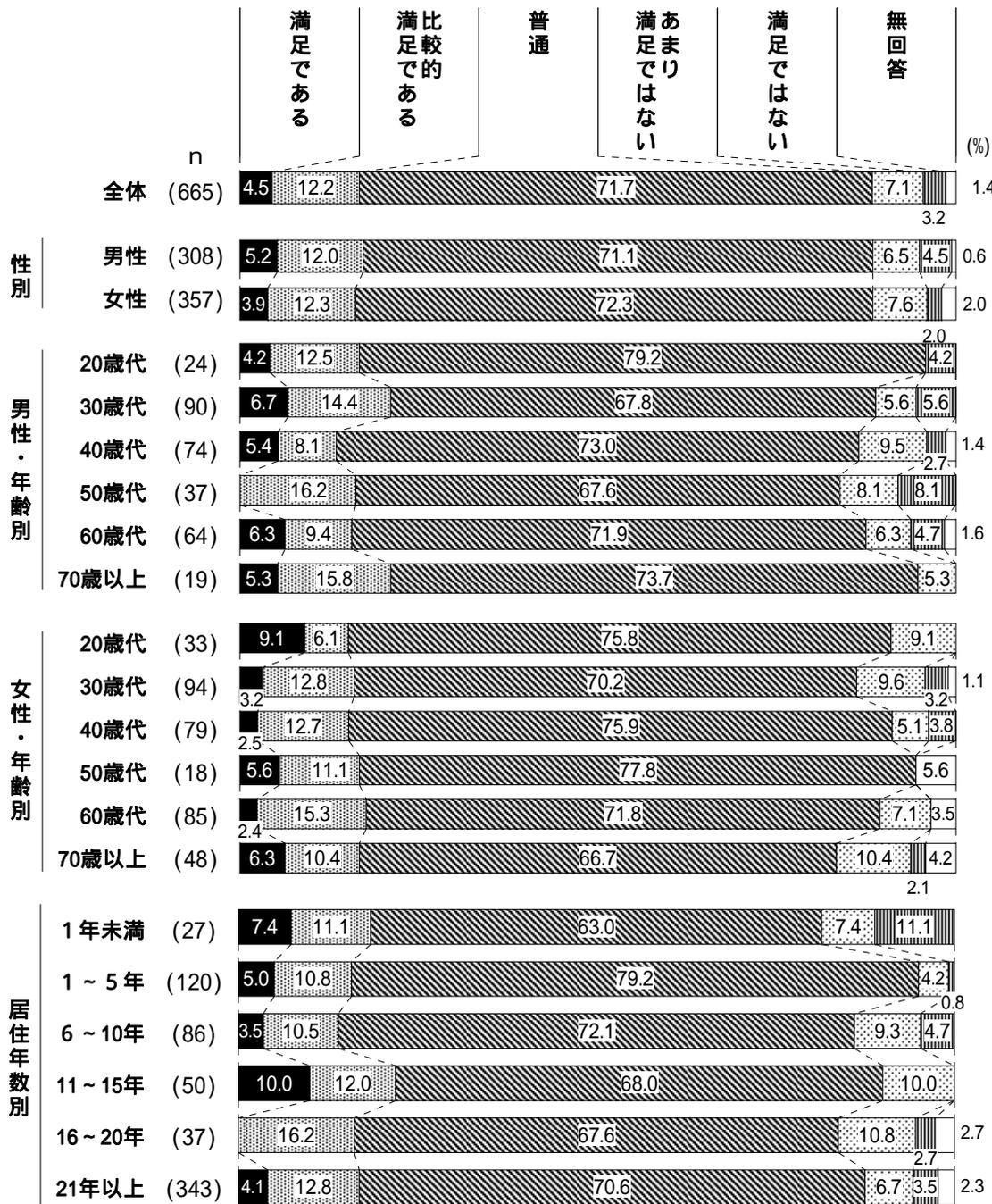
性別でみると、大きな違いはみられない。

性・年齢別でみると、《満足である》は、男性の30歳代（21.1%）で2割を超えて最も高くなっている。一方、《満足ではない》は、男性の50歳代（16.2%）で1割台半ばとなっている。

居住年数別でみると、《満足である》は、11～15年（22.0%）で2割を超えて高くなっている。

（図表12 - 8）

<図表12 - 8> パートナーシップのための区の取り組みについての満足度 性別 / 性・年齢別 / 居住年数別



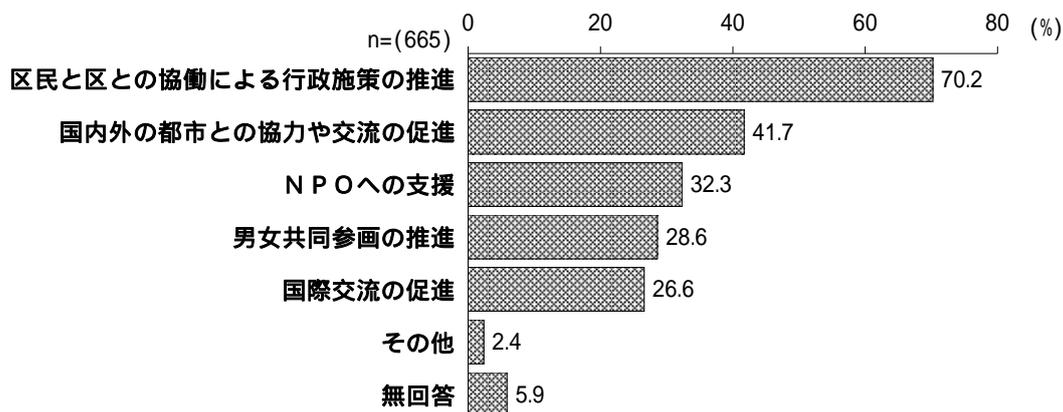
（注）男性の“20歳代”と“70歳以上”、女性の“50歳代”については「n」（該当者数）が少ないため、具体的なコメントは行わず、参考資料とする。

(3) パートナーシップのための取り組みとして大切なもの

「区民と区との協働による行政施策の推進」が7割

問41 パートナーシップのため、どのような取り組みが大切とお考えでしょうか。
(3つまで をおつけください)

<図表12-9> パートナーシップのための取り組みとして大切なもの(複数回答)

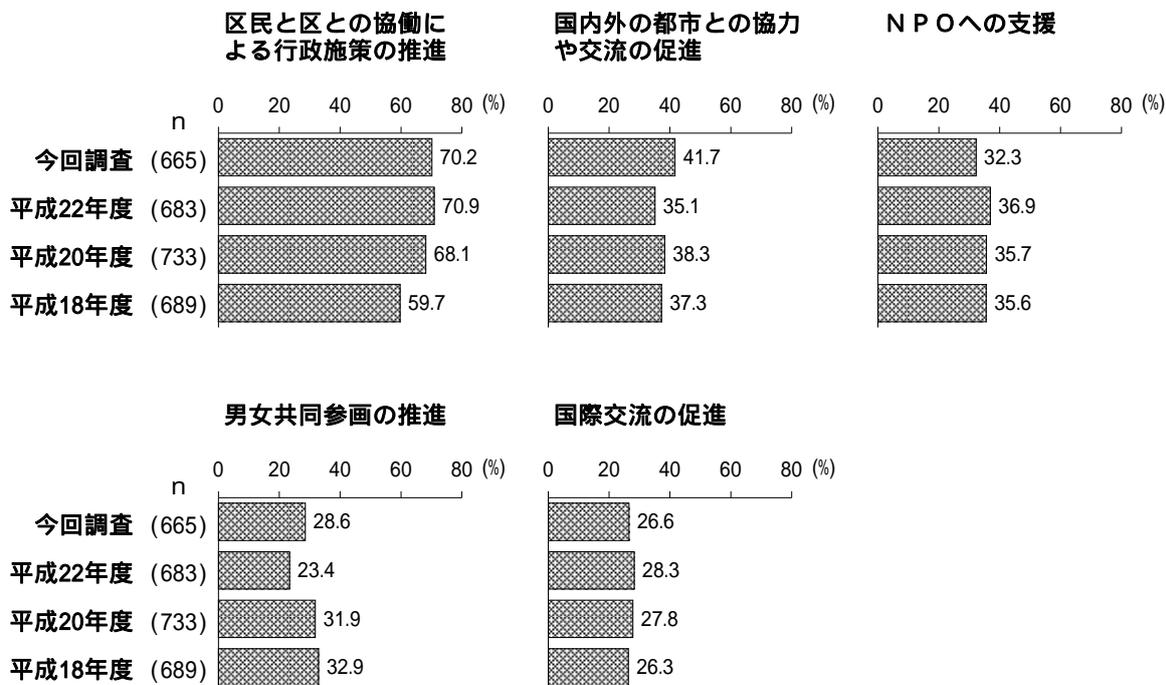


パートナーシップのための取り組みとして大切なものを聞いたところ、「区民と区との協働による行政施策の推進」(70.2%)が7割で最も高くなっている。次いで、「国内外の都市との協力や交流の促進」(41.7%)が4割を超え、「NPOへの支援」(32.3%)が3割を超えている。(図表12-9)

過去の調査結果と比較すると、「国内外の都市との協力や交流の促進」(41.7%)は平成22年度(35.1%)から6.6ポイント、「男女共同参画の推進」(28.6%)は平成22年度(23.4%)から5.2ポイント増加している。一方、「NPOへの支援」(32.3%)は平成22年度(36.9%)から4.6ポイント減少している。

(図表12 - 10)

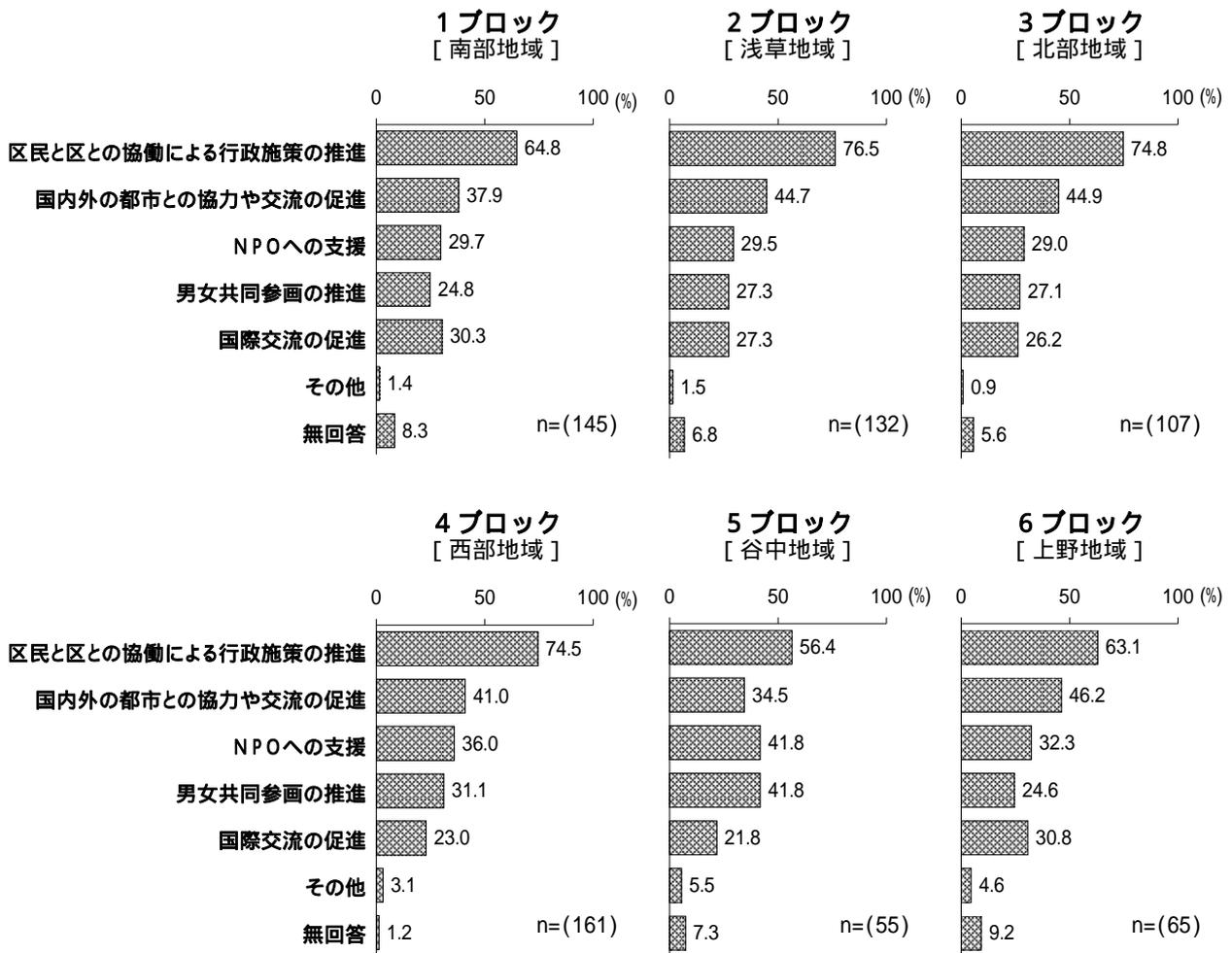
<図表12 - 10> パートナーシップのための取り組みとして大切なもの 経年比較



平成18年度は「区民が、施設の窓口事務など、行政の一部を担える仕組みづくり」、平成20年度以降は「区民と区との協働による行政施策の推進」

居住地域別でみると、「区民と区との協働による行政施策の推進」は、すべての地域において最も高く、特に、2ブロック[浅草地域]（76.5%）3ブロック[北部地域]（74.8%）4ブロック[西部地域]（74.5%）は7割台半ばとなっている。「国内外の都市との協力や交流の促進」は、2ブロック[浅草地域]（44.7%）3ブロック[北部地域]（44.9%）6ブロック[上野地域]（46.2%）で4割台半ばとなっている。（図表12-11）

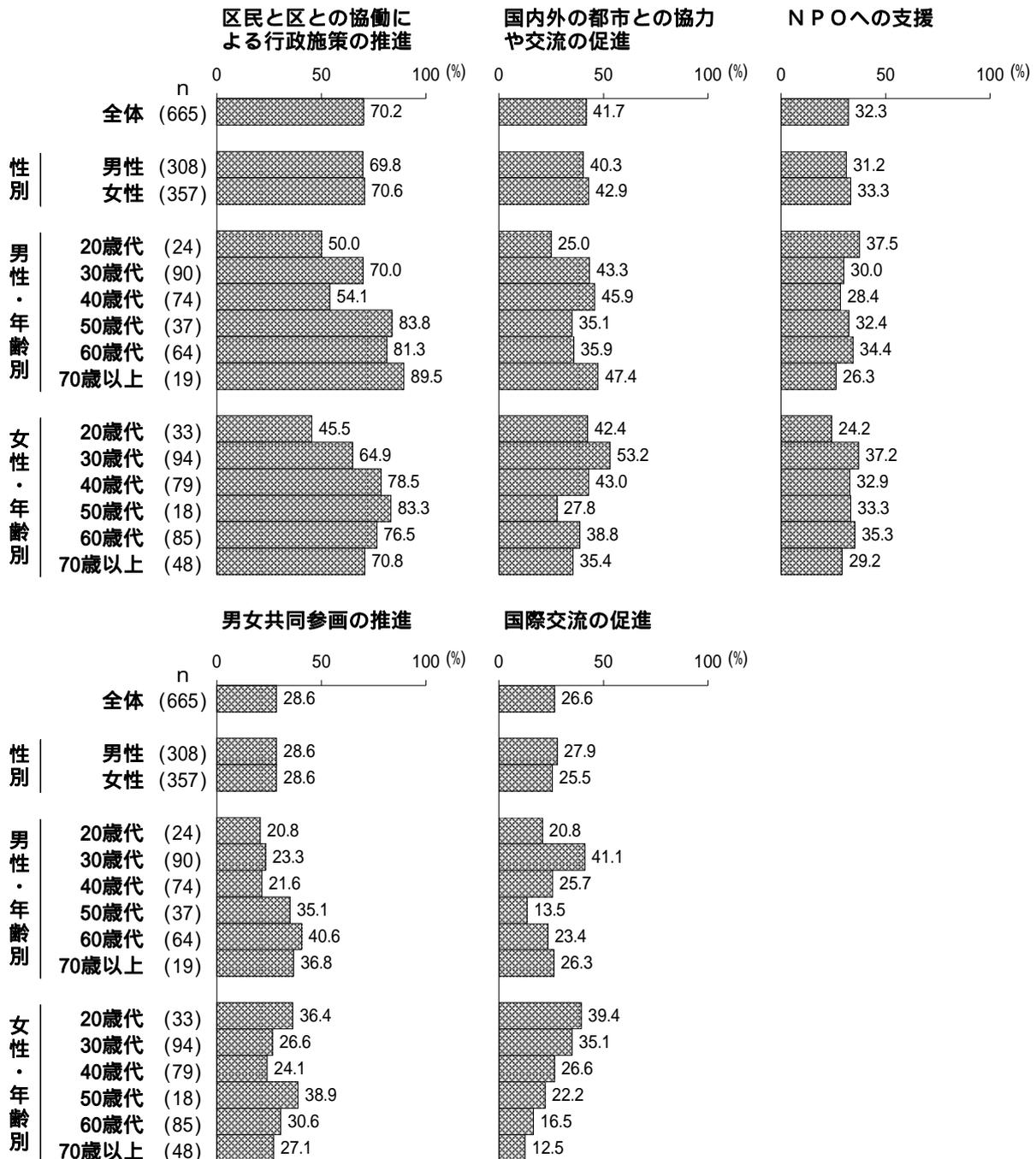
<図表12-11> パートナーシップのための取り組みとして大切なもの 居住地域別



性別でみると、大きな違いはみられない。

性・年齢別でみると、「区民と区との協働による行政施策の推進」は、男性の50歳代（83.8%）と60歳代（81.3%）で8割を超え、女性の40歳代（78.5%）と60歳代（76.5%）で7割台後半と高くなっている。「国内外の都市との協力や交流の促進」は、女性の30歳代（53.2%）で5割台半ばと高くなっている。「国際交流の促進」は、男性では30歳代（41.1%）で4割を超えて高く、女性では年齢が上がるほど低下する傾向がみられる。（図表12 - 12）

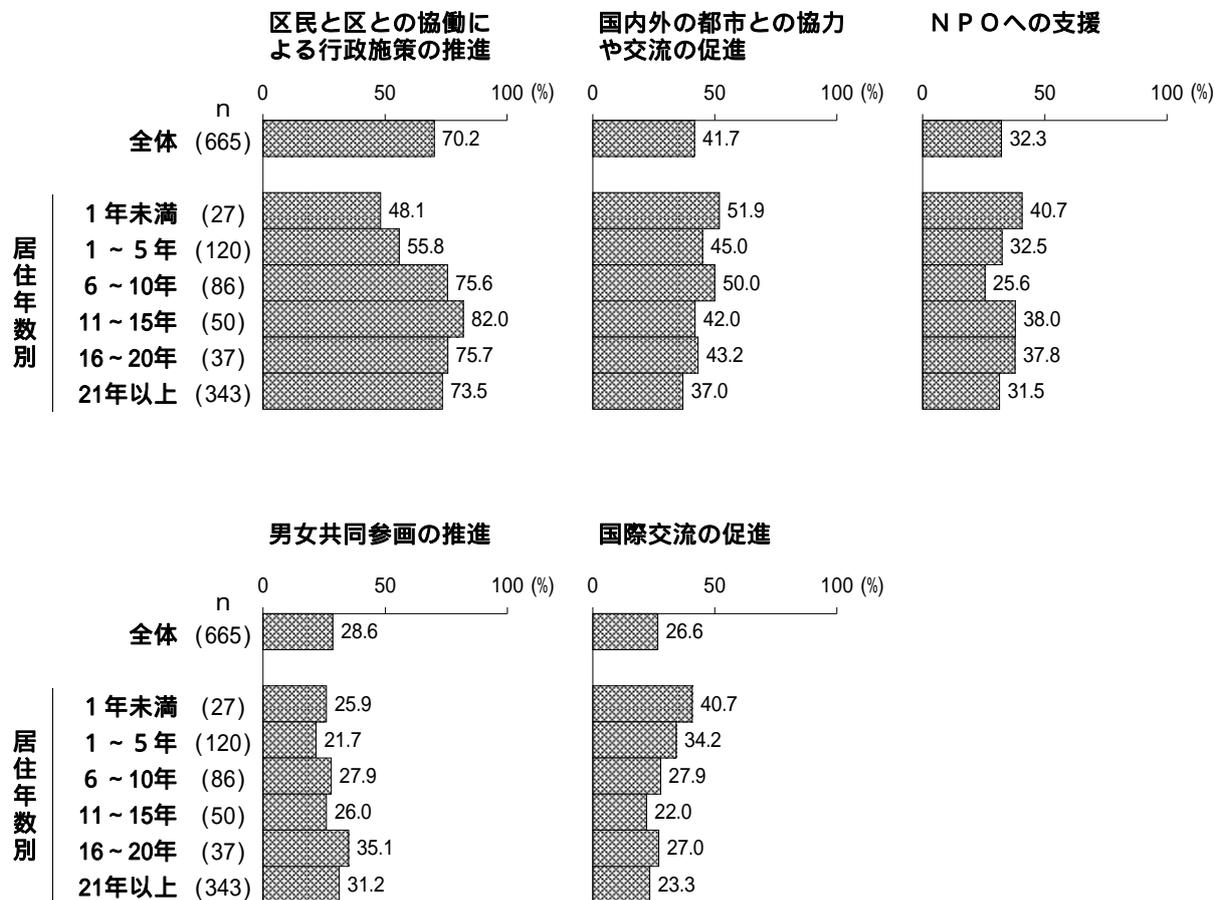
<図表12 - 12> パートナーシップのための取り組みとして大切なもの 性別/性・年齢別



（注）男性の“20歳代”と“70歳以上”、女性の“50歳代”については「n」（該当者数）が少ないため、具体的なコメントは行わず、参考資料とする。

居住年数別でみると、「区民と区との協働による行政施策の推進」は、11～15年（82.0%）で8割を超えて高くなっている。（図表12 - 13）

<図表12 - 13> パートナーシップのための取り組みとして大切なもの 居住年数別

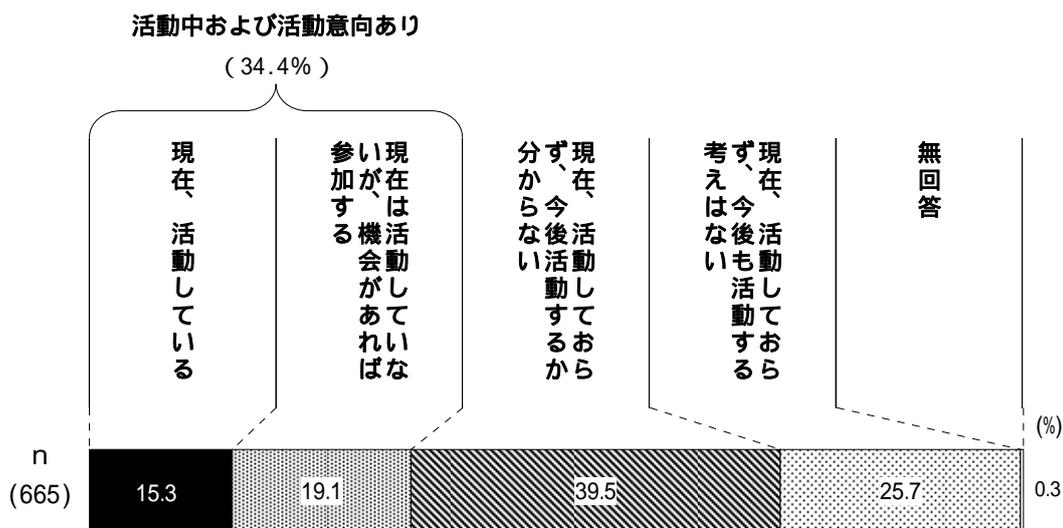


(4) 地域の活動の状況と今後の活動予定

《活動中および活動意向あり》は3割台半ば

問42 あなたは、地域の活動（町会やP T Aなど）をしていますか、または、今後、活動するお考えがありますか。（1つだけをおつけください）

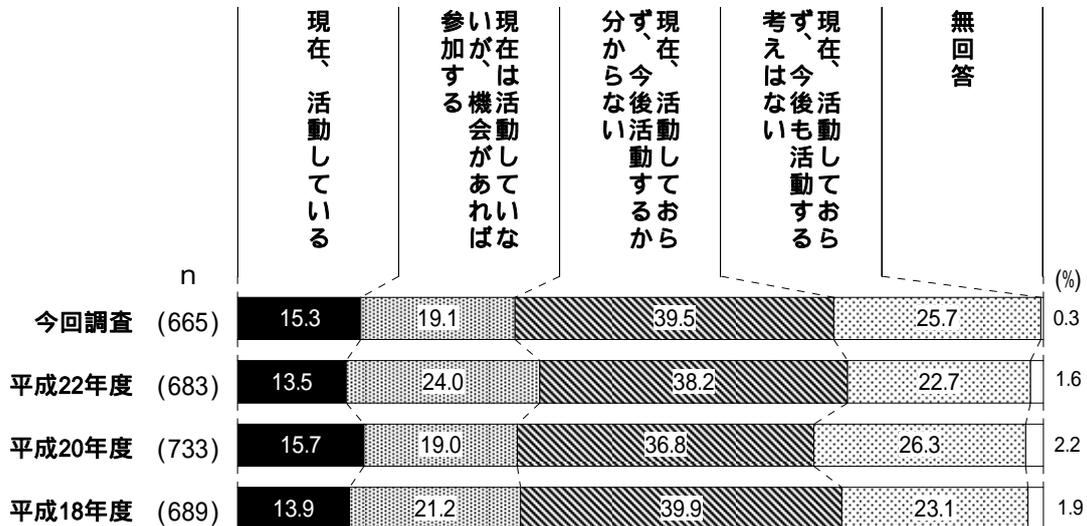
< 図表12 - 14 > 地域の活動の状況と今後の活動予定



地域の活動の状況と今後の活動予定について聞いたところ、「現在、活動しておらず、今後活動するか分からない」(39.5%)が約4割で最も高くなっている。「現在、活動している」(15.3%)と「現在は活動していないが、機会があれば参加する」(19.1%)を合わせると、《活動中および活動意向あり》(34.4%)は3割台半ばとなっている。「現在、活動しておらず、今後も活動する考えはない」(25.7%)は2割台半ばとなっている。(図表12 - 14)

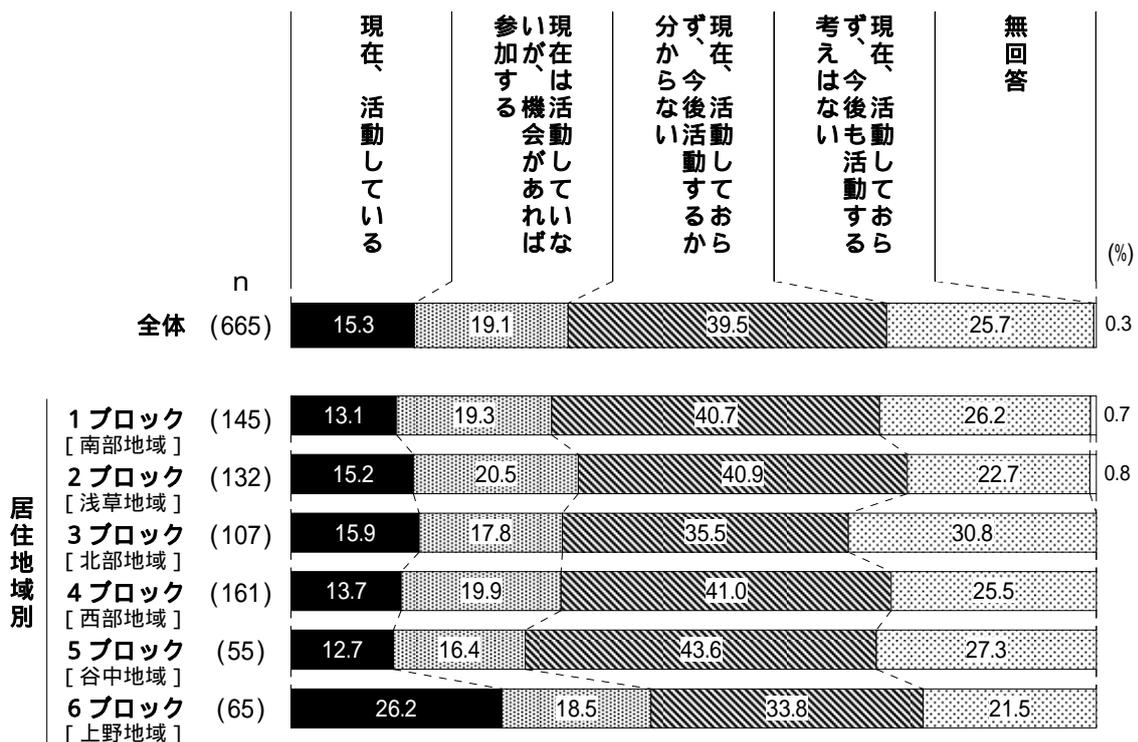
過去の調査結果と比較すると、《活動中および活動意向あり》(34.4%)は、平成22年度(37.5%)より3.1ポイント減少している。(図表12-15)

<図表12-15> 地域の活動の状況と今後の活動予定 経年比較



居住地域別でみると、「現在、活動している」は、6ブロック[上野地域](26.2%)で2割台半ばと最も高くなっている。《活動中および活動意向あり》でも、[上野地域](44.7%)で4割台半ばと最も高くなっている。一方、「現在、活動しておらず、今後も活動する考えはない」は、3ブロック[北部地域](30.8%)で3割と高くなっている。(図表12-16)

<図表12-16> 地域の活動の状況と今後の活動予定 居住地域別

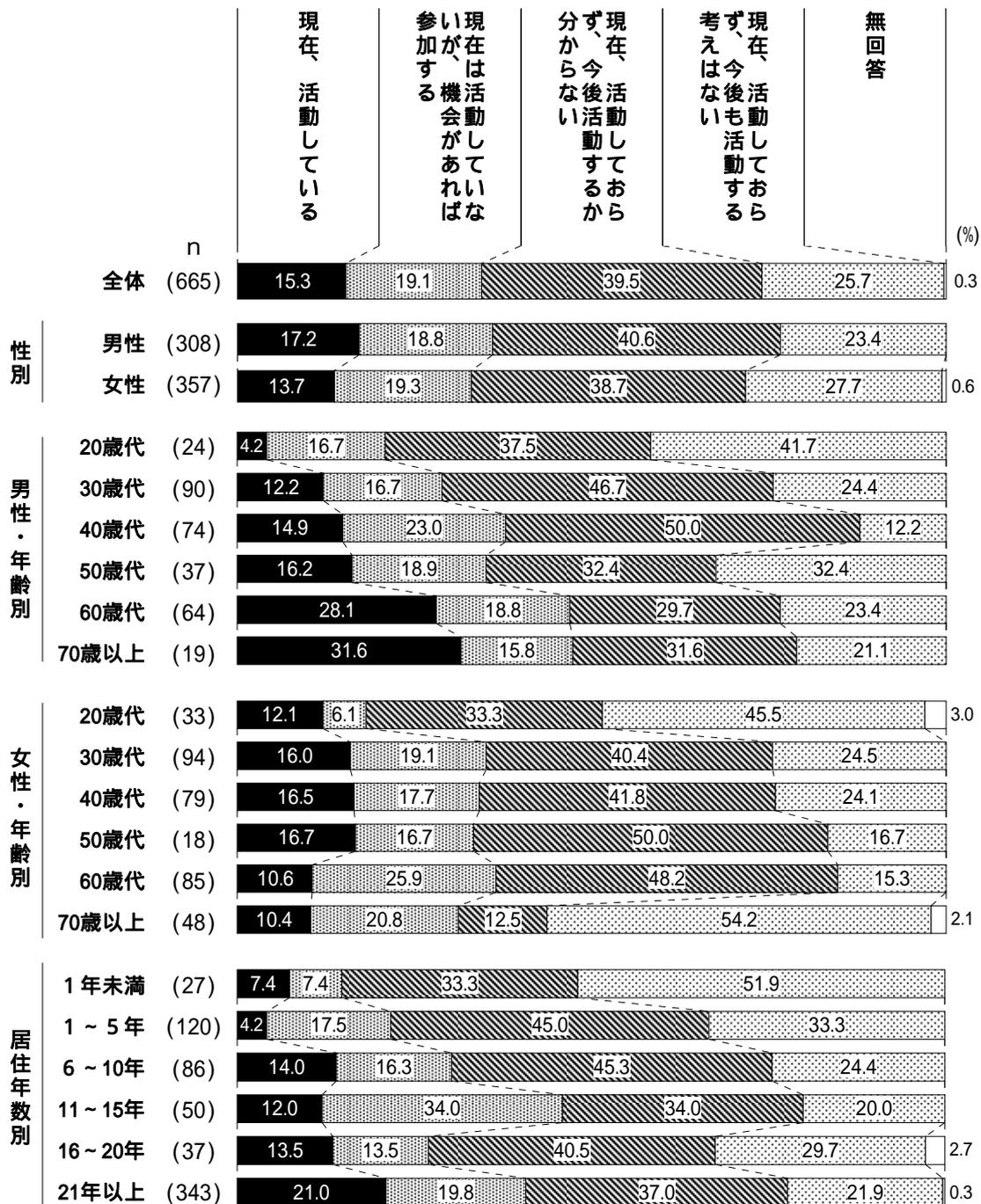


性別でみると、「現在、活動しておらず、今後も活動する考えはない」は、女性（27.7%）の方が男性（23.4%）より4.3ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、「活動中および活動意向あり」は、男性の60歳代（46.9%）で4割台半ばと高くなっている。

居住年数別でみると、「活動中および活動意向あり」は、11～15年（46.0%）で4割台半ば、21年以上（40.8%）で4割と高くなっている。（図表12 - 17）

<図表12 - 17> 地域の活動の状況と今後の活動予定 性別 / 性・年齢別 / 居住年数別



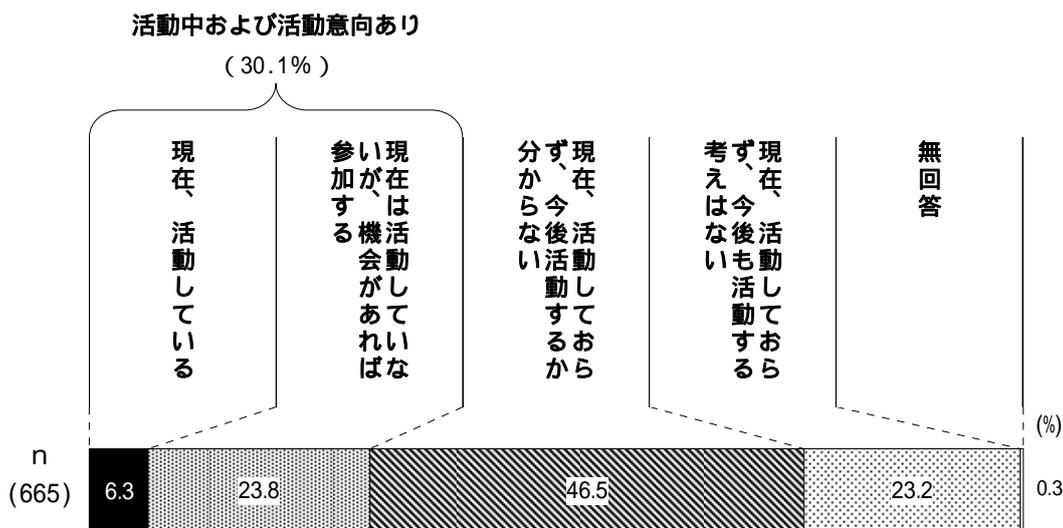
(注) 男性の“20歳代”と“70歳以上”、女性の“50歳代”については「n」(該当者数)が少ないため、具体的なコメントは行わず、参考資料とする。

(5) ボランティアやNPO活動と今後の活動予定

《活動中および活動意向あり》は3割

問43 あなたは、ボランティアやNPO活動をしていますか、または、今後、活動する
お考えがありますか。 (1つだけをおつけください)

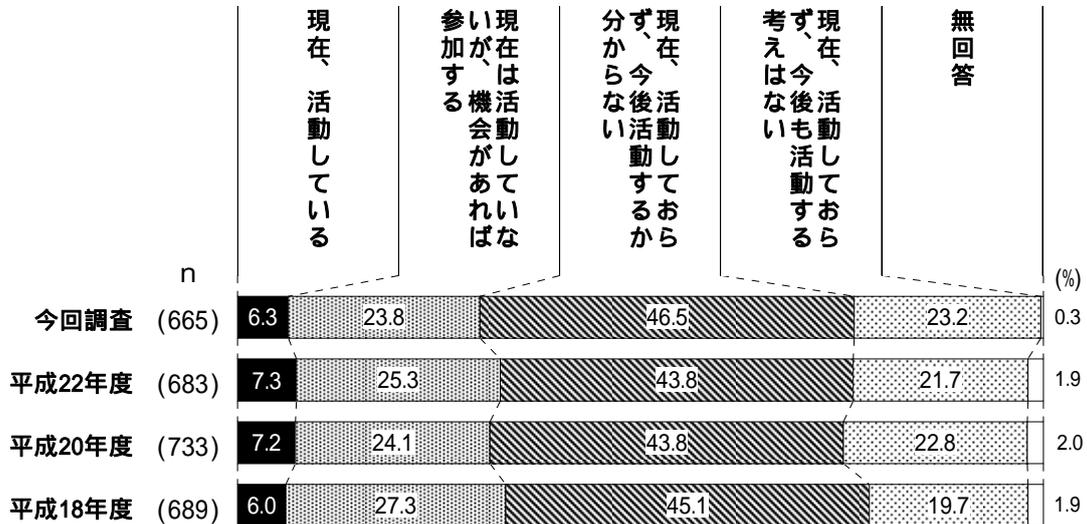
<図表12-18> ボランティアやNPO活動と今後の活動予定



ボランティアやNPO活動と今後の活動予定について聞いたところ、「現在、活動しておらず、今後活動するか分からない」(46.5%)が4割台半ばで最も高くなっている。「現在、活動している」(6.3%)と「現在は活動していないが、機会があれば参加する」(23.8%)を合わせると、《活動中および活動意向あり》(30.1%)は3割となっている。「現在、活動しておらず、今後も活動する考えはない」(23.2%)は2割台半ばとなっている。(図表12-18)

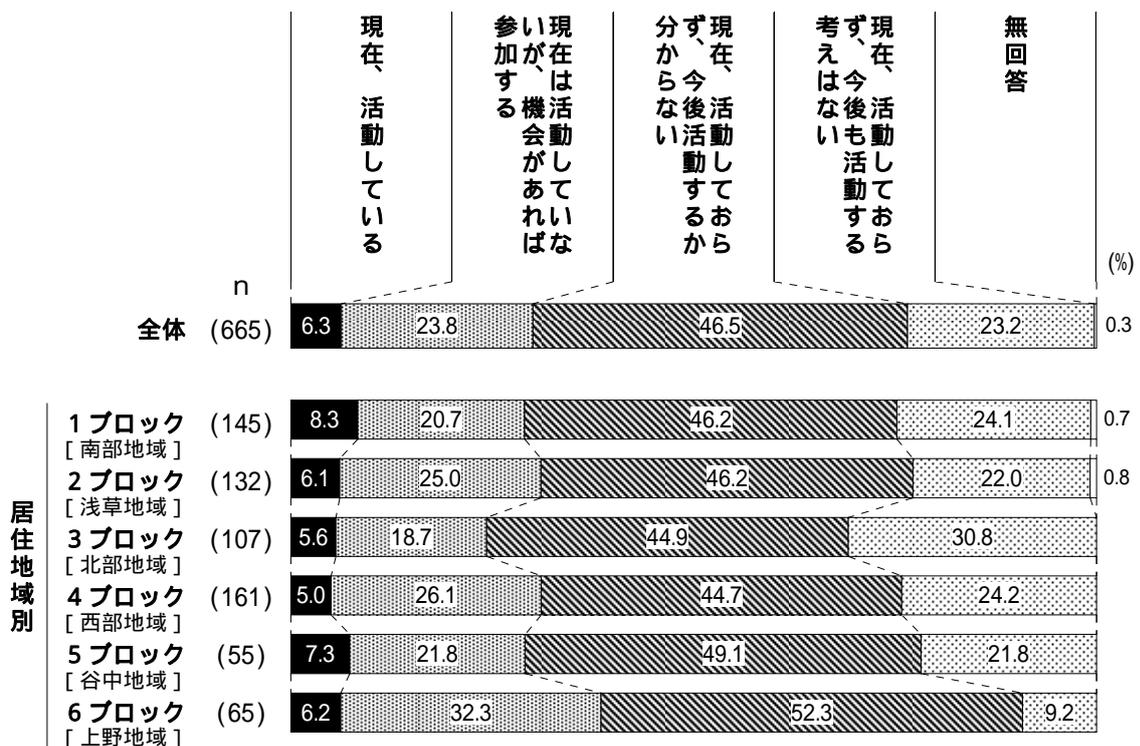
過去の調査結果と比較すると、《活動中および活動意向あり》(30.1%)は、平成22年度(32.6%)より2.5ポイント減少している。(図表12-19)

<図表12-19> ボランティアやNPO活動と今後の活動予定 経年比較



居住地域別で見ると、《活動中および活動意向あり》は、6ブロック[上野地域](38.5%)で約4割と最も高くなっている。(図表12-20)

<図表12-20> ボランティアやNPO活動と今後の活動予定 居住地域別



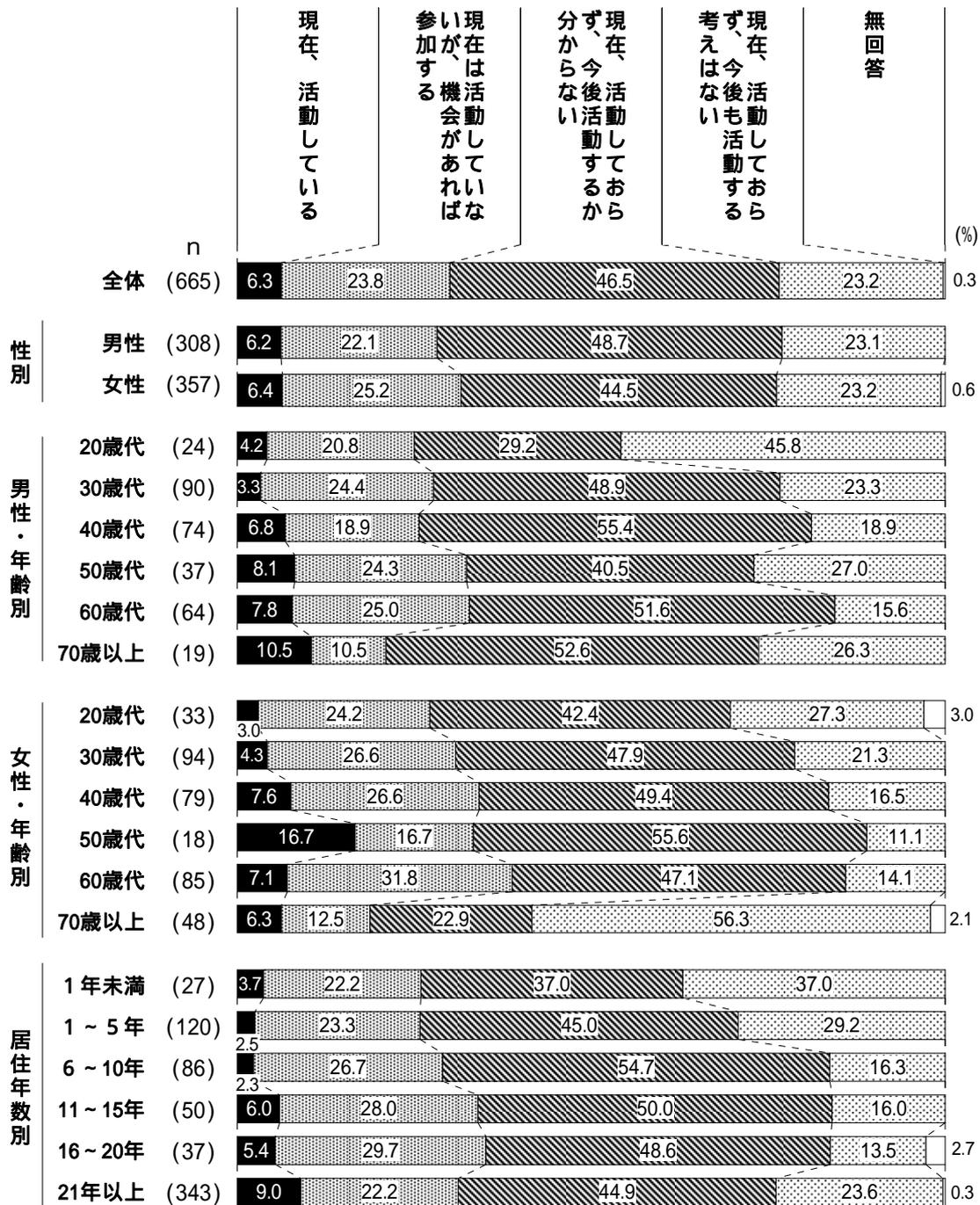
性別でみると、大きな違いはみられない。

性・年齢別でみると、《活動中および活動意向あり》は、女性の60歳代（38.9%）で約4割と高くなっている。

居住年数別でみると、《活動中および活動意向あり》は、11～20年で3割台半ばと高くなっている。

（図表12 - 21）

<図表12 - 21> ボランティアやNPO活動と今後の活動予定 性別 / 性・年齢別 / 居住年数別



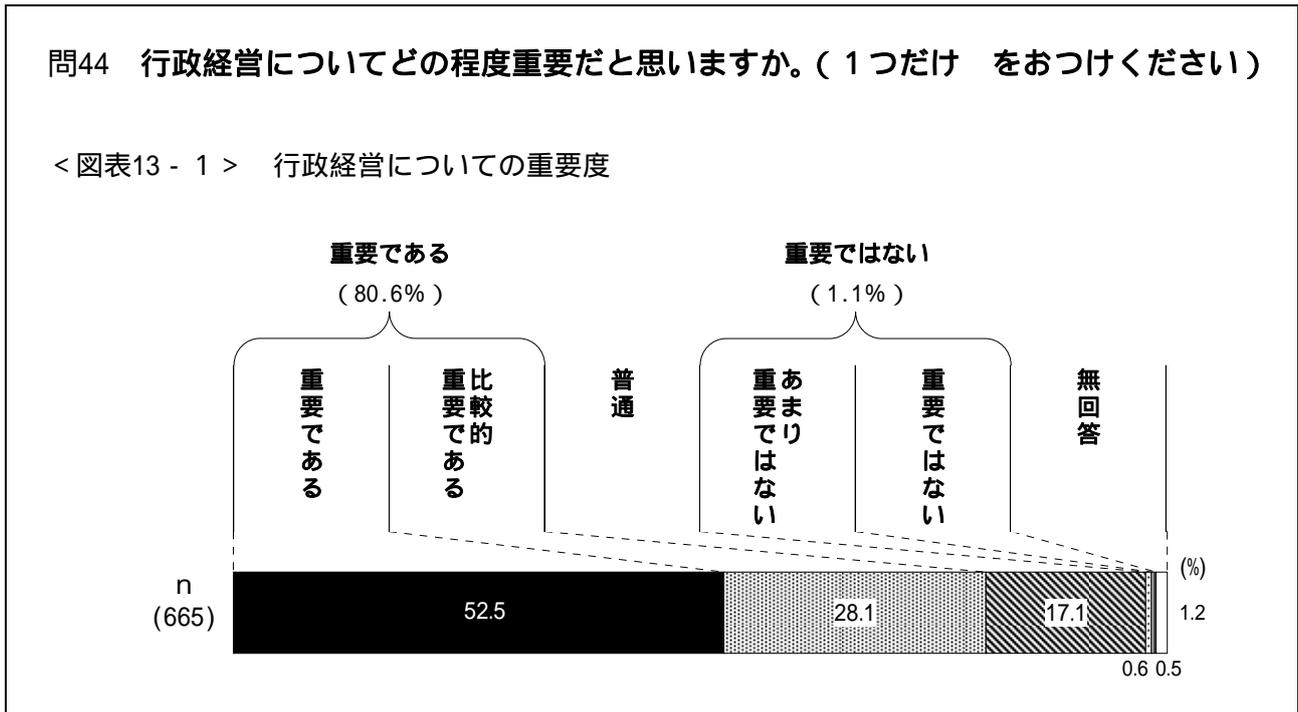
（注）男性の“20歳代”と“70歳以上”、女性の“50歳代”については「n」（該当者数）が少ないため、具体的なコメントは行わず、参考資料とする。

13 . 行政経営のための取り組み

国全体で行政改革が進められています。本区も行政改革を進めてきました。今後、区民に満足していただける行政サービスを提供していくためには、限られた財源や人員を、より効果的・効率的に活かしていく行政が必要です。そのため、区では、施策や事業の不断の見直し、健全な財政の推進、職員数の削減、そして行政の外部からのチェックなど、行政経営の取り組みを進めています。

(1) 行政経営についての重要度

《重要である》が8割

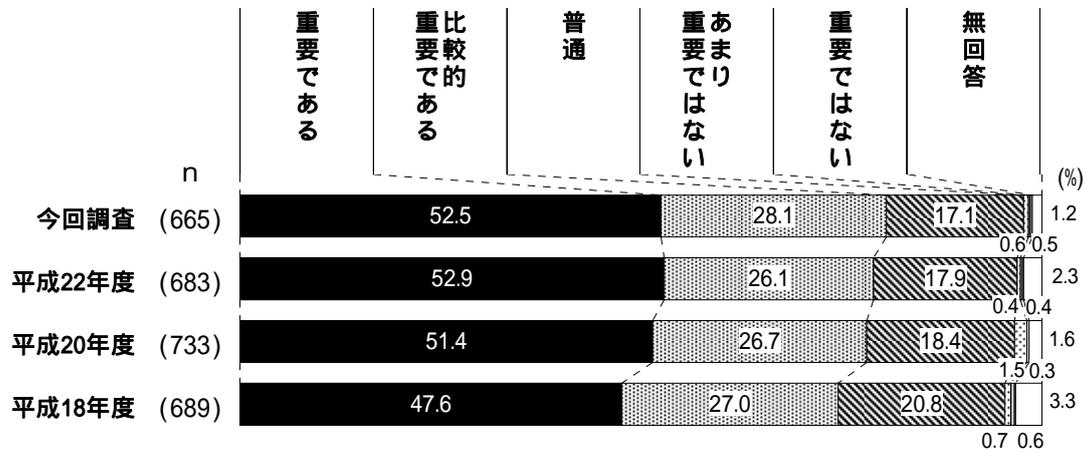


行政経営についての重要度を聞いたところ、「重要である」(52.5%)が5割を超えて最も高くなっている。これに「比較的 important である」(28.1%)を合わせると、《重要である》は80.6%で8割となっている。一方、《重要ではない》(「重要ではない」と「あまり重要ではない」の合計)は1.1%である。

(図表13 - 1)

過去の調査結果と比較すると、《重要である》(80.6%)は、平成18年度(74.6%)以降増加傾向がみられる。(図表13-2)

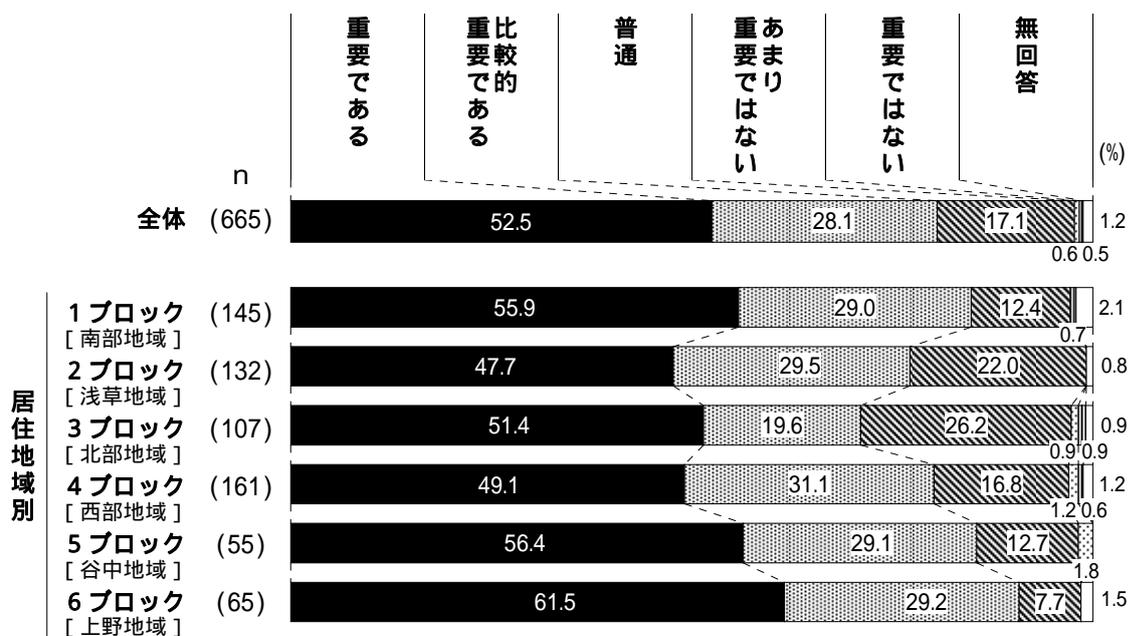
<図表13-2> 行政経営についての重要度 経年比較



居住地域別でみると、《重要である》は、6ブロック[上野地域](90.7%)で9割と最も高く、次いで、5ブロック[谷中地域](85.5%)と1ブロック[南部地域](84.9%)で8割台半ばとなっている。

(図表13-3)

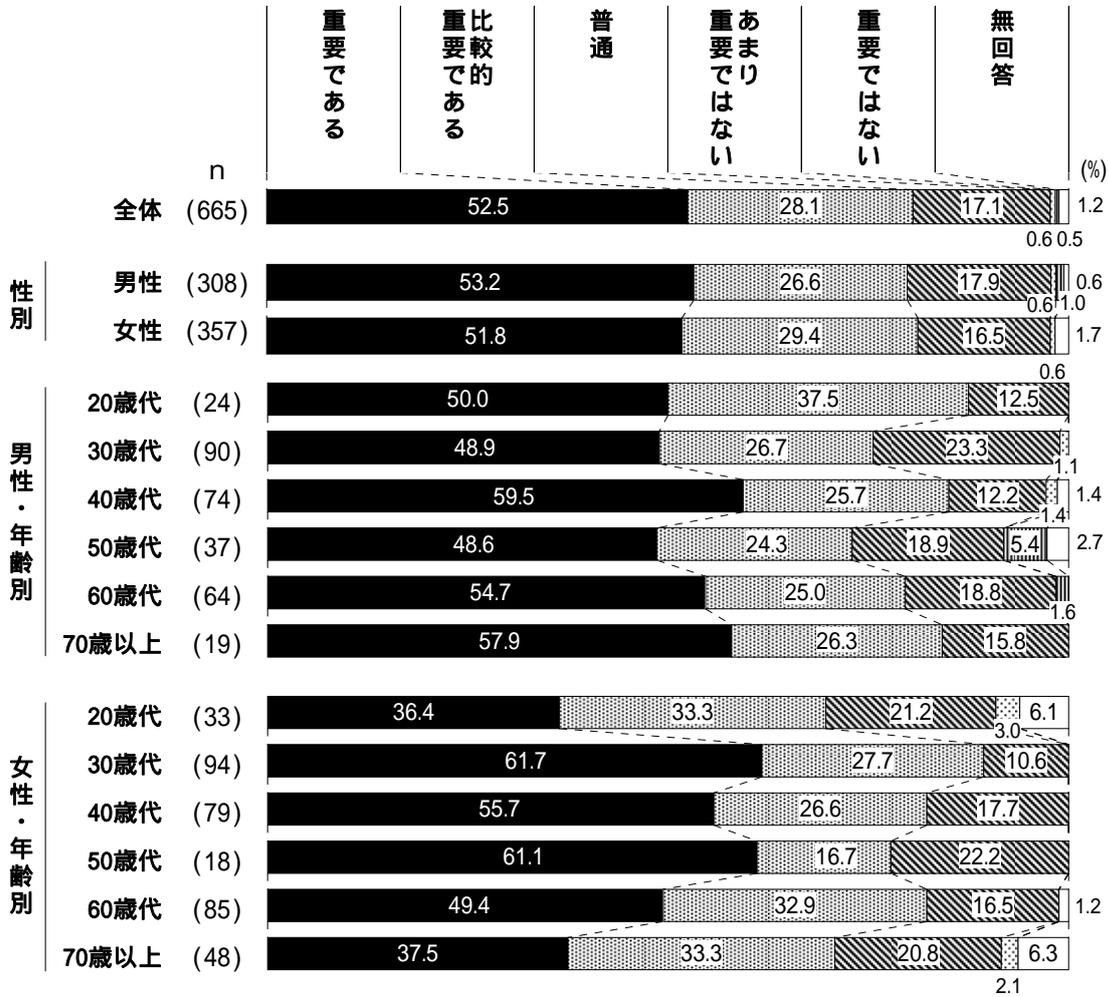
<図表13-3> 行政経営についての重要度 居住地域別



性別でみると、大きな違いはみられない。

性・年齢別でみると、《重要である》は、女性の30歳代（89.4%）で約9割、男性の40歳代（85.2%）で8割台半ばと高くなっている。（図表13 - 4）

<図表13 - 4> 行政経営についての重要度 性別 / 性・年齢別



(注) 男性の“20歳代”と“70歳以上”、女性の“50歳代”については「n」(該当者数)が少ないため、具体的なコメントは行わず、参考資料とする。

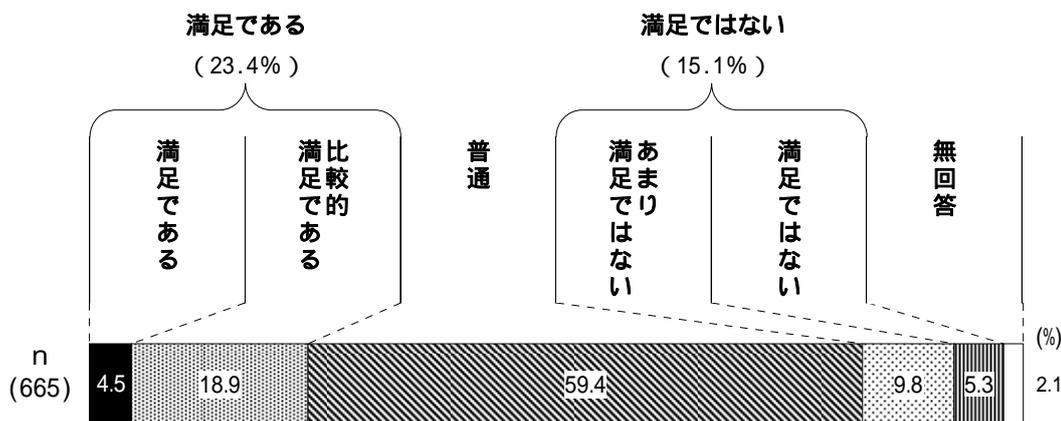
(2) 行政経営のための区の取り組みについての満足度

「普通」が約6割、「満足である」は2割台半ば

問45 行政経営のための区の取り組みについて満足していますか。

(1つだけをおつけください)

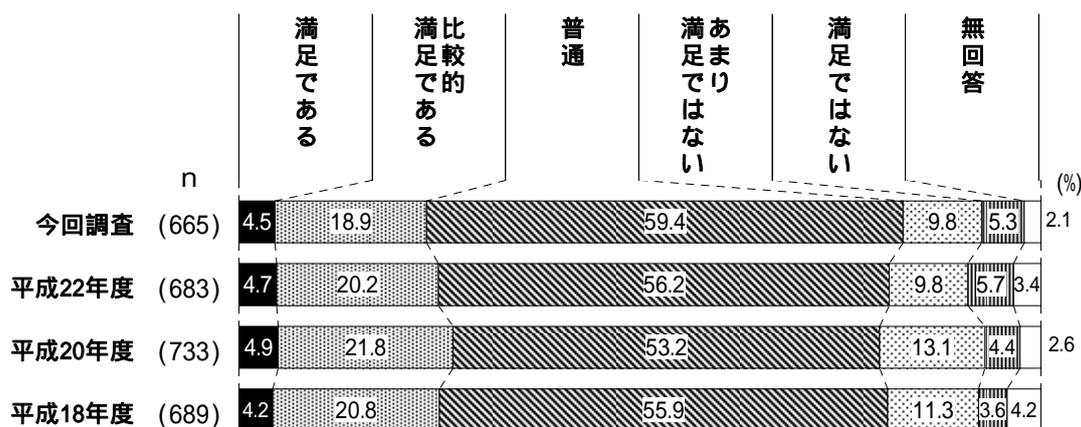
<図表13-5> 行政経営のための区の取り組みについての満足度



行政経営のための区の取り組みについて、満足度を聞いたところ、「普通」(59.4%)が約6割で最も高くなっている。《満足である》(「満足である」と「比較的満足である」の合計)は23.4%、《満足ではない》(「満足ではない」と「あまり満足ではない」の合計)は15.1%である。(図表13-5)

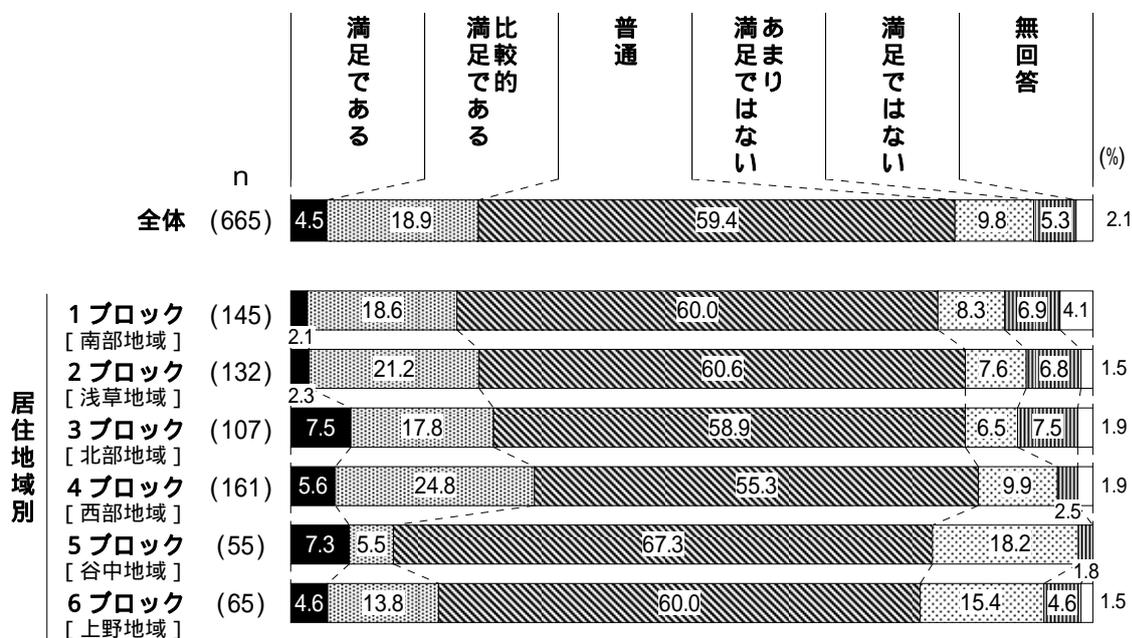
過去の調査結果と比較すると、特に大きな変化はみられない。(図表13-6)

<図表13-6> 行政経営のための区の取り組みについての満足度 経年比較



居住地域別でみると、《満足である》は、4ブロック[西部地域]（30.4%）で3割と最も高くなっている。一方、《満足ではない》は、5ブロック[谷中地域]（20.0%）と6ブロック[上野地域]（20.0%）で2割と高くなっている。（図表13 - 7）

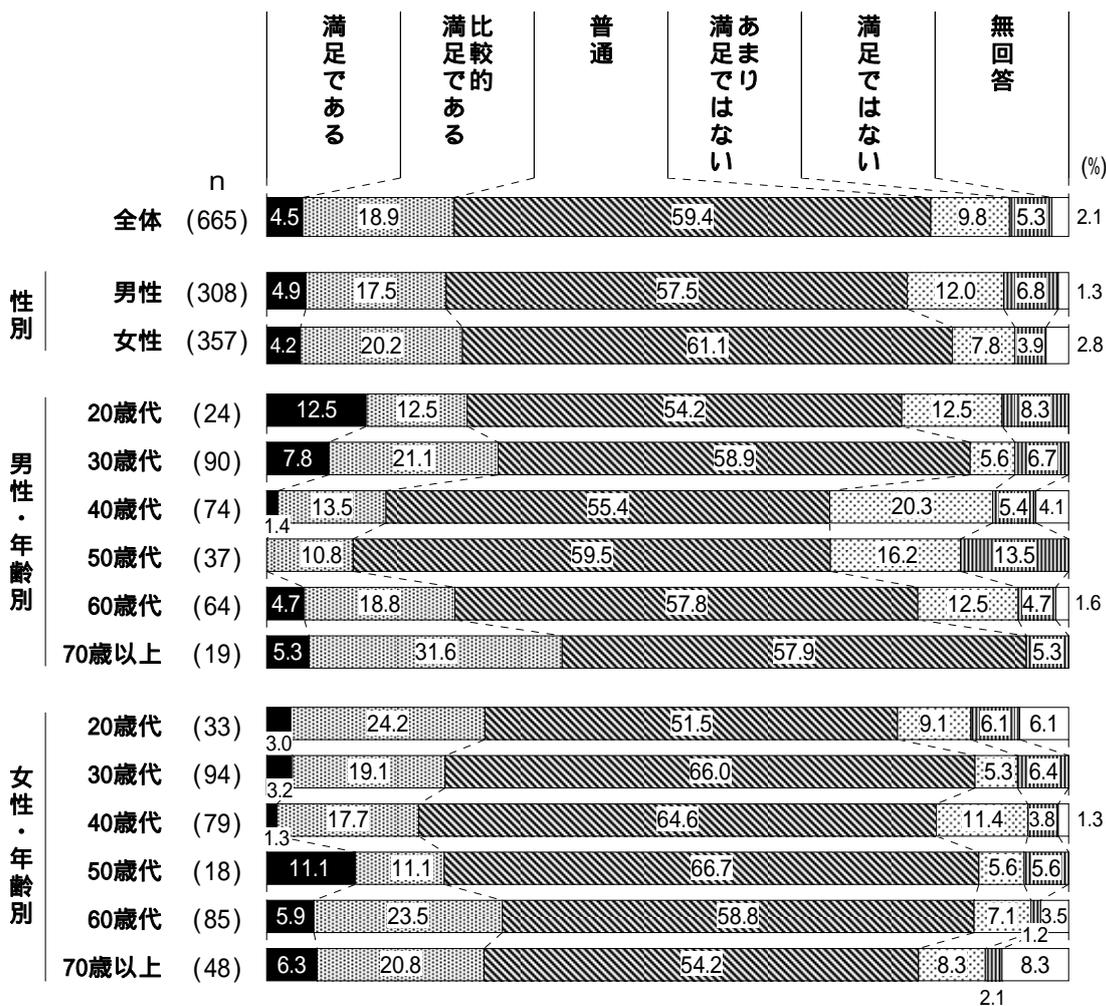
<図表13 - 7> 行政経営のための区の取り組みについての満足度 居住地域別



性別でみると、《満足ではない》は、男性（18.8%）の方が女性（11.7%）より7.1ポイント高くなっている。

性・年齢別でみると、《満足である》は、男性の30歳代（28.9%）、女性の20歳代（27.2%）、60歳代（29.4%）、70歳以上（27.1%）で約3割と高くなっている。一方、《満足ではない》は、男性の50歳代（29.7%）で約3割と高くなっている。（図表13 - 8）

<図表13 - 8> 行政経営のための区の取り組みについての満足度 性別/性・年齢別



(注) 男性の“20歳代”と“70歳以上”、女性の“50歳代”については「n」（該当者数）が少ないため、具体的なコメントは行わず、参考資料とする。

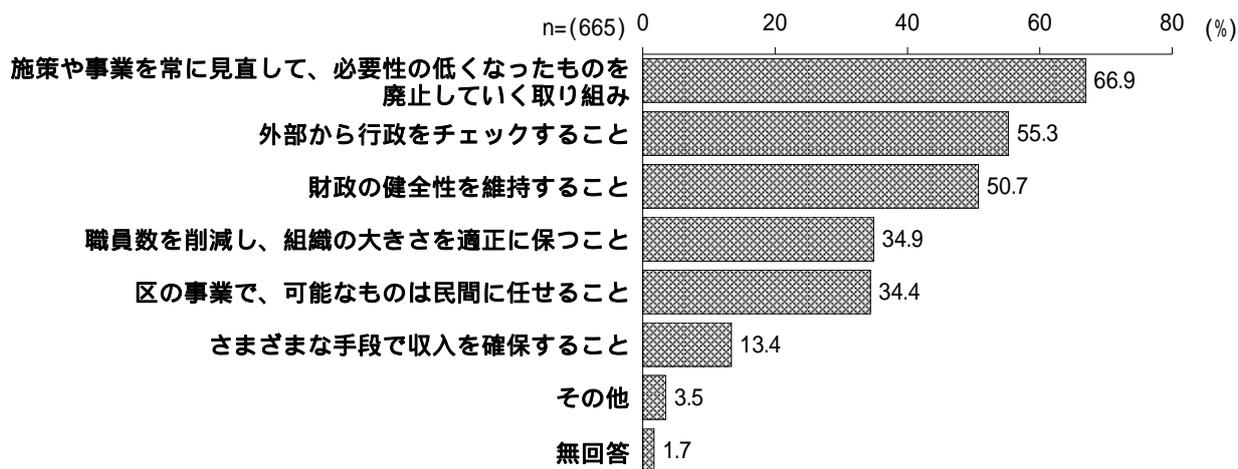
(3) 行政経営のための取り組みとして大切なもの

「施策や事業を常に見直して、必要性の低くなったものを廃止していく取り組み」が
6割台半ば

問46 行政経営のため、どのような取り組みが大切とお考えでしょうか。

(3つまで をおつけください)

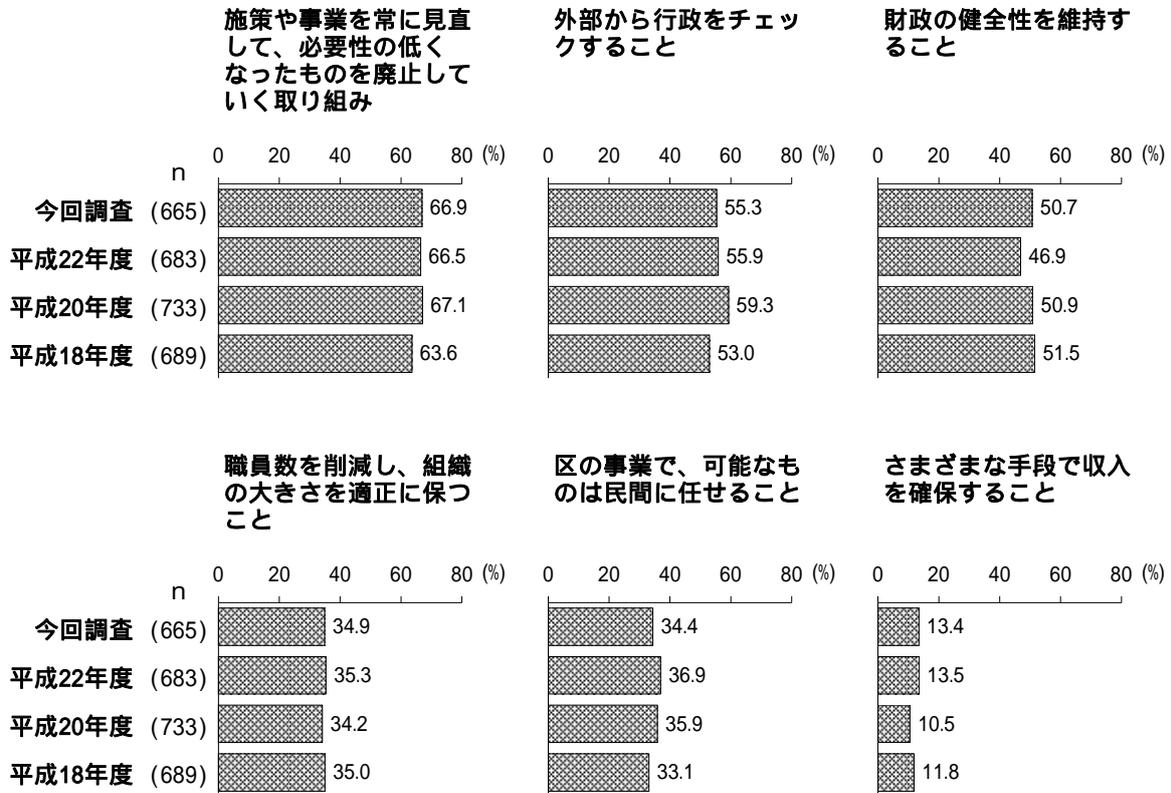
< 図表13 - 9 > 行政経営のための取り組みとして大切なもの (複数回答)



行政経営のための取り組みとして大切なものを聞いたところ、「施策や事業を常に見直して、必要性の低くなったものを廃止していく取り組み」(66.9%)が6割台半ばで最も高くなっている。次いで、「外部から行政をチェックすること」(55.3%)が5割台半ば、「財政の健全性を維持すること」(50.7%)が5割となっている。(図表13 - 9)

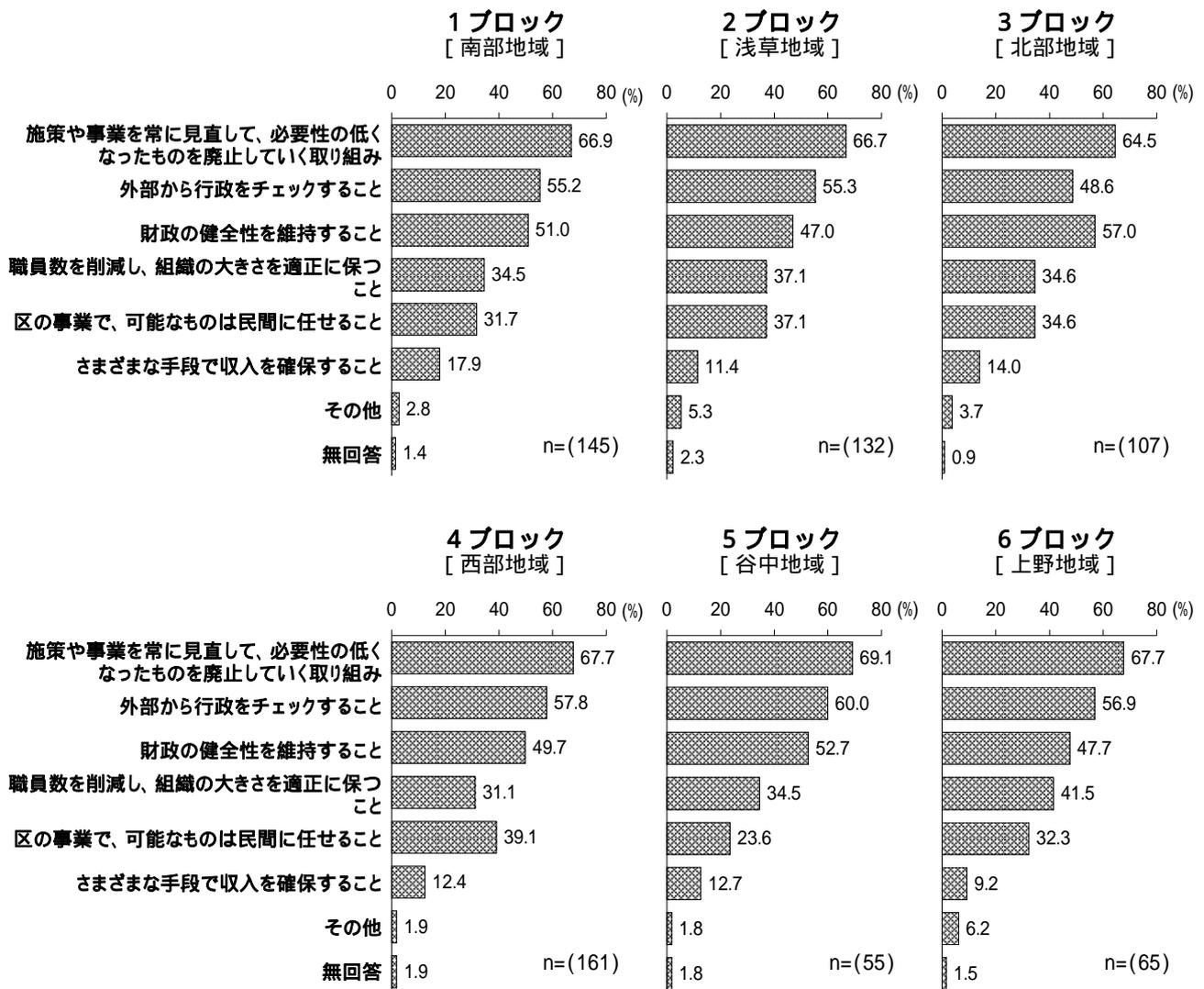
過去の調査結果と比較すると、「財政の健全性を維持すること」(50.7%)は、平成22年度(46.9%)より3.8ポイント増加している。(図表13 - 10)

<図表13 - 10> 行政経営のための取り組みとして大切なもの 経年比較



居住地域別でみると、「施策や事業を常に見直して、必要性の低くなったものを廃止していく取り組み」は、すべての地域において最も高くなっている。「財政の健全性を維持すること」は、3ブロック[北部地域]（57.0%）で約6割と高くなっている。（図表13 - 11）

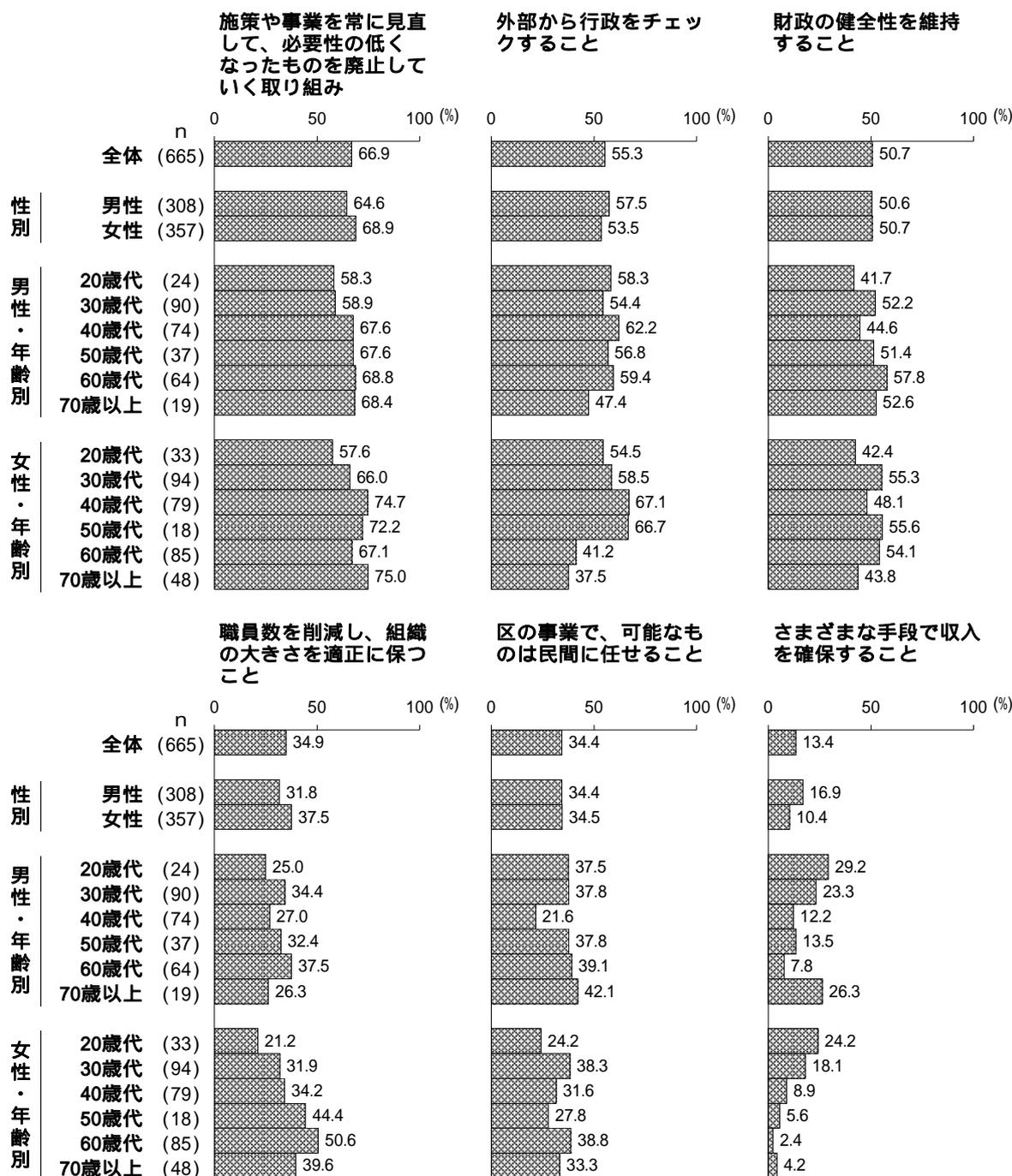
<図表13 - 11> 行政経営のための取り組みとして大切なもの 居住地域別



性別で見ると、「施策や事業を常に見直して、必要性の低くなったものを廃止していく取り組み」は、女性（68.9%）の方が男性（64.6%）より4.3ポイント、「職員数を削減し、組織の大きさを適正に保つこと」は、女性（37.5%）の方が男性（31.8%）より5.7ポイント高くなっている。一方、「外部から行政をチェックすること」は、男性（57.5%）の方が女性（53.5%）より4.0ポイント、「さまざまな手段で収入を確保すること」は、男性（16.9%）の方が女性（10.4%）より6.5ポイント高くなっている。

性・年齢別で見ると、「施策や事業を常に見直して、必要性の低くなったものを廃止していく取り組み」は、女性の40歳代（74.7%）と70歳以上（75.0%）で7割台半ばと高くなっている。「外部から行政をチェックすること」は、女性の40歳代（67.1%）と50歳代（66.7%）で6割台後半と高くなっている。（図表13 - 12）

<図表13 - 12> 行政経営のための取り組みとして大切なもの 性別/性・年齢別



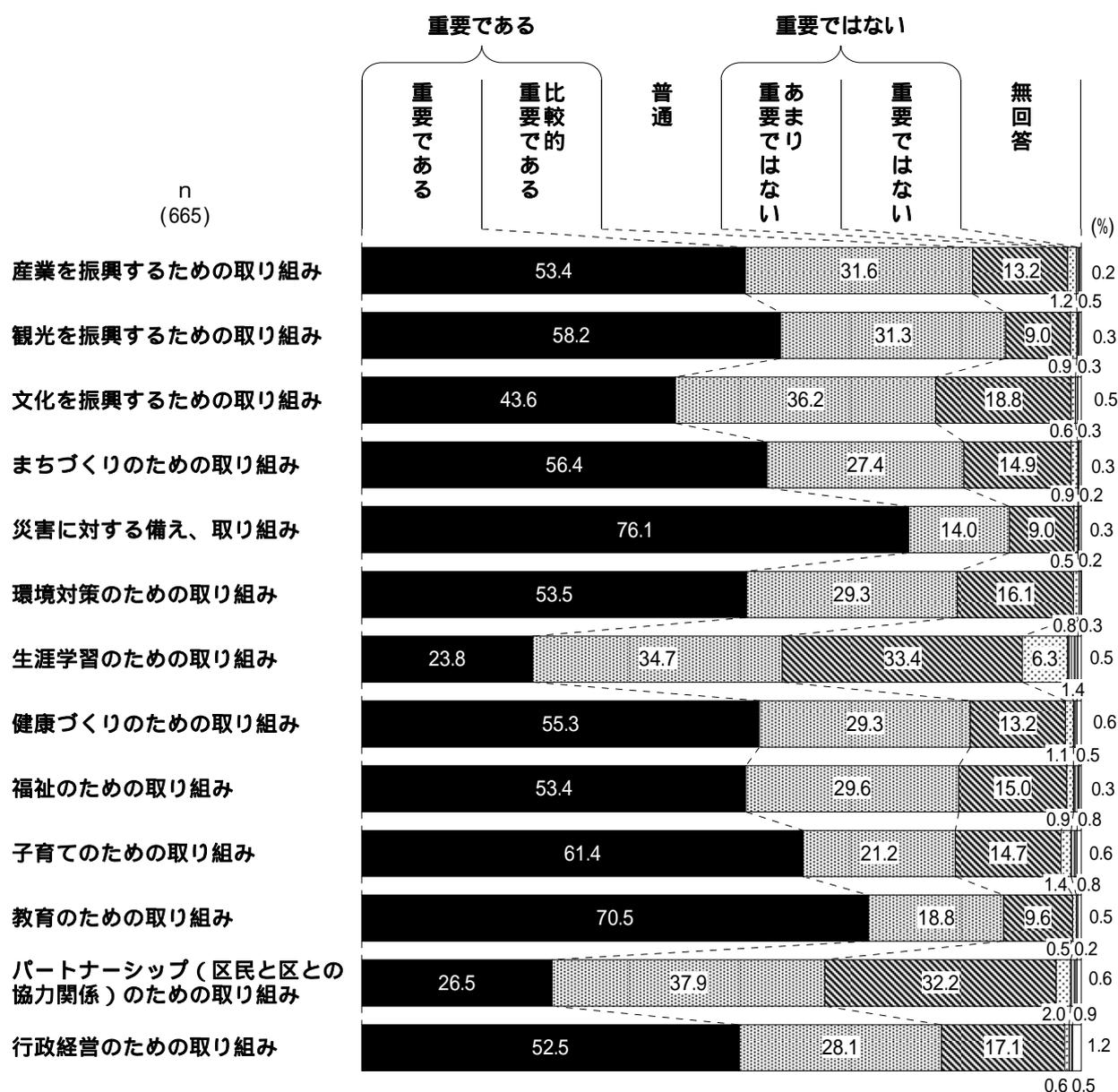
(注) 男性の“20歳代”と“70歳以上”、女性の“50歳代”については「n」(該当者数)が少ないため、具体的なコメントは行わず、参考資料とする。

【重要度と満足度の項目間比較】

各項目の重要度を比較すると、「重要である」が最も高かったのは＜災害に対する備え、取り組み＞（76.1％）で、次いで＜教育のための取り組み＞（70.5％）、＜子育てのための取り組み＞（61.4％）などとなっている。

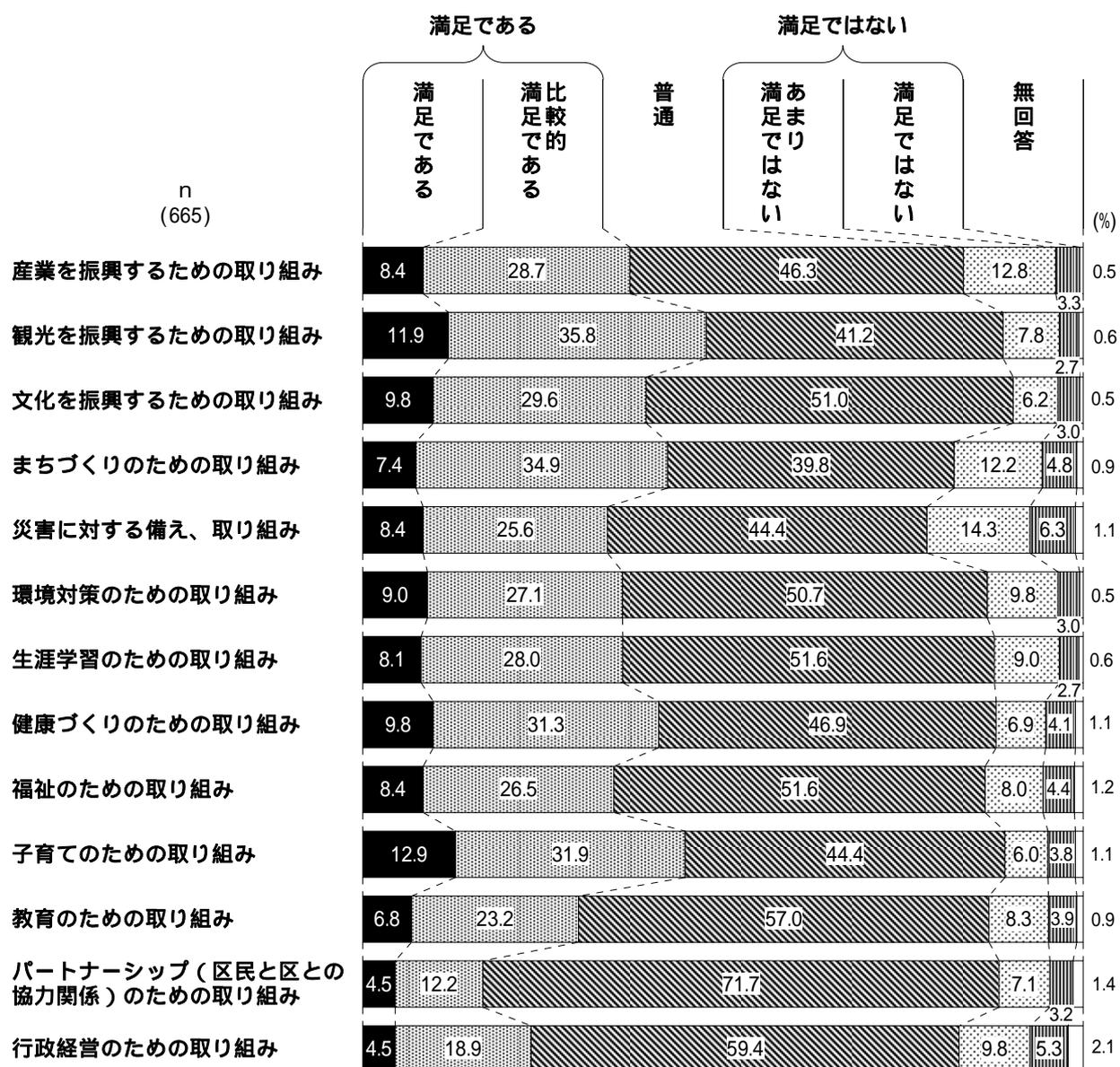
「重要である」と「比較的重要である」を合わせた《重要である》をみると、＜災害に対する備え、取り組み＞（90.1％）、＜観光を振興するための取り組み＞（89.5％）、＜教育のための取り組み＞（89.3％）が約9割と特に高くなっている。（図表13 - 13）

＜図表13 - 13＞ 重要度の項目間比較



各項目の満足度を比較すると、「満足である」と「比較的満足である」を合わせた《満足である》は、<観光を振興するための取り組み>（47.7%）が約5割で最も高くなっている。次いで<子育てのための取り組み>（44.8%）が4割台半ば、<まちづくりのための取り組み>（42.3%）と<健康づくりのための取り組み>（41.1%）が4割を超えている。（図表13 - 14）

<図表13 - 14> 満足度の項目間比較



【重要度と満足度の相関】

各項目の比較を簡単にするため、下式のように5段階評価を与えて、各項目の評価点を算出した。

$$\text{評価点} = \frac{(\text{「重要(満足)である」} \times 2 \text{点}) + (\text{「比較的重要(満足)である」} \times 1 \text{点}) + (\text{「普通」} \times 0 \text{点}) + \{ \text{「あまり重要(満足)ではない」} \times (-1 \text{点}) \} + \{ \text{「重要(満足)ではない」} \times (-2 \text{点}) \}}{\text{回答者数} - \text{無回答}}$$

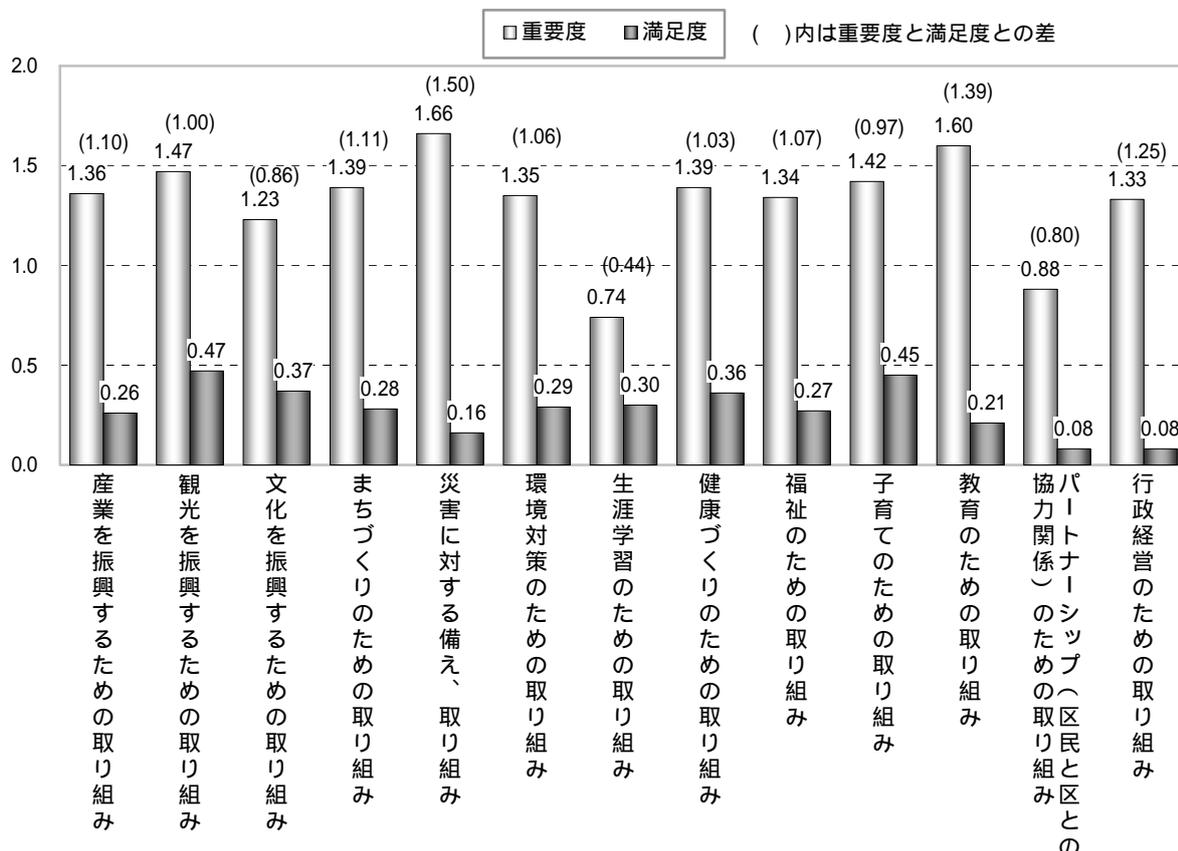
この算出方法では、評価点は - 2.00点 ~ 2.00点の間に分布し、0.00点が中間点であり、2.00点に近いほど評価は良く、逆に - 2.00点に近いほど評価が悪いということを表す。

結果は図13 - 15のとおり、重要度では「災害に対する備え、取り組み」(1.66点)が最も高く、次いで「教育のための取り組み」(1.60点)、「観光を振興するための取り組み」(1.47点)、「子育てのための取り組み」(1.42点)が続く。一方、「生涯学習のための取り組み」(0.74点)と「パートナーシップ(区民と区との協力関係)のための取り組み」(0.88点)は1点を下回り低くなっている。

満足度では、「観光を振興するための取り組み」(0.47点)と「子育てのための取り組み」(0.45点)が高い。一方、「パートナーシップ(区民と区との協力関係)のための取り組み」(0.08点)や「行政経営のための取り組み」(0.08点)が低くなっている。

重要度と満足度の差をみると、「災害に対する備え、取り組み」(1.50点差)、「教育のための取り組み」(1.39点差)、「行政経営のための取り組み」(1.25点差)などで差が広がっており、希望と現状の差が現われている。(図表13 - 15)

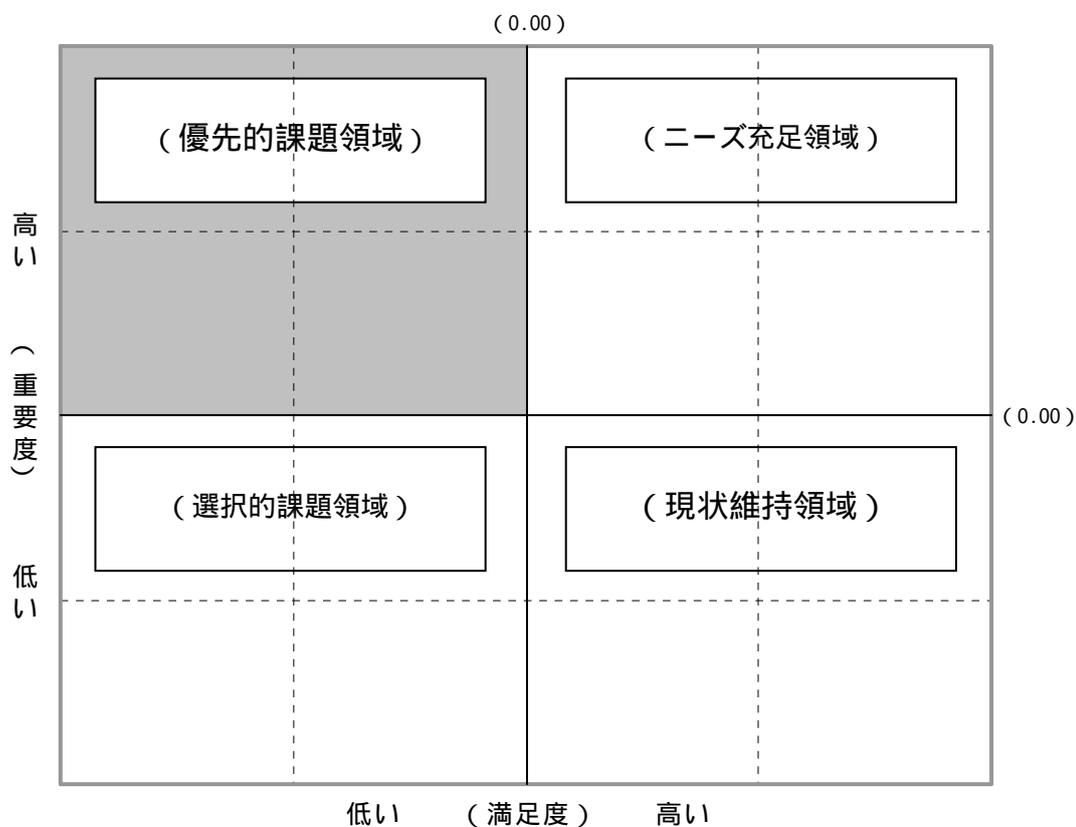
<図表13 - 15> 区の取り組みの重要度と満足度 全体



次に、12項目の各「満足度」と「重要度」の2つの得点を用い、散布図を作成した。縦軸は“重要度”、横軸は“満足度”を表し、それぞれの基準値(0.00)で4つの領域に分けている。

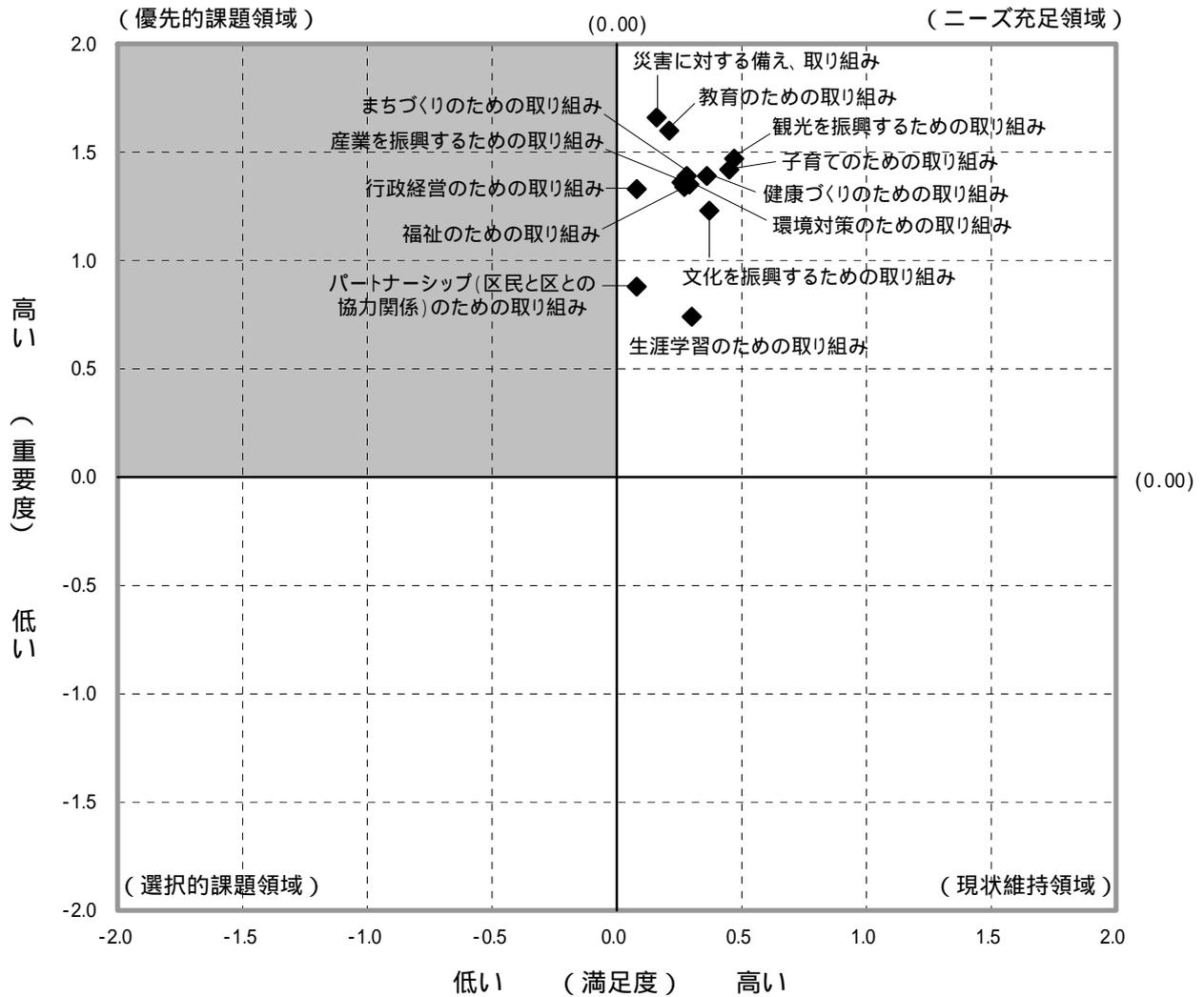
さらに、満足度が高く重要度も高い領域を<ニーズ充足領域>、満足度が低く重要度が高い領域を<優先的課題領域>、満足度が低く重要度も低い領域を<選択的課題領域>、満足度が高く重要度が低い領域を<現状維持領域>としている。網掛けされている<優先的課題領域>内の項目が、最も優先的に取り組むべき項目と考えられる。

なお、ここでの領域は基準値(0.00)で分けているため、項目間で相対的にみているものではなく、絶対的評価となっている。



全体で見ると、全て<ニーズ充足領域>内にあるが、「パートナーシップ(区民と区との協力関係)のための取り組み」と「行政経営のための取り組み」が、<優先的課題領域>の近くに位置している。
(図表13-16)

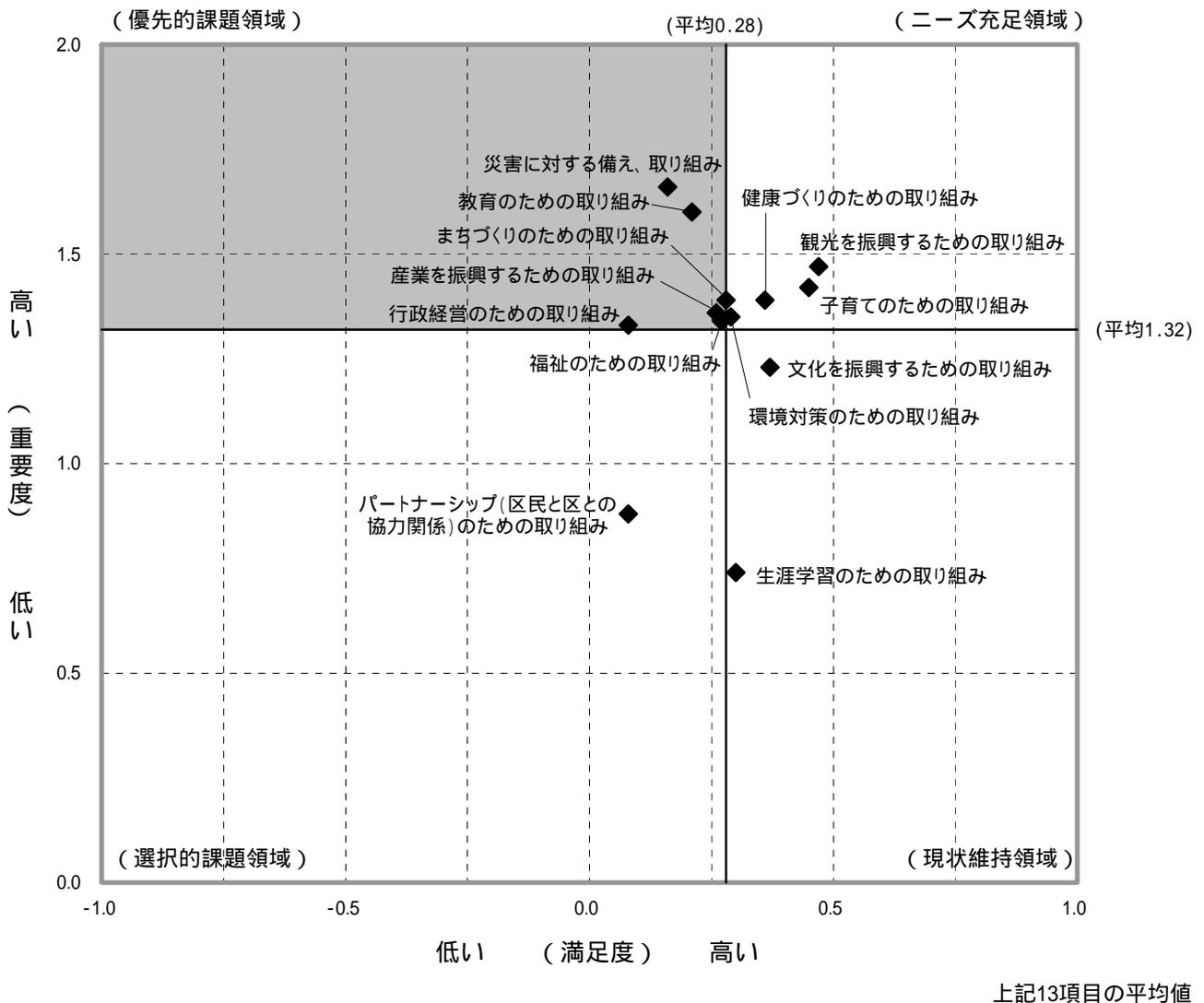
<図表13-16> 重要度と満足度の相関(全体)



前頁では、各項目の位置関係について0.00を基準値とした絶対的評価の領域で表していたが、ほとんどの項目が<ニーズ充足領域>に入っていたため項目間の違いがはっきりとはみられない。そこで、項目間の相対的な評価を行うために、ここからは基準値(0.00)ではなく、「重要度」と「満足度」の平均値を基準に4つの領域に分けて分析を行う。なお、図表を拡大するために重要度を0.00~2.00、満足度を-1.00~1.00の範囲で表示している。

13項目の平均値を基準に見ると、<優先的課題領域>には「災害に対する備え、取り組み」、「教育のための取り組み」、「産業を振興するための取り組み」、「福祉のための取り組み」、「行政経営のための取り組み」の5つが入っている。また、「まちづくりのための取り組み」は<優先的課題領域>と<ニーズ充足領域>との境界に位置している。一方、<選択的課題領域>には「パートナーシップ(区民と区との協力関係)のための取り組み」が入っている。(図表13-17)

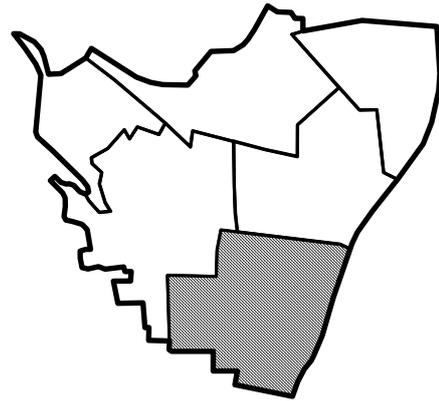
<図表13-17> 重要度と満足度の相関(全体)



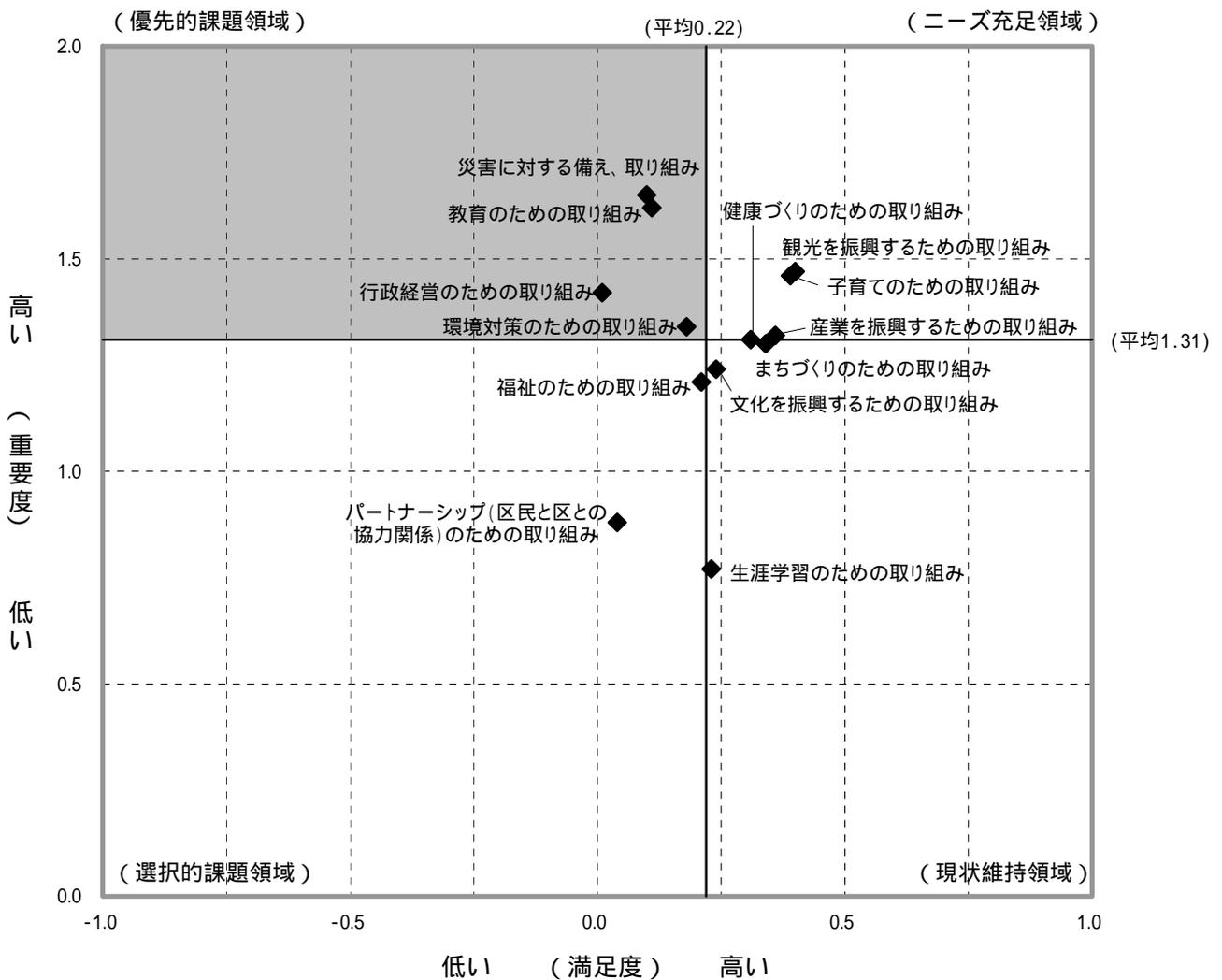
【1ブロック[南部地域]】

1ブロック[南部地域]でみると、「災害に対する備え、取り組み」、「教育のための取り組み」、「行政経営のための取り組み」、「環境対策のための取り組み」が優先して取り組むべき項目となっている。また、＜選択的課題領域＞には、「福祉のための取り組み」と「パートナーシップ（区民と区との協力関係）のための取り組み」が入っている。

(図表13-18)



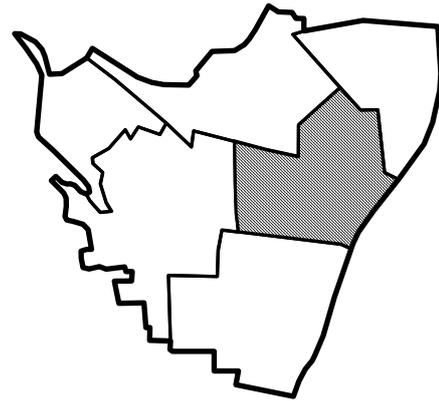
<図表13-18> 重要度と満足度の相関（1ブロック[南部地域]）



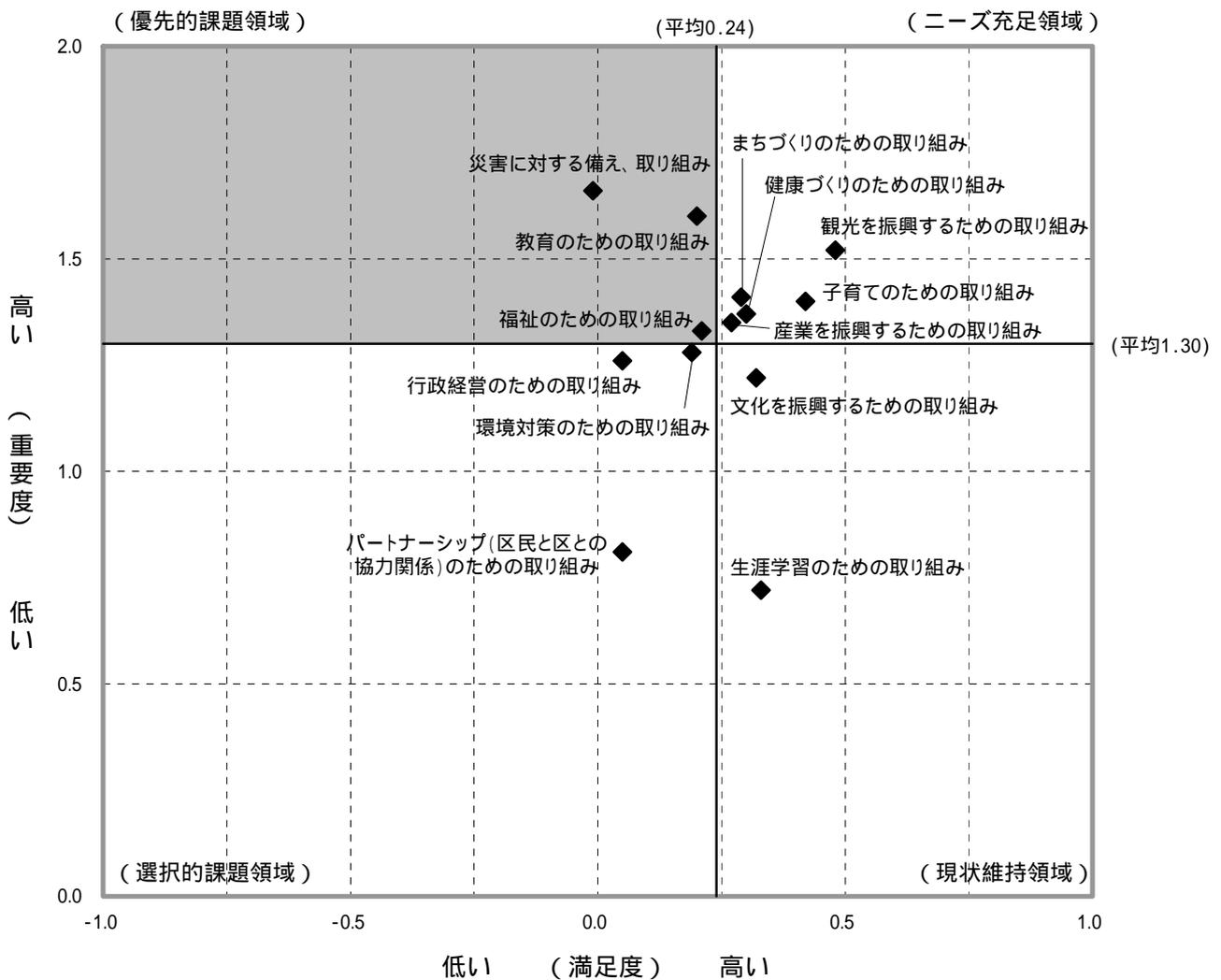
【2ブロック[浅草地域]】

2ブロック[浅草地域]では、「災害に対する備え、取り組み」、「教育のための取り組み」、「福祉のための取り組み」が優先的に取り組むべき項目となっている。また、＜選択的課題領域＞には、「環境対策のための取り組み」、「行政経営のための取り組み」、「パートナーシップ（区民と区との協力関係）のための取り組み」が入っている。

(図表13 - 19)



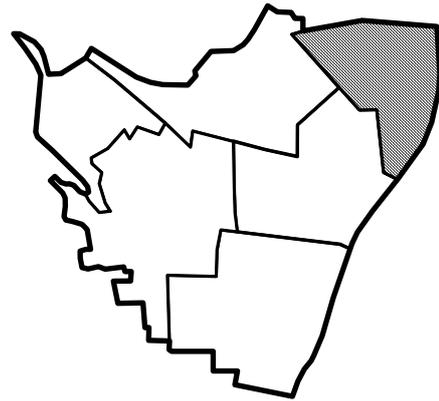
<図表13 - 19> 重要度と満足度の相関（2ブロック[浅草地域]）



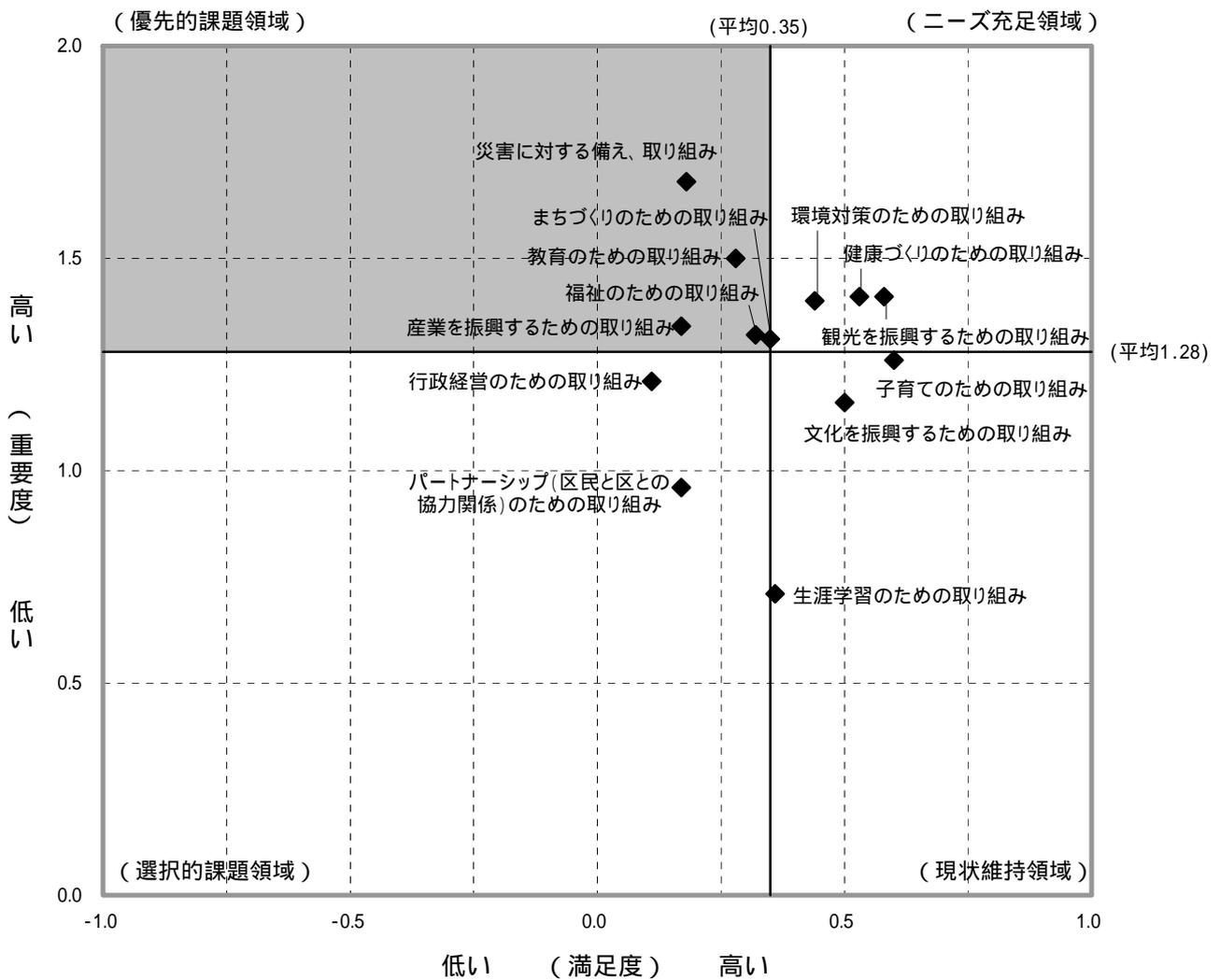
上記13項目の平均値

【3ブロック[北部地域]】

3ブロック[北部地域]でみると、「災害に対する備え、取り組み」、「教育のための取り組み」、「産業を振興するための取り組み」、「福祉のための取り組み」が優先的に取り組むべき項目で、「まちづくりのための取り組み」が<優先的課題領域>と<ニーズ充足領域>の境界に位置している。また、<選択的課題領域>には、「行政経営のための取り組み」と「パートナーシップ(区民と区との協力関係)のための取り組み」が入っている。(図表13-20)



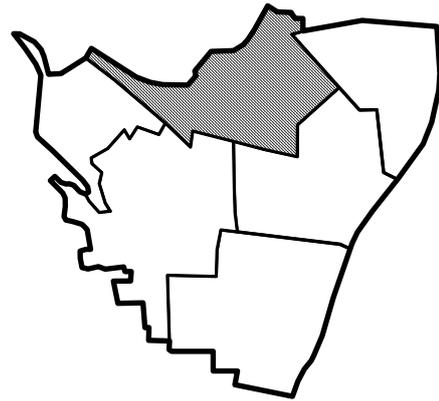
<図表13-20> 重要度と満足度の相関(3ブロック[北部地域])



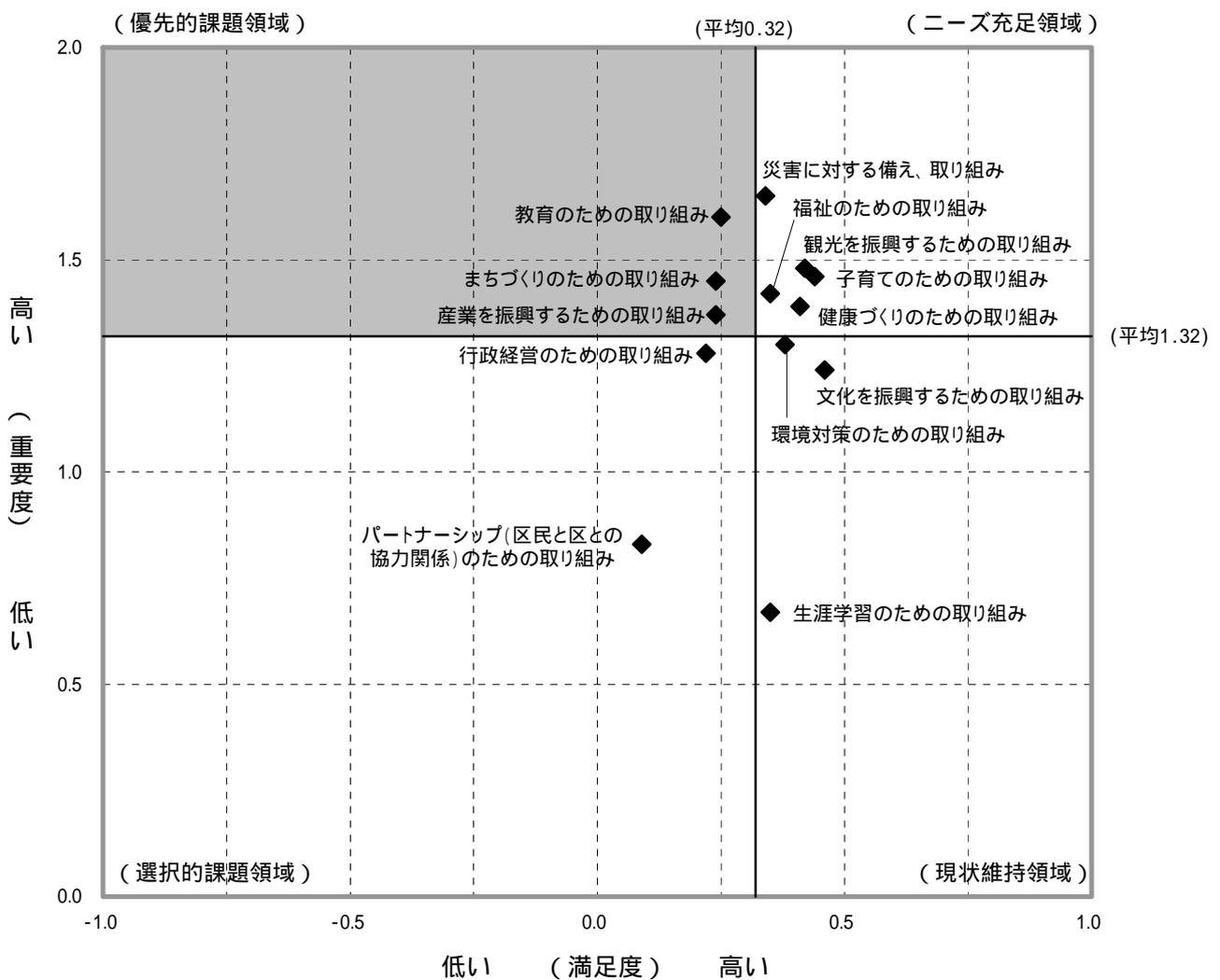
上記13項目の平均値

【4ブロック[西部地域]】

4ブロック[西部地域]でみると、「教育のための取り組み」、「まちづくりのための取り組み」、「産業を振興するための取り組み」が優先的に取り組むべき項目となっている。また、＜選択的課題領域＞には、「行政経営のための取り組み」と「パートナーシップ（区民と区との協力関係）のための取り組み」が入っている。（図表13 - 21）



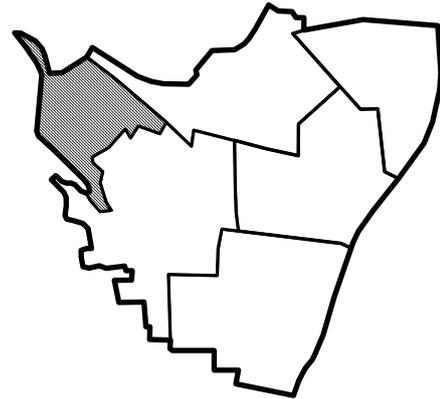
<図表13 - 21> 重要度と満足度の相関（4ブロック[西部地域]）



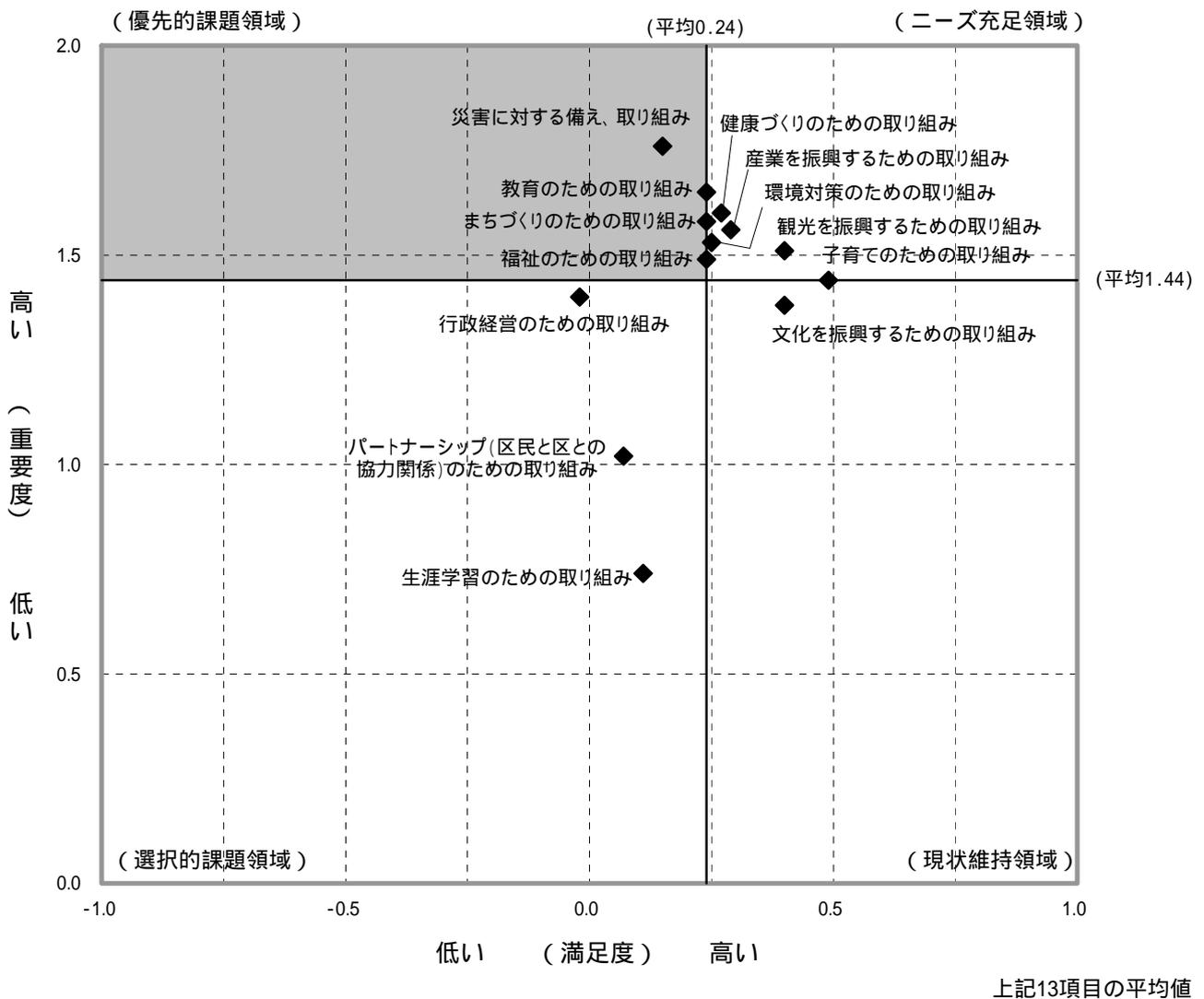
上記13項目の平均値

【5ブロック[谷中地域]】

5ブロック[谷中地域]でみると、「災害に対する備え、取り組み」が優先的に取り組むべき項目となっており、「教育のための取り組み」、「まちづくりのための取り組み」、「福祉のための取り組み」が<優先的課題領域>と<ニーズ充足領域>の境界に位置している。また、<選択的課題領域>には、「行政経営のための取り組み」、「パートナーシップ(区民と区との協力関係)のための取り組み」、「生涯学習のための取り組み」が入っている。(図表13-22)

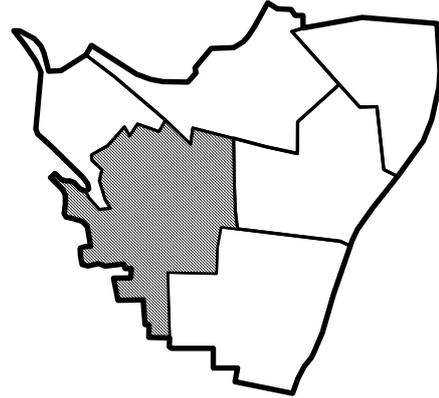


<図表13-22> 重要度と満足度の相関(5ブロック[谷中地域])

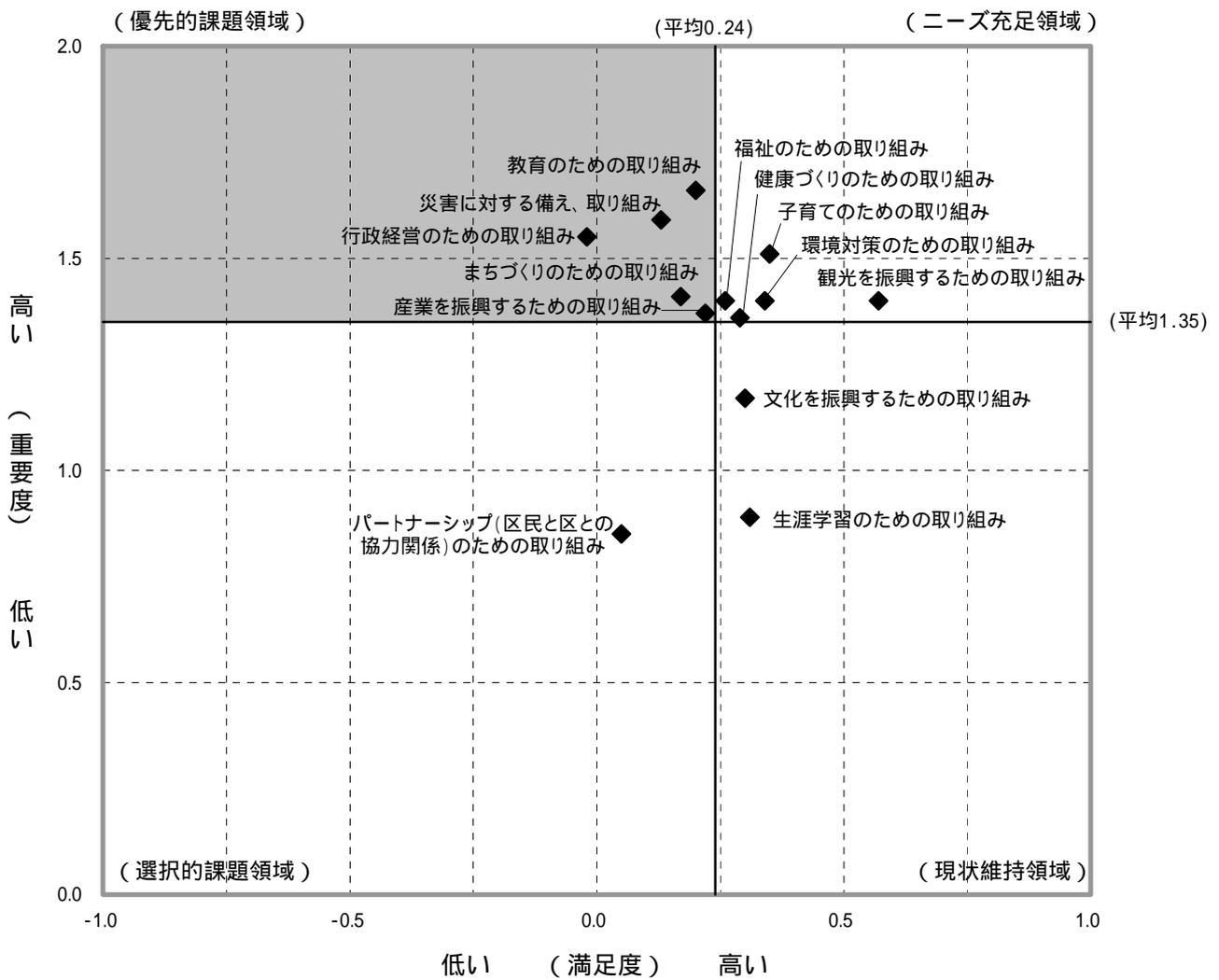


【6ブロック[上野地域]】

6ブロック[上野地域]でみると、「教育のための取り組み」、「災害に対する備え、取り組み」、「行政経営のための取り組み」、「まちづくりのための取り組み」、「産業を振興するための取り組み」が優先的に取り組むべき項目となっている。また、＜選択的課題領域＞には、「パートナーシップ(区民と区との協力関係)のための取り組み」が入っている。(図表13-23)



＜図表13-23＞ 重要度と満足度の相関(6ブロック[上野地域])

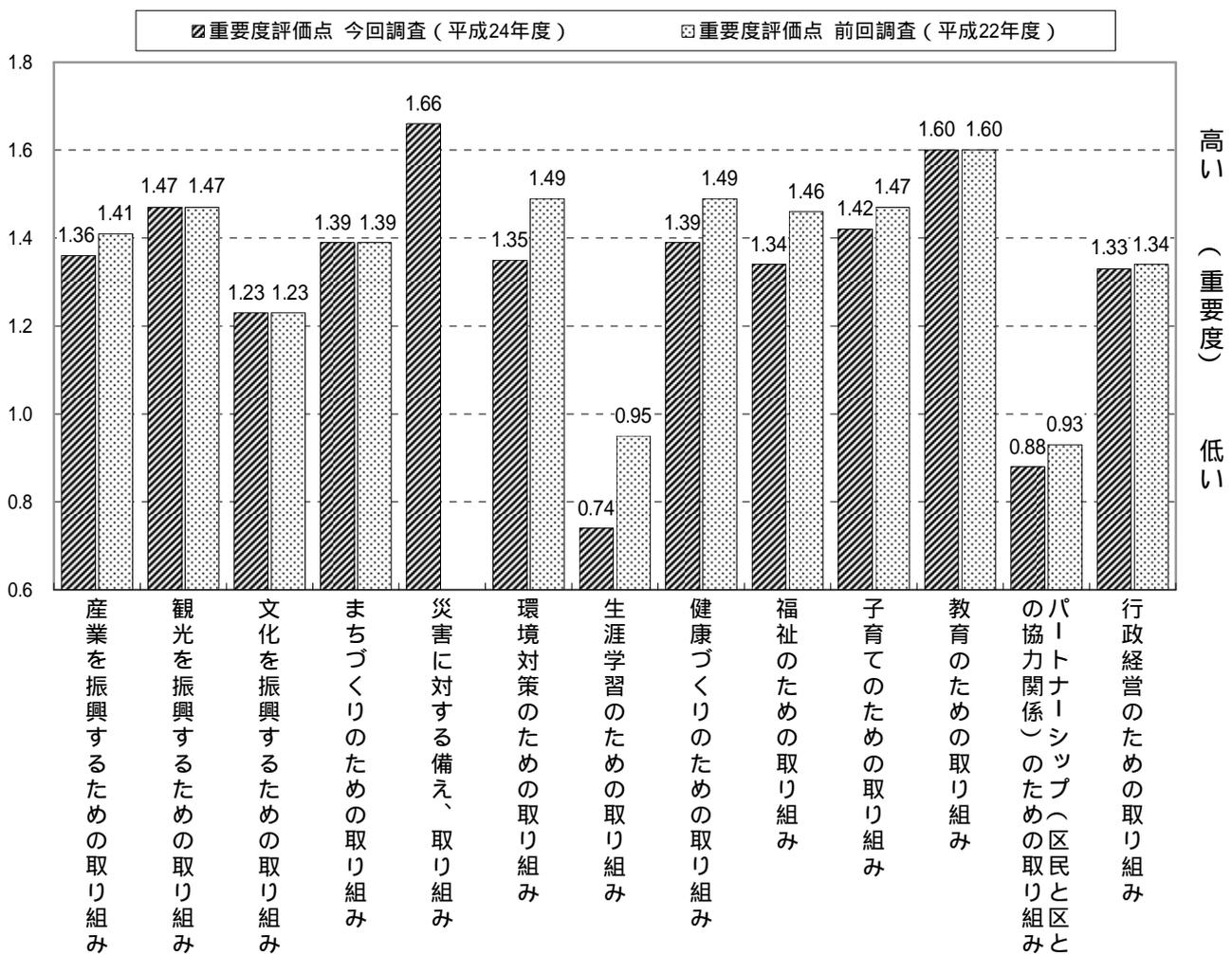


【重要度と満足度の前回調査との比較】

この区民満足度調査は、平成22年度（以下、前回調査）に同じ方法で実施し、同じ項目をたずねている。そのため、前回調査からの変化を把握することが可能である。

前回調査で得られた重要度の評価点と今回の重要度の評価点を比較したところ、今回調査で増加した項目はなく、「観光を振興するための取り組み」（前回調査、今回調査ともに1.47）、「文化を振興するための取り組み」（同1.23）、「まちづくりのための取り組み」（同1.39）、「教育のための取り組み」（同1.60）の4項目で前回調査と同じ値となっている。逆に、前回調査に比べて重要度が減少しているのは、「生涯学習のための取り組み」（前回調査0.95 今回調査0.74）、「環境対策のための取り組み」（前回調査1.49 今回調査1.35）、「福祉のための取り組み」（前回調査1.46 今回調査1.34）、「健康づくりのための取り組み」（前回調査1.49 今回調査1.39）など8項目である。（図表13 - 24）

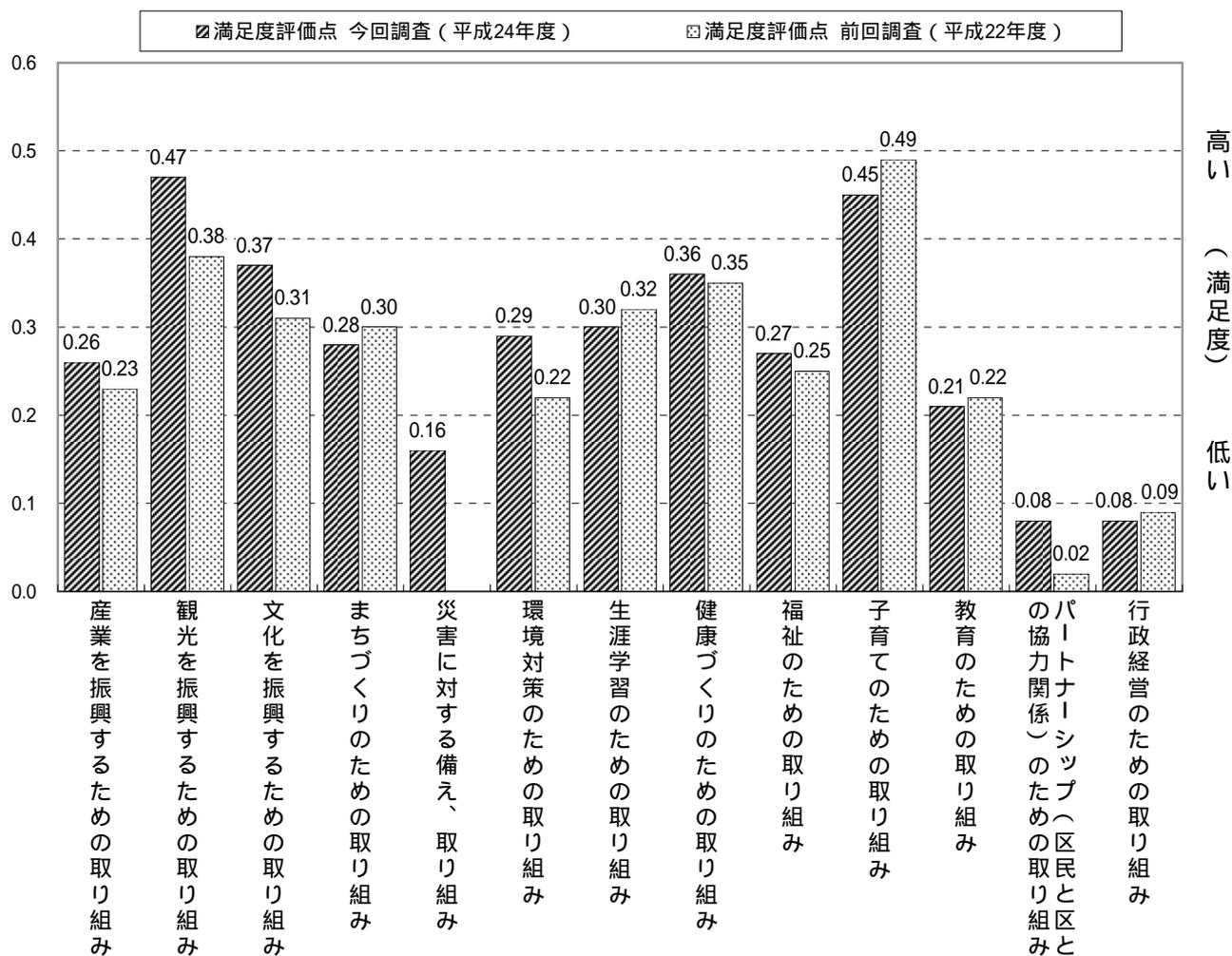
<図表13 - 24> 重要度の前回調査との比較



「災害に対する備え、取り組み」は今回調査から追加。

重要度と同様に、満足度についても前回調査で得られた評価点と今回の評価点を比較したところ、前回調査に比べて満足度が増加しているのは、「観光を振興するための取り組み」(前回調査0.38 今回調査0.47)、「環境対策のための取り組み」(前回調査0.22 今回調査0.29)、「文化を振興するための取り組み」(前回調査0.31 今回調査0.37)、「パートナーシップ(区民と区との協力関係)のための取り組み」(前回調査0.02 今回調査0.08)など7項目である。逆に、「子育てのための取り組み」(前回調査0.49 今回調査0.45)など5項目では満足度が減少しているが、減少幅は小さい。(図表13 - 25)

<図表13 - 25> 満足度の前回調査との比較



「災害に対する備え、取り組み」は今回調査から追加。

【改善要望度】

各施策の重要度・満足度を同等の尺度で評価するため、それぞれの数値を標準化し、標準化された重要度・満足度を合算して新たな指標「改善要望度」を作成した。これは重要度と満足度双方を考慮して、いずれの施策を優先的に改善すればよいかを把握する一つの指標と位置づけられる。

なお改善要望度は、満足度が低く重要度が高いほど数値が大きくなり、満足度が高く重要度が低いほど小さくなるよう、以下のような数式を用いて算出した。

改善要望度について各項目の順位をみると、新規項目の「災害に対する備え、取り組み」の改善要望度が最も高かった。また、「まちづくりのための取り組み」が前回調査の8位から今回調査では5位と順位を3つ上げ、「環境対策のための取り組み」が前回調査の2位から今回調査では7位と順位を5つ下げている。(図表13 - 26)

$$\text{改善要望度} = (\text{重要度 } z \text{ 値}) - (\text{満足度 } z \text{ 値})$$

$$\text{重要度 } z \text{ 値} = (\text{各施策の重要度平均} - \text{重要度全体の平均}) / \text{重要度全体の標準偏差}$$

$$\text{満足度 } z \text{ 値} = (\text{各施策の満足度平均} - \text{満足度全体の平均}) / \text{満足度全体の標準偏差}$$

標準偏差とは、複数のデータが存在した時に、そのデータ群の平均値とそれぞれのデータの乖離具合、ばらつき具合を示したものです。

<図表13 - 26> 改善要望度

今回調査					前回調査	
順位	施策	重要度 z値	満足度 z値	改善 要望度	順位の 変化	順位
1	災害に対する備え、取り組み	1.390	-0.982	2.372	-	-
2	行政経営のための取り組み	0.041	-1.663	1.704	↗	3
3	教育のための取り組み	1.145	-0.556	1.701	↘	1
4	産業を振興するための取り組み	0.164	-0.131	0.295	↗	5
5	まちづくりのための取り組み	0.286	0.039	0.247	↗	8
6	福祉のための取り組み	0.082	-0.046	0.128	↘	4
7	環境対策のための取り組み	0.123	0.124	-0.001	↘	2
8	パートナーシップ(区民と区との協力関係)のための取り組み	-1.799	-1.663	-0.136	↗	10
9	健康づくりのための取り組み	0.286	0.720	-0.434	↘	6
10	観光を振興するための取り組み	0.613	1.656	-1.043	↘	7
11	子育てのための取り組み	0.409	1.486	-1.077	↘	9
12	文化を振興するための取り組み	-0.368	0.805	-1.173	↘	11
13	生涯学習のための取り組み	-2.372	0.209	-2.581	↘	12

14. 施策の優先順位について

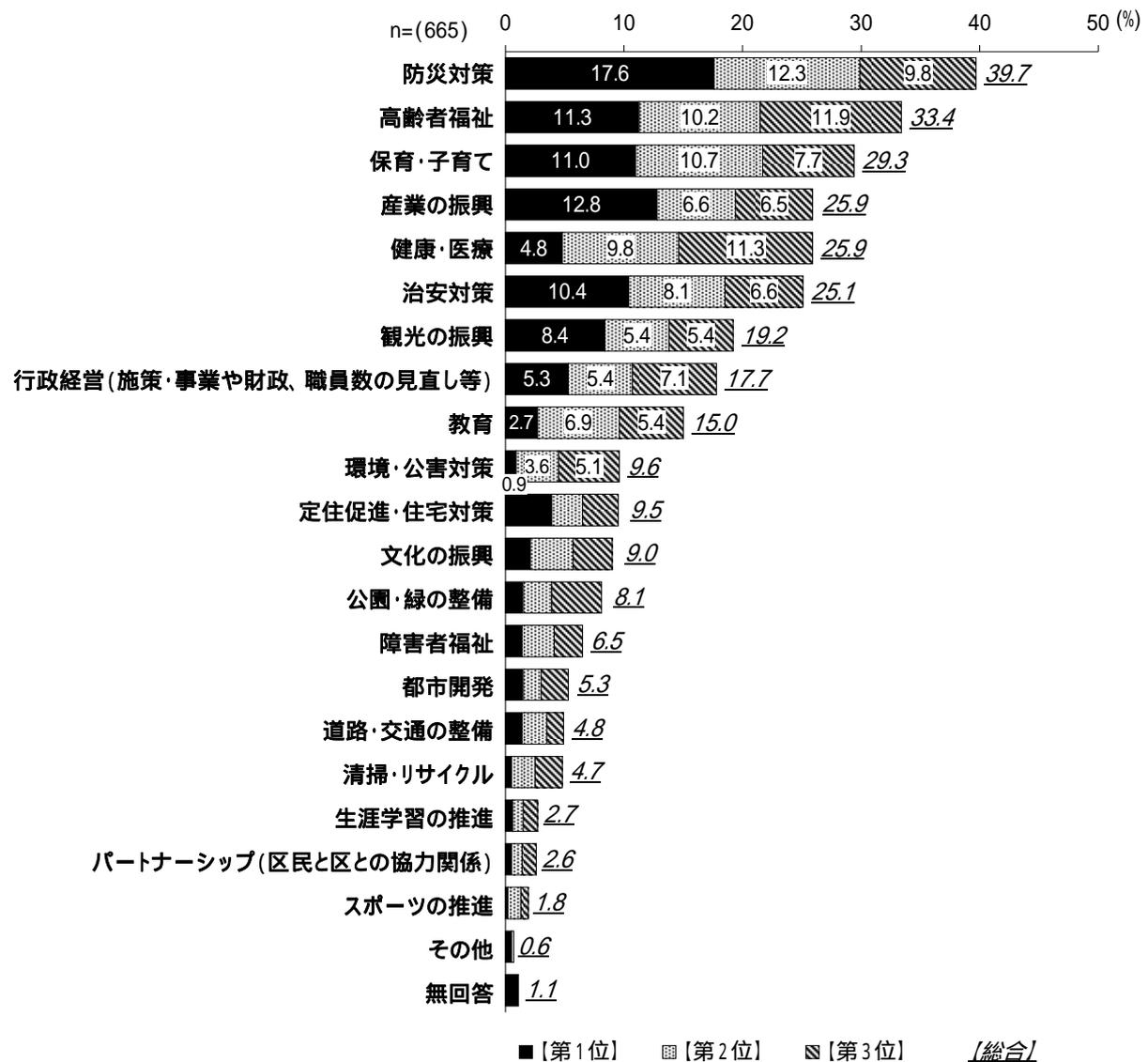
最後に、あらためて、全体を通して、今後、区が力を入れていくべきとお考えの施策について、優先順位をお伺いします。

(1) 今後、区が優先的に力を入れていくべき施策

「防災対策」が約4割

問47 今後、区が優先的に力を入れていくべき施策を第1位から第3位まで選んで、数字を下の欄内にご記入ください。

<図表14-1> 今後、区が優先的に力を入れていくべき施策（複数回答）

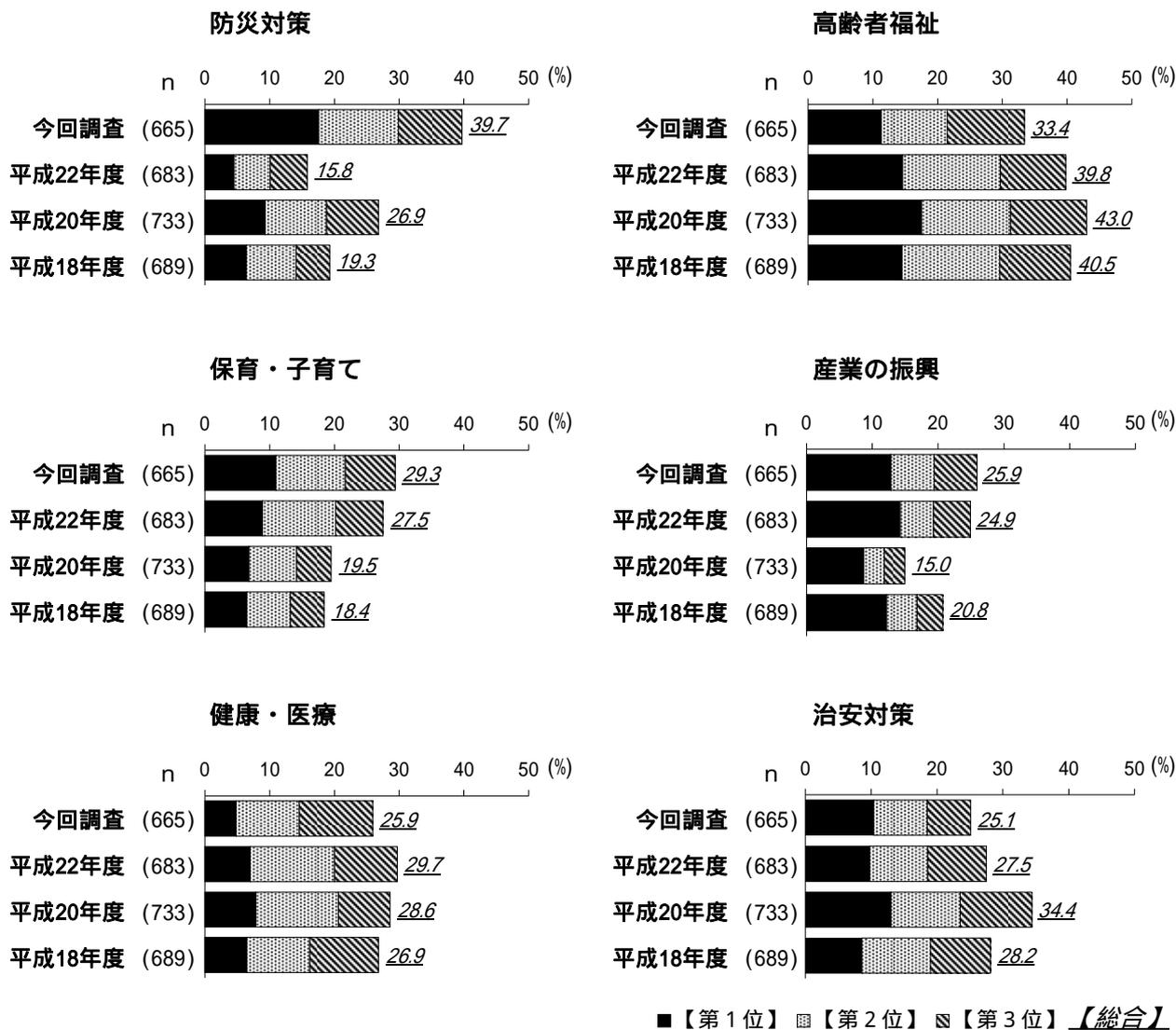


数値は小数点第2位以下を四捨五入している。

今後、区が優先的に力を入れていくべき施策としては、【第1位】から【第3位】を合計した【総合】では「防災対策」(39.7%)が約4割で最も高く、次いで、「高齢者福祉」(33.4%)が3割台半ばとなっている。このほか、「保育・子育て」(29.3%)が約3割、「産業の振興」と「健康・医療」(ともに25.9%)、「治安対策」(25.1%)が2割台半ばとなっている。(図表14-1)

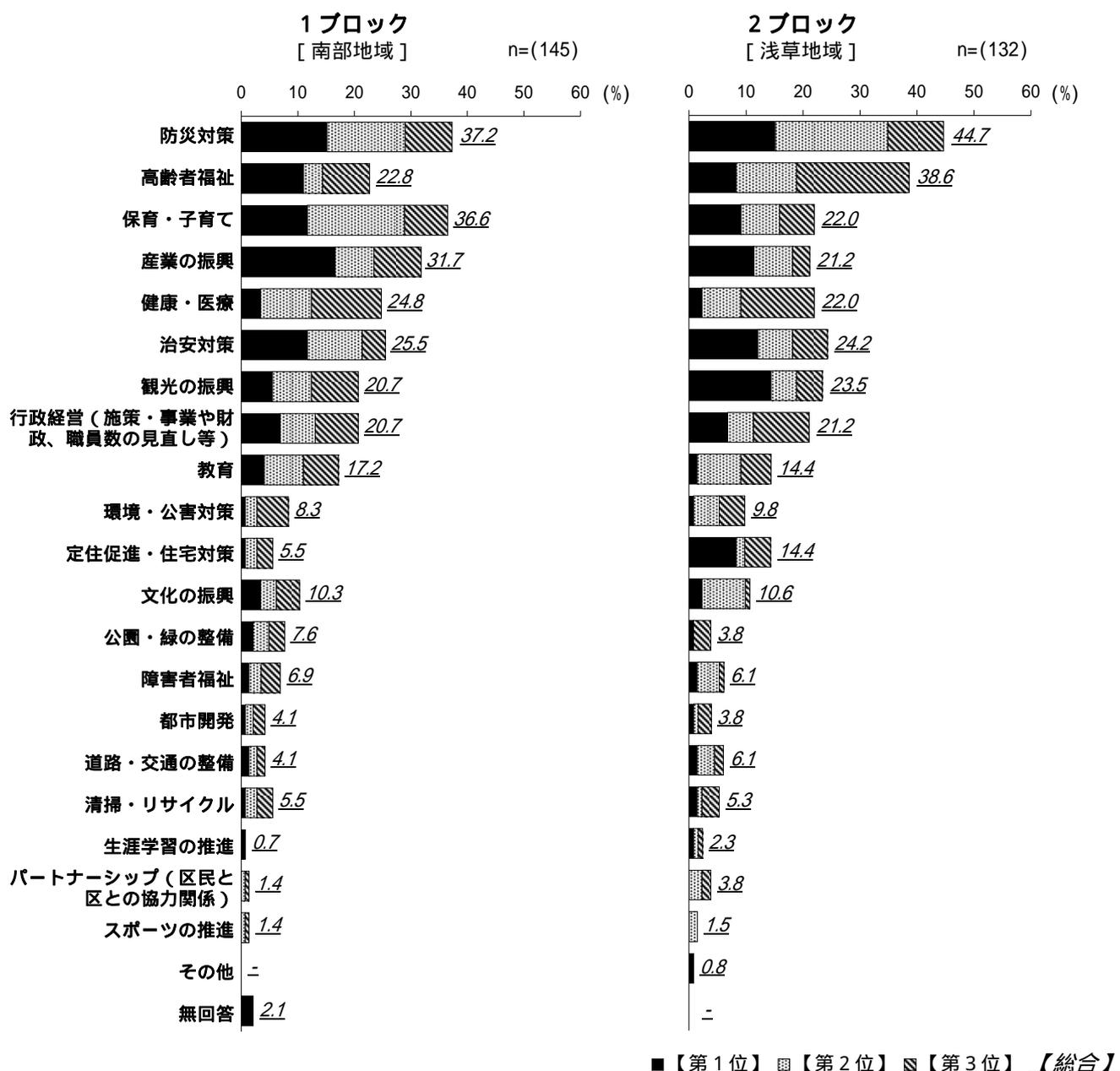
過去の調査結果と比較すると、【総合】では「防災対策」(39.7%)は平成22年度(15.8%)から23.9ポイントと大きく増加している。一方、「高齢者福祉」(33.4%)は平成22年度(39.8%)から6.4ポイント、「健康・医療」(25.9%)は平成22年度(29.7%)から3.8ポイント減少している。(図表14-2)

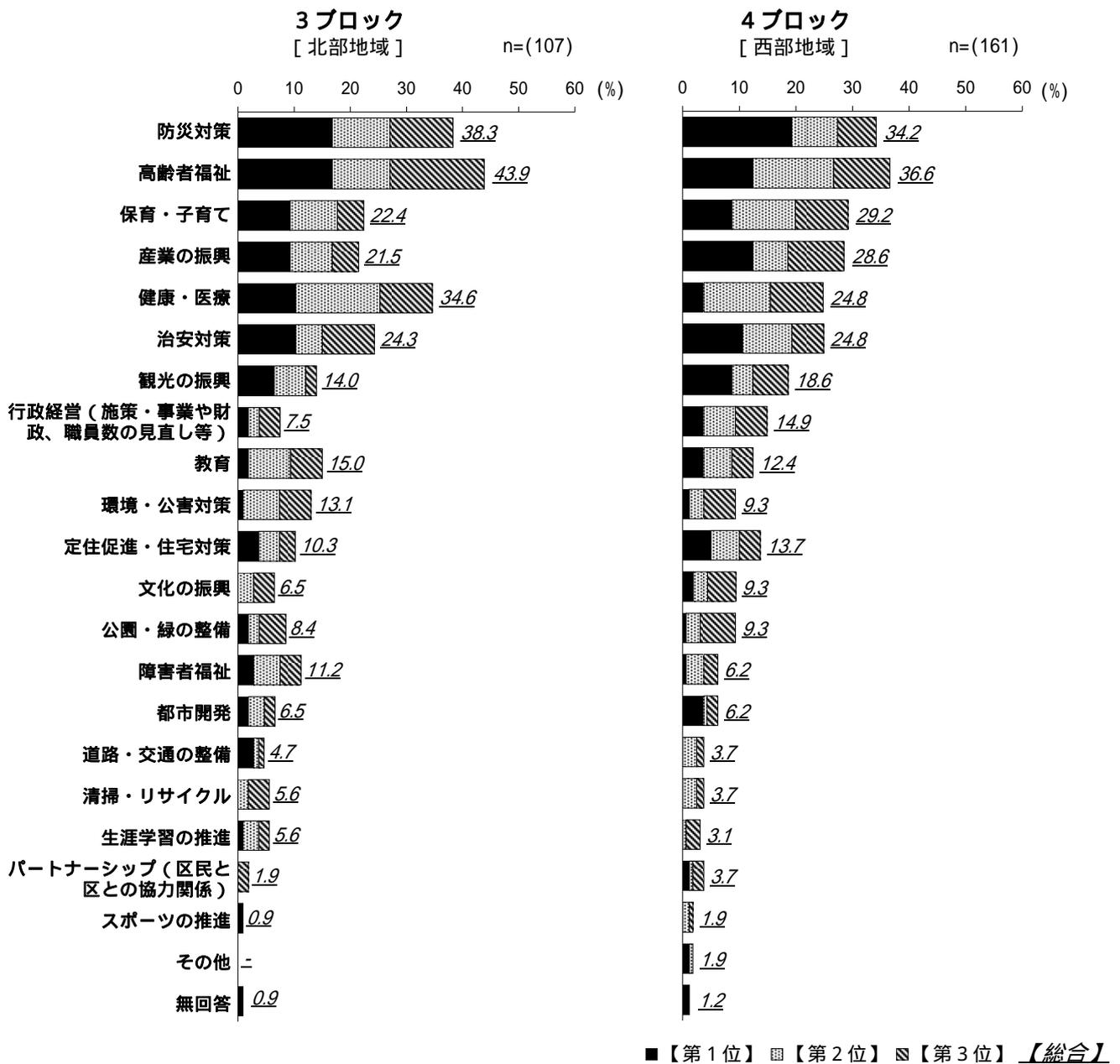
<図表14-2> 今後、区が優先的に力を入れていくべき施策 経年比較(上位6項目)

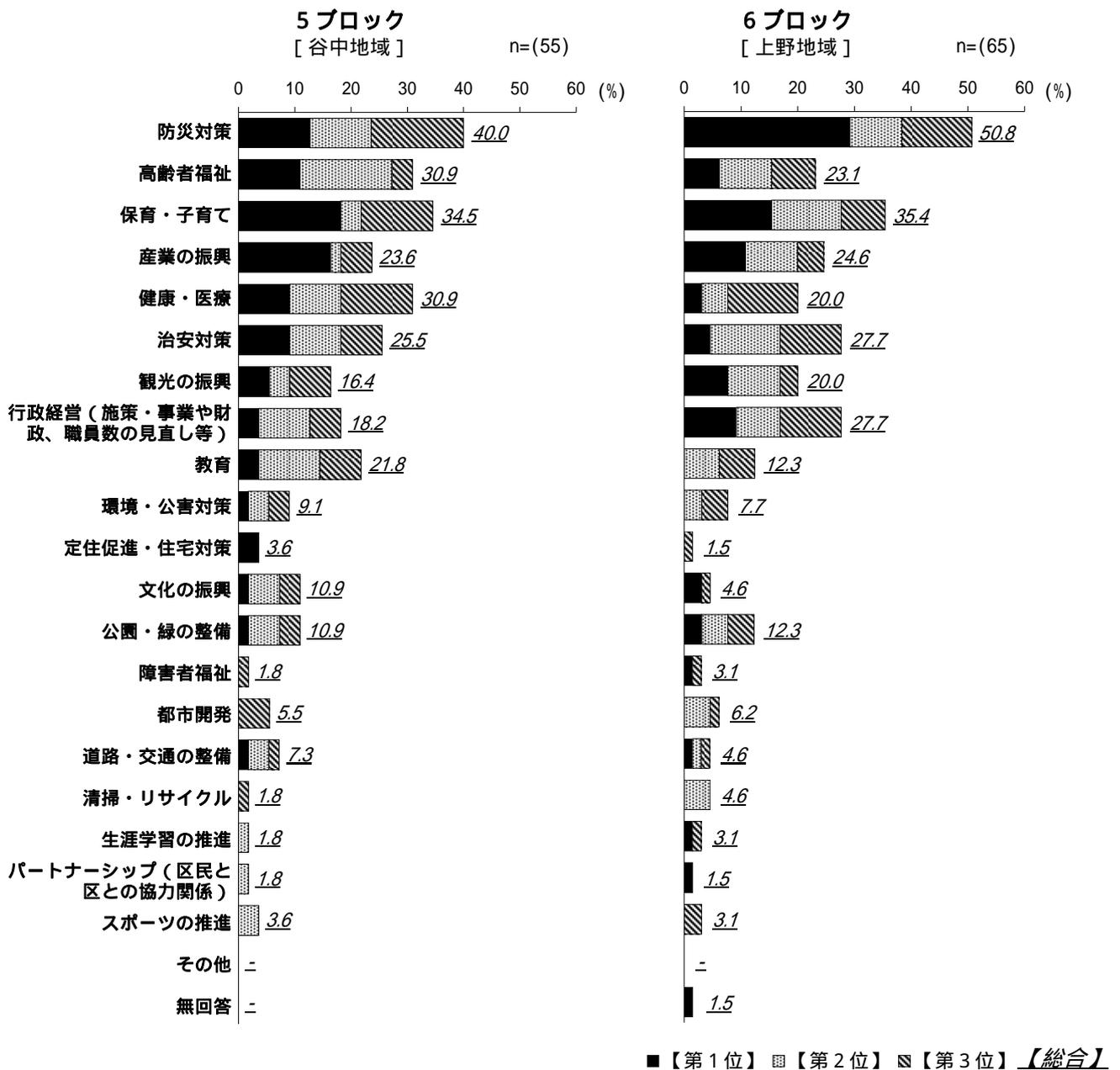


居住地域別でみると、【総合】では、「防災対策」は、6ブロック[上野地域]（50.8%）で5割と最も高くなっている。「高齢者福祉」は、3ブロック[北部地域]（43.9%）で4割台半ばと高くなっている。「保育・子育て」は、1ブロック[南部地域]（36.6%）、6ブロック[上野地域]（35.4%）、5ブロック[谷中地域]（34.5%）で3割台半ばと高くなっている。「健康・医療」は、3ブロック[北部地域]（34.6%）で3割台半ば、5ブロック[谷中地域]（30.9%）で3割と高くなっている。（図表14 - 3）

<図表14 - 3> 今後、区が優先的に力を入れていくべき施策 居住地域別





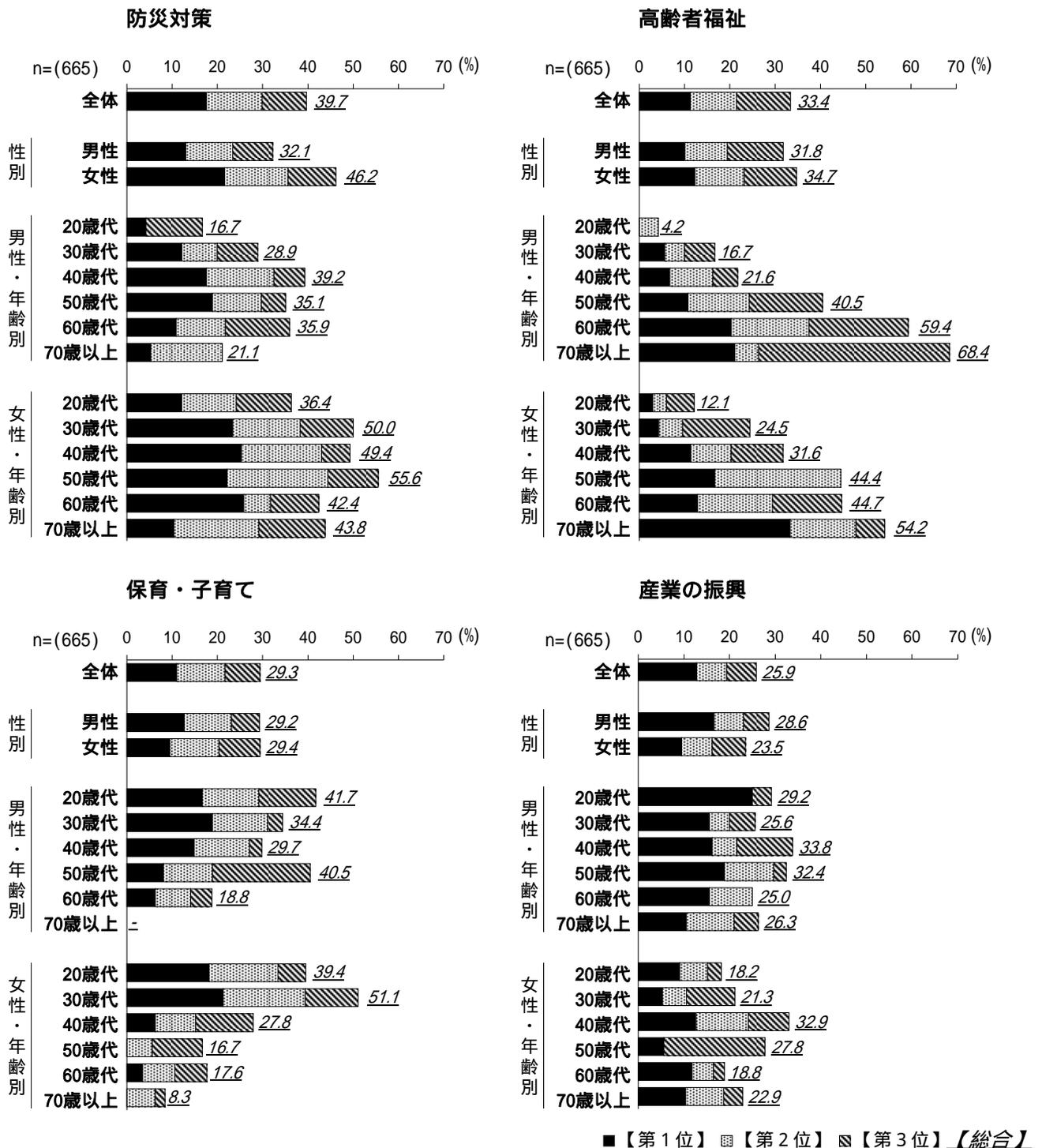


性別でみると、【総合】では、上位6項目のうち「産業の振興」と「健康・医療」を除いて女性の方が男性より高く、特に「防災対策」は女性（46.2%）が男性（32.1%）を14.1ポイント上回っている。

性・年齢別でみると、【総合】では、「防災対策」は女性の30歳代（50.0%）と40歳代（49.4%）で約5割と高くなっている。「高齢者福祉」は、男女ともに年齢が上がるほど増加する傾向にあり、特に男性の60歳代（59.4%）は約6割となっている。「保育・子育て」は、女性の30歳代（51.1%）で5割を超えて最も高く、男性の50歳代（40.5%）と女性の20歳代（39.4%）で4割前後となっている。

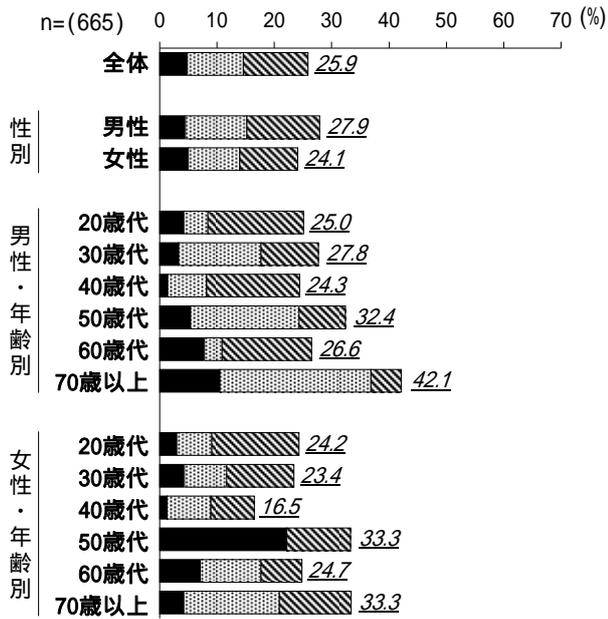
（図表14 - 4）

<図表14 - 4> 今後、区が優先的に力を入れていくべき施策 性別/性・年齢別（上位6項目）

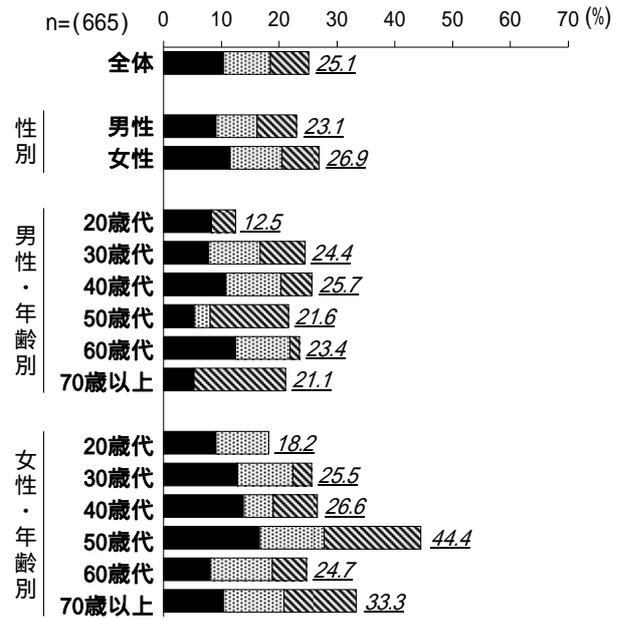


（注）男性の“20歳代”と“70歳以上”、女性の“50歳代”については「n」（該当者数）が少ないため、具体的なコメントは行わず、参考資料とする。

健康・医療



治安対策



■【第1位】 □【第2位】 ▨【第3位】 【総合】

(注) 男性の“20歳代”と“70歳以上”、女性の“50歳代”については「n」(該当者数)が少ないため、具体的なコメントは行わず、参考資料とする。

<図表14 - 5> 今後、区が優先的に力を入れていくべき施策 前回調査との比較

今 回 調 査			順位の 変化	平成22年度		順位の 変化	平成20年度		順位の 変化	平成18年度	
順位	施 策	総合%		順位	総合%		順位	総合%		順位	総合%
1	防災対策	39.7	↗	9	15.8	↘	4	26.9	↗	5	19.3
2	高齢者福祉	33.4	↘	1	39.8		1	43.0		1	40.5
3	保育・子育て	29.3		3	27.5	↗	6	19.5		6	18.4
4	産業の振興	25.9	↗	5	24.9	↗	7	15.0	↘	4	20.8
4	健康・医療	25.9	↘	2	29.7	↗	3	28.6		3	26.9
6	治安対策	25.1	↘	3	27.5	↘	2	34.4		2	28.2
7	観光の振興	19.2		7	18.4	↗	11	12.4		11	12.3
8	行政経営（施策・事業や 財政、職員数の見直し等）	17.7	↘	6	19.5	↘	5	19.9	↗	7	17.9
9	教育	15.0	↘	8	17.3		8	14.6	↗	13	10.6
10	環境・公害対策	9.6	↗	13	8.9	↘	8	14.6	↗	9	16.3
11	定住促進・住宅対策	9.5		11	9.7	↘	10	12.6		10	15.5
12	文化の振興	9.0		12	9.1	↗	13	9.1	↘	8	16.5
13	公園・緑の整備	8.1	↘	10	11.6	↗	12	9.7		12	10.7
14	障害者福祉	6.5		14	7.8		14	8.3		14	9.1
15	都市開発	5.3	↗	16	4.5	↗	18	3.7		18	4.2
16	道路・交通の整備	4.8	↗	17	4.1	↘	15	6.0		15	7.5
17	清掃・リサイクル	4.7	↘	15	6.1	↗	16	5.3		16	6.4
18	生涯学習の推進	2.7	↗	19	2.5	↗	20	2.6	↘	18	4.2
19	パートナーシップ （区民と区との協力関係）	2.6	↗	20	2.0	↘	17	4.1		17	4.4
20	スポーツの推進	1.8	↘	18	2.6	↗	19	3.4	↗	20	3.2

15. 区政や区役所に対する意見・要望（自由意見）

記入率は32.2%

問48 最後に、区政全般について、ご意見、ご要望があればご自由にお書きください。

最後に区に対する意見、要望を自由記入形式で求めたところ、214人（32.2%）の方からの記入がありました。

以下は記入内容を分類し表にまとめたものです。一人で複数の意見を記入している場合は、それぞれ1件として数えているため、延べ件数は392件となります。

いただいた貴重なご意見・ご要望につきましては、調査結果とともに、今後の区政運営の資料として活用させていただきます。

大分類	小分類	件数
産業の振興に関すること	産業	17件
観光の振興に関すること	観光	12件
文化の振興に関すること	文化	17件
まちづくりに関すること	まちづくり	96件
	交通	
	自転車	
	道路	
	住宅	
	駐車場・駐輪場	
	防犯・安全安心	
	景観	
	公園	
地域社会		
防災に関すること	防災	9件
環境対策に関すること	環境	26件
	清掃・リサイクル	
	喫煙	
生涯学習に関すること	生涯学習	8件
健康づくりに関すること	健康・医療	17件
福祉に関すること	福祉	46件
	高齢者福祉	
	障害者福祉	
	ホームレス 生活保護	
子育てに関すること	子育て	35件
教育に関すること	教育	6件
パートナーシップに関すること	区民の行政参加	5件
行政経営に関すること	行政経営	9件
本調査に関すること	本調査	23件
その他区政又は区に関すること	区職員	66件
	広報	
	区政全般	
合計		392件

続いて、各項目ごとに主な意見を紹介します。(寄せられた意見・要望などにつきまして、事実と異なる点や個人的な内容などについては割愛させていただいております。)

産業の振興に関して

【産業】

- ・小零細企業がどんどんなくなっていく。シャッターの閉まっている店舗も増えた。住む人も少なくなった。
- ・区の産業、観光事業の活性化を区がリードして推進し雇用を活性化させ、観光収入で収益を上げ、ひいては区の財政に反映していただけるようお願いします。
- ・個人商店を応援するのは良いが、それ以上に大型店を誘致して欲しい。
- ・中小企業、商店の多いことも特色の一つです。観光客が増えることで二次的に中小企業、商店も必ず上向きになると思います。

観光の振興に関すること

【観光】

- ・当区は他区に比べて道具街、問屋街など様々な特徴があるパーツが集まっているので、そのものを観光資源にするもよし、育成していくのも良いと思います。
- ・浅草の町全体が観光街だと思っていますが、浅草を代表する浅草寺を取り巻く商店街の閉店時間が余りにも早すぎると前々から思っています。
- ・スカイツリーの影響が、よく道を訪ねられます。地図表示のようなものを増やして欲しいです。
- ・観光者(国内、外)向けに台東区全域のパンフレットを作成して欲しい。地図やめぐりんの路線等まとめて一部で載せて欲しい。観光者の行きたい場所を説明するのが大変。外国人向けは特に必要。
- ・芸術の町・上野として、アメ横を台湾の夜市化する、佐竹商店街を第二の巣鴨とするなど、コンセプトで差別化する必要があると思います。
- ・観光=浅草との認識に捕らわれず、区内の他の地区の観光資源を生かして産業雇用の拡大を地道に図るべき。例えば、区内循環バスめぐりんを双方向路線にして路線を拡大し、区内の他の観光資源の回遊性、利便性を高めて欲しい。

文化の振興に関すること

【文化】

- ・旧坂本小学校を現在のように芸術活動やスポーツなどに活用することは良いことだと思うので、是非継続し校舎を残して欲しい。
- ・文化保全も大切ですが、新しい文化の創造もなければ台東区文化は廃れる。楽しければ(わくわくすれば)人は集まる。人の数は力である。文化的な生活を創り出す人が多いほどその町は栄える。

- ・できれば道路に名前を付ける。昔ながらの由緒ある名を借りてもよし、観光客の目印にもなり、そこから歴史が学べる。
- ・台東音頭の普及については、見直しをお願いしたいです。
- ・上野の森エリアには世界レベルでの文化資産が多くある。博物館、美術館、動物園等の運営を、世界の様々な例を研究しながら、もっと訪れる人や地域の人々に魅力的なものにするための援助をすべきである。国内のみならず、世界にPRすべきである。江戸時代、明治時代から受け継いだ資産と文化の深みは、他の自治体にはない宝なので、都と区、民間が連携して優先課題として取り組んで欲しい。

まちづくりに関すること

【まちづくり】

- ・旧上野忍岡高校の跡地を早く活用して欲しいです。
- ・我が家は曾祖父の時からこの町に住んでいて、この町が大好きです。沢山の路地が通っていて交通の便も良く、決して自由が丘や銀座のように小洒落た町ではないですが、少し通りを入ると下町情緒が残る素敵な町だと思います。
- ・浅草橋に住んでいますが、南部地域は何に関しても遅れていると思う。北部に集中していて、いざという時に困ります。折角好きな区、地域なので検討を是非ともお願いします。
- ・上野駅はアトレができて大分おしゃれな感がありますが、駅が古いままなのが残念です。
- ・山谷地区橋場周辺を開発して欲しい。そうしたら台東区のイメージがかなり上がって人口も増えて素晴らしい区になると思います。

【交通】

- ・抜け道として住宅街に進入してくる車を何とかして欲しい。
- ・観光地として人で賑わうが、観光バスや車が交通の妨げとなっている。
- ・上野駅入谷口の下りエスカレーター、鶯谷駅北口のエスカレーターを早く設置して欲しい。
- ・JR浅草橋駅をバリアフリー化して欲しい。重い荷物や小さい子がいると不便。
- ・入谷駅の地下への階段は強風のせいでお年寄りや子どもにとって大変危険を感じる場合があります。もう少し強風が和らぐよう改善していただきたいです。
- ・めぐりんをもっと充実させて欲しい。バスの停留所も遠い上に分かりにくい。区の施設に行く路線を増やして欲しい。
- ・めぐりんの往復運行ができればもっと多くの人利用できる。特に病院に通う人には大変便利です。

【自転車】

- ・自転車専用道路の放置自転車の撤去を（専用道路の意味なし）。

- ・ 最近道路をきれいに整備し、非常に気持ちが良い、通りが美しく見えますが、実際に歩いてみると折角作られている自転車専用道が余り使われていなく、歩道を自転車で通る人たちばかりです。何度もぶつかりそうになり怖い思いもしています。整備するのは良いが、その後の指導がないともったいないと思います。
- ・ 浅草をよく歩きますが、自転車のマナーが良くないと感じます。国際通り沿いの歩道など、猛スピードで歩行者を追い越して行く人も多くいます。下町であると同時に観光地であるという自覚も持つべきだと、自分も含めて感じています。

【道路】

- ・ 道路の整備（道路幅が狭い上、コンクリート部分はガタガタで汚い）。
- ・ 歩道が狭く自転車、シルバーカーも増え、店先での買い物もしづらい。
- ・ 車椅子や杖、ベビーカーの利用者が多いので坂の整備をして欲しい。
- ・ 道路をきれいにしたい。ゴミ、放置自転車、商店街の置き看板や障害物を取り除いて本来の広さで歩けるようにしたい。
- ・ 歩道に植木鉢を沢山並べて、歩くのに困る場所が沢山あります。また、路地を自宅の庭がわりにしている方が沢山おられます。これも指導して欲しいです。
- ・ 電線類地中化のメリットを分かりやすく教えて欲しい。費用の多くかかるものはもっと区民との話し合いや説明が必要だと思います。区で決まったから工事を始め、勝手に進められている感じがすごくします。

【住宅】

- ・ 都営住宅を台東区内にもっと作って欲しい。
- ・ 今、ベッドでの生活をしています。バリアフリー、エレベーターのある都営住宅があれば良いと思っています。
- ・ 子どもが多いので住宅を探すのが困難です。家族で住める一軒家を探してもものすごく高いか、古いからです。古い空き家を耐震改修して貸してもらいたいです。住宅問題のため、他へ引っ越すことも考えています。子ども達が住み続けられるような方法はないか、頭を抱えております。

【駐車場・駐輪場】

- ・ 放置自転車といって持って行きますが、買い物等の際に必要な自転車置き場の増設を求めます。また返還時の移送料の徴収は5000円では古い自転車を引き取りに行かない。2000円くらいが良いと思う。
- ・ 区内に居住の方は駐輪駐車場等に割引または無料があってもよいと考えます。
- ・ 歩道上の障害物が放置されている。店舗には前面道路からの後退を義務付けし、駐輪スペースの確保を図って欲しい。
- ・ 浅草周辺に（駐車場がないためか）大型の観光バス、特に地方ナンバーが、なぜか人を乗せずに同じ所を走っています。色々と考えれば良くないと思うので、無料の大型駐車場を作ってもらえないでしょうか。

- ・ 上野中央通り地下駐車場に、経費をかけ過ぎだと思います。
- ・ 隅田公園自転車駐車場を拡大して下さい。抽選に外れてばかりいます。日頃残業が多く終電帰りも頻繁なため、路線バスも間に合わず、地下駐輪場が閉まっている時もあります。地上の置き場の拡大を切に願います。
- ・ 路肩や色々な場所に自転車を停めている人がいる。駐輪禁止といってすぐに撤去等をする前に、駐輪スペースを確保する必要があると思います。

【防犯・安全安心】

- ・ 治安対策の強化や美化等、安心して住める、観光できる街づくりが重要と思います。
- ・ 観光地としての開発や整備も必要ですが、住民が安心して暮らせる環境づくり、治安を希望します。
- ・ 夜の公園の治安対策を強化していただきたいです。入谷公園は若者が騒いでいることが多いと感じます。
- ・ 繁華街での客引き行為などをもっと取り締まれば観光区としてのイメージもさらに向上するのではないのでしょうか。
- ・ 草花を植えて楽しんでおりますが、毎月のように心ない人により盗まれるので残念です。

【景観】

- ・ マンションの乱立を避けられないのでしょうか。子どもが増えるのは良いことですが、台東区の歴史ある風景が見られなくなっていくのは寂しいです。階数を減らすなど高さ制限も必要ではないかと考えます。
- ・ とにかくマンションが多すぎる。下町の良さを昔は感じられたが、今は無機質になっている。計画的な町づくりをして欲しい。
- ・ 高層ビルを建て、風通しの悪い息苦しい街並みを作り、それが時代・文化の最先端、利益を生むという考えの区政はしないで欲しい。空が広い区になって欲しい。
- ・ 公園、緑の整備と多々出てきていますが、いつの間にか街路樹がなくなり、その後、小さい植物を配しても雑草だらけなのは矛盾している。街を歩いていて並木がないのは、見通しを良くするためでもありましたが、とても心さみしい感じを受ける。

【公園】

- ・ 子どもが遊べる公園が少ない上に汚い（砂にお弁当の残りが捨ててあったりホームレスがいたり）。
- ・ 公園の整備には比較的満足していますが、子ども達が本物の自然に触れられる環境が身近にあったら住み続けたいと思います。
- ・ 最近子ども達(小学生)からボールで遊べないと不満の声を聞きます。運動不足といわれている近頃、どこで体を動かして良いのか分かりません。ボール遊びが可能な公園や運動場を提供して欲しい。
- ・ 区内には芝生の広場が少ないように感じるのもっと増やして欲しい。
- ・ 区内は上野公園もあり、子育てに良いかと思いきや、ホームレスが多く、子どもを思いっきり遊ばせる場所がないと感じる。折角の大きな公園をもっと自然豊かで都会のオアシス的な森にできたらもっと素敵な台東区になると思う。

【地域社会】

- ・それぞれの町会の存在をはっきりさせて、祭やイベントばかりではない活動を推進して欲しい。
- ・単身者が地域と関わりやすい環境づくり。ボランティア、清掃活動の情報発信。
- ・昔ながらの雰囲気などは良いが、県外から引っ越してきた者にとっては地域住民の輪に溶け込むのは難しい。特にマンション住まいだと回覧板などもなく、催し物の日程など何も分からない。もちろん、町内会の事も全く分かりません。
- ・町会単位で配布物を配るのはやめて欲しい。

防災に関すること

【防災】

- ・下町地域は災害に弱いので、不燃化対策等地震に備えた取り組みを重点的に行って欲しい。
- ・備蓄したものがどこにあるのか、現在、量がどの位あるか、その町の人に知らせて欲しい。
- ・万が一地震が来た場合の避難場所やどんな備蓄があるかなど、知らない人が多いように思う。身の回りの安全を守るための避難の方法などをもっと区民に伝えて欲しい。
- ・震災避難場所に隅田公園一帯というのが今ひとつ不安を覚えるのですが、具体的な高い建物とかを定めなくて大丈夫なのでしょうか。多くの人が集まる場所だけに心配です。
- ・首都圏の大震災を想定して、あらためて防災対策を見直して欲しい。例えば避難場所。大震災の時、近所の公園に行ったら人があふれており、道路まで一杯で避難どころか危険でした。第2避難場所の上野公園までは被害が大きければ遠くてたどり着けません。マンションを新築する場所があるなら区が譲り受ける等して避難場所を確保すべきではないでしょうか。

環境対策に関すること

【環境】

- ・とても住みやすいです。ただ、最近マンション建設等が多く、騒音と揺れに困っています。
- ・大通りの車による騒音の緩和（道路に面したベランダは騒音のために開けられない）
- ・浅草は多くの観光客訪れる街ですが、臭いがいつも気になります。
- ・下町に住むのが好きなので20年以上住んでいます。嫌いではないのですが、小汚いイメージがあり、もう少しクリーンな街だったら外からのお客様にも喜ばれるし、我々も住みよいと思います。観光地（上野、浅草）は特に、もう少し何とかなるだろうと思う。
- ・ゴミや臭い等の改善を求めます。町会と共に取り組んで欲しい。

【清掃】

- ・ゴミの不法投棄をなくして欲しい。
- ・生ゴミ処理機を台東区が無料で配布するよう望む。

- ・この頃南の方も住人が多くなってきていると思うのですが（マンションなど増えて）、家の前がゴミの集積所で、ゴミ捨て場になる事がかなりあります。苦情を言っても解決など無理なのでしょうか。
- ・ゴミの減量化のために戸別回収していただけることに感謝申し上げます。更なる減量およびリサイクルの推進をするために、ゴミ分別の細分化につきましても今後ご検討いただければ幸いです。

【喫煙】

- ・区内に喫煙所の設置をもう少し増やして欲しい。
- ・喫煙所以外での路上喫煙をなくすように取り組んで下さい。
- ・歩きタバコや自転車走行中のタバコが多いのでマナーの向上を。
- ・駅周辺の喫煙場所の廃止。設置するなら外に煙が漏れないよう、囲いが必要。狭い歩道や商店街での歩きタバコの取り締まりの強化。子どもにとって危険で、とても害がある。大人にとっても不快。
- ・歩きタバコ、放置自転車（駅前、コンビニ前など）が多すぎる。三社祭の時などはくわえタバコの方が多数見られました。上野、浅草の観光地でこのような人たちがいることはマイナスです。いくら観光に力を入れても街が汚ければただ恥ずかしいだけです。
- ・堂々と歩きタバコをしている人が多い。なぜその方から罰金を取らないのですか。息子がまだ小さかった時、腕を下ろした時のタバコの先が丁度ベビーカーの息子の顔の高さで、いつも危険を感じていました。止めてくださいとはなかなか言いづらいです。区全体で歩きタバコ絶滅して欲しいです。

生涯学習に関すること

【生涯学習】

- ・地域の図書館が充実していない。そして遠い。
- ・中央図書館をよく利用します。ゆっくりと本が読めるように、テーブルを増やして欲しい。
- ・高齢者の趣味ごとに交流できる場所があったら良いと思います。公園での体操には時々参加していますが、何か別のもので集まると楽しいと思います。
- ・上野区民館にある無料のトレーニングルームは本当に助かります。
- ・テニスコートが少ない。
- ・柳北スポーツプラザでも子ども水泳教室をやって欲しい。
- ・公共の施設の利用料（特にプールなどスポーツ施設）を見直して欲しい。

健康づくりに関すること

【健康・医療】

- ・産科、小児科の充実を。
- ・老人の専門病院が少ない。
- ・区民に対する病院の数がやや不足しているように思われる。特に入院可能な病院や救急対応病院は、

台東区に少ないように思われる。

- ・ 区立台東病院は立地的に駅からも遠く、不便。
- ・ 台東病院はよい病院でした。老人保健施設千束もとてもよかったです。規模は小さいように見えました。希望する人が皆利用できる位になればもっと良いと思います。
- ・ 定期的に行われる健康診断、検査などはこれからも充実させて欲しい。とても助かっています。台東区は自営業者が多いと思います。自営業者は社内検診などないので、これからも宜しくお願いします。
- ・ 区健康診断に関し、区外の病院へ通院をしているので、他区と融通・共通化を願います。
- ・ 保健所からの健康診断の案内ですが、がん検診も毎年送っていただけるようになると良いと思います。
- ・ 乳がんは隔年検診を行っていますが、乳がんの検診を受ける年齢を下げるとか、遺伝的要素の強い糖尿病・乳がん検診は近親者に罹患している方がいる場合検診を受けられるようにして欲しいです。
- ・ 子どもだけでもおたふくや水疱瘡などの接種の助成をして欲しい。
- ・ 接骨院の休日診療情報を区報に載せる等して欲しい。
- ・ 保養所の充実。

福祉に関すること

【高齢者福祉】

- ・ 高齢者が増えているので老人ホームなどの施設をもっと増やして欲しい。
- ・ 台東区は高齢者が多い。かつて頑張って区を盛り立てた方々です。感謝で一杯です。その方々を大切に住みよい区にしたい。ホームヘルパーなど増やし、その方々が安心して暮らせる町にしたいです。
- ・ 福祉を充実して欲しい。介護職の人に手当てなどを充実して区の介護職の人を増やして欲しい。施設も増やして欲しい。
- ・ 単身高齢者の医療、介護の充実。
- ・ 生活習慣病や介護が少なくなるような対策はこれからもっと必要になると思う。
- ・ 浅草、上野では保健師による高齢者の健康作りに力を入れていると思います。
- ・ 福祉の取り組みに関して、「 のサービスの充実」、「 の支援の充実」と言うばかりで、具体的な内容が分からない。現場に参加し、デスクを離れて見て下さい。そうすればきっと福祉の取り組みの視点が変るのではないのでしょうか。高齢社会を区民一丸となって支えたいと思っています。

【障害者福祉】

- ・ 旧上野忍岡高校跡地について、障害者のための施設を作って欲しい。
- ・ ハンディのある人への温かい支援と、そのような方がひとりでも良くなっていくよう社会の構築を願います。
- ・ 障害児を持つ親です。台東区北東部地域に住んでいますが、小中学校ともに特別支援学級が北東になく大変不自由です。住民の人口密度は高いはずなのに、何故この地域に支援級を作らないのでしょうか。特に中学は支援級が1つしかないのは親にとっても負担を感じます。

【ホームレス】

- ・ホームレス対策も大事です。自立を支援するような政策をお願いしたいです。
- ・上野公園の不忍池のホームレスやその荷物で道が狭く歩きにくい（不忍通りの公園側）。
- ・通学路にホームレスがおり時々不審者も出没するそうです。早急に改善をお願いしたい。
- ・隅田川の川沿いの歩道からツリーや花壇の花も美しく、散歩にはとても満足していますが、青いテントがとても気になります。折角きれいに作ったのに美化が損なわれるのではないのでしょうか。
- ・道路や公園で酒を飲んだり、寝ている人たちの対策を行って欲しい。子育てをする親として子どもを外で遊ばせるのに不安です。隅田川の川辺で生活している人達（ブルーのテント）の対策を行って欲しい。ダンボールを敷いて寝ている人などが多い。とても散歩できるような環境ではなく、観光客にも印象が悪いと思います。上記のことは私が子どもの頃から30年以上変わっていません。上野公園の噴水を整備するよりも、台東区は子どもの数が少ないのですから、健全な子育て、安全の確保をお願いします。

【生活保護】

- ・生活保護の受給手続きの確認が甘いと思います。
- ・生活保護自立支援などは、ただ与えるだけではなく、簡単な作業から働くことを身に付ける活動をして欲しい。
- ・本当に必要な方に生活保護が行き渡るように、生活保護や障害基準の見直しや有期制にするなどの制限を設ける必要があると思います。若い人には保護でなく、ボランティアの参加や訓練施設での作業などさせる必要があると思います。

子育てに関すること

【子育て】

- ・もう少し保育園の数を増やすことができたら良いと思います。そうすればより住みやすくなるのではないのでしょうか。
- ・待機児童がいる限り施設の対策をとるべき。子ども園など、生まれてくる子どもの数に見合う新年度の入園者数とするべき。3年後などに対策が実行されても、今子育て中の親にとっては遅過ぎます。
- ・最近待機児童が多いので、子育てしやすい環境のために保育園や学童保育の充実を図って欲しい。
- ・保育料が高いので少なくとも3人目からは無料にして下さい。
- ・子どもの医療費無料に対して大変満足しています。子育てしやすいです。
- ・産休、育休以外の就活中の状態でも保育園の申請および入園ができるようにして欲しい。
- ・子どもを連れて遊びに行ける施設が少ないので、どの地域にもあるととっても良い。
- ・区内にキッズカフェのようなものがあるといいと思う。何よりも安心して子育てができるまちづくりにして欲しい。

- ・ほうらい子育てサポートセンターでやっているようないっとき保育を区全体の人が公平に利用できるようにして欲しい。遠方の人は利用しにくい。例えば子ども家庭支援センターなどで預かって欲しい。短時間、たまに預かりを利用したいと思っている人は自分の周囲にも多い。ファミリーサポートセンターよりも、子ども家庭支援センターの方が利用しやすいと思います。
- ・台東区で出産ができる病院が少ないため、他の区へ行って出産している人がとても多い。出産ができる病院や小児科のある病院を増やし、若い人たちが安心して出産、子育てのできる区にして欲しい。
- ・子どもは町の活力です。もっとエネルギー溢れる町にするためには、子どもや若者を惹きつける町づくりをするべき。
- ・子育ての支援がまだまだ不足していると考えます。区内に長く住むか否かは子育て支援にかかっていると考えます。子どもを産みやすく育てやすい環境が必要であると考えます。そうすることで区全体も潤うと考えます。
- ・母子家庭の支援が年々削減されている。手当でも減らされ公共料金の値上げや給料の削減などで苦しい。働き先もなく子どもを預ける先もない弱者にこそ支援が必要。

教育に関すること

【教育】

- ・小学校学区を考え直して欲しい。すごく近くにあるのに遠い小学校の学区だったり、反対のこともあり何だか変な学区分けに感じます。
- ・地方育ちの自分としては子どもの運動能力の成長が心配です。小学校のグラウンドの規模が小さい。伸び伸びと運動ができる小学校のグラウンド整備をお願いしたい。
- ・日本のこれからは子どもの教育をどうするかということが最重要と考える。個々の子どもの能力を伸ばす教育ができることが大切と思う。
- ・小学校が台東区に少ない気がする。

パートナーシップに関すること

【区民の行政参加】

- ・より区民参加型の区民サービス、区による仕組み作りが必要。
- ・区民の活用にもっと積極的に取り組める目的を作るべきです。
- ・より一層住みやすい町にしたいと思っています。一人ひとりが孤立せずにお互い行政にも目を向け、明るい社会にしたいと思います。個人情報に武器にせずもっと心と心のつながりが必要だと思います。
- ・台東区は区も区民も素晴らしいです。連携をとれる台東区、外国からのアクセスの多い台東区だからこそ、リーダーシップを取って23区を引っ張っていける気さえます。他の問題もみんなで考えていける方法はないでしょうか。

行政経営に関すること

【行政経営】

- ・ イベントなどで経費を使いすぎる。
- ・ 国も地方も借入金が沢山あると思う。いろいろな支援も良いが、借入金を少しでも減らすことができないものかと常に考えてしまいます。
- ・ 観光も大事ですが、住民の生活や安全安心を優先とした地域作りが第一義となるべきです。住民税などの税金負担を減らしていかないと親子代々が住み続けることが困難となります。子育てや教育環境の充実を目指しても生活面での住みやすさが基本となると考えます。
- ・ 区役所だけの問題でなく、台東区自体にお金が入らなくなっているし、今後入れるための方法が少なくなっていると思う。それを観光のみで補えることができるとは思えない。観光はとても重要だがそれ以外の方法を本気で探しておかないと数年後は心もとないと思う。健全な子育てができる区民を増やすのも（未来の収入を安定して増やすという意味で）その一つと思う。

本調査に関すること

【本調査】

- ・ この調査協力を機に、台東区の取り組みについて知らなかったことや関心すること、一方で曖昧で分かりづらい施策などもありましたが、台東区の取り組みや努力を少し知ることができ、また興味を持つことができ、嬉しく思います。
- ・ この調査で、あらためて区政について考えるようになりました。普段何気なく過ごしておりますが、これからは、区政に対して他人事ではなく、少しずつ自分なりに考えて行きたいと思いました。
- ・ 台東区の色々な分野の取り組みを知り、まだまだ知らないことが多々あり、回答に迷いました。今回の調査を機に、自分が今度は意見できる人になっていければと思います。
- ・ 普段あまり区政を意識していないので、この調査で区の取り組みを知りました。なので満足か、満足でないかというのもあまり考えたことがありません。普通に暮らしている中で、もっと区の色々な取り組みを区報などで知るのではなく、自分自身が体感できるような取り組み方であって欲しいと思います。
- ・ 今回の調査の意図があまり解りません。委託先も区内だと良いと思います。
- ・ 今回の区民調査などの結果の区民へのフィードバックが必要。
- ・ 常時在宅とは限らないので、調査回収ボックスの設置があっても良いと思います。
- ・ 調査にお金を掛けすぎ。郵送やインターネットを利用した方が良いのではと思いました。人が訪問して回収するという非効率な方法を取っていることから、それが行政の非効率な運営につながっているのではないかと考える。用紙代も無駄。
- ・ 今回の調査で知ること多々あった。区民に活動を浸透する作業、取り組みは困難なことだと思うが、今後も地道に続けて欲しい。

その他区政又は区に関すること

【区職員】

- ・台東区の窓口業務は他の区よりも良いと思う。
- ・何度か区役所に伺ったりお電話で問い合わせを行い、とても良い印象を持ちました。このままの対応を行っていたければとても良いと思っています。
- ・先日、家の前の道路の件について相談したところ、すぐ対応をしていただいたのには感謝の気持ちでいっぱいです。このように今後も何事においてもすぐ行動に移していただければ良いと思っております。この地区に住んで本当によかったですと思います。
- ・職員が怠慢。無駄な人員が多い。リストラなどで苦しんでいる世間とかけ離れている。
- ・公務員は100%公の利益を基に考え、行動しなければならない。
- ・思いやりと優しさを忘れないようにして下さい。
- ・行政職員はクレマーなどの相手をしなければならず、気苦労が多い事と思う。気持ちよく働けるよう職員全員で力を合わせて頑張ってもらいたい。

【広報】

- ・区政の実情、何を行っているのかが明確に分からないので、区政と住民との距離を縮めることが重要だと感じています。
- ・区報がマンネリ化して具体性に欠けます。もっと区民に知らせるべきことを分かりやすくして下さい。
- ・情報を見えやすくすると良い。例：紙（広報誌） スマートフォンサイト、PRで何か活性化できると良い。例：国内向け、海外向け。
- ・とても素晴らしいと思える取り組みも、もう少し様々な形で区民に浸透するように提示・アピールしていくこともまず大切なのではないかと思えます。
- ・台東区は本当に色々努力していると思うが、区民への情報提供の方法に少し工夫が必要かと思う。アンテナを張っていない人にいかにして情報を届け伝えるかが大切だと思う。今後も頑張ってください。
- ・台東区は様々なことに積極的に取り組んでいる、住みやすい街だということは分かっていますが、今回その内容などをあまりに自分が知らないことを知りました。自分でも調べたりしていきます。折角力を入れていることであればもう少し区民にアピールすべきだと思います。
- ・今回の調査により区が様々な取り組みをしていることが分かったが、日常生活では全く気づかない。広報などで告知されているのだろうが、見ないのでもっと魅力的な（読みたくなるような）広報に一新されるといいと思う。取り組みの告知に力を入れていただきたい。
- ・浅草や上野などの観光地を有し、また都心にもアクセスしやすい立地であるが、いまいち利点を生かせていないように感じます。もっと行政の中での得意分野を明確にし、アピールしていくことが台東区の発展につながるのではないのでしょうか。蚤の市やほおずき市など、魅力の多い街ですから。
- ・学校で配られる区からのチラシ、無駄なものが多い。生徒一人ひとりに配布する必要はないと思う。紙の無駄です。
- ・キャラクターの台東くんはすごくいいと思う。
- ・台東区のイメージアップを要望します。本来の浅草の粋や美が出ていない田舎臭い古臭いイメージを出さないで欲しい。

【区政全般】

- ・ 区の施設は月曜日が休みの所が多い。第1週は火曜、第2週は水曜とかいろいろ工夫して欲しい。
- ・ 土日や平日にもう少し遅くまで行政サービスを行って欲しい。働いていると休みをもらって行く形になるのでなかなか行けない。
- ・ 台東区役所がもっときれいになると良いです。働く役所の人々が気持ちよく働ける方が台東区のサービスの向上にもつながると思います。
- ・ 台東区の主要公共施設、区役所の出張所等、北に片寄っていないでしょうか。
- ・ 私が生まれ育ち、子育てをしている大好きな台東区を後世にも愛される台東区であるように、よろしくをお願いします。
- ・ 台東区は家賃や物価が高いので住みたくても住めないという声をよく聞くので対策が必要だと思う。